

2020

一般社団法人 旭川青年会議所
創立60・65・70周年記念誌

感謝

2006



Junior Chamber International Japan
一般社団法人 旭川青年会議所

JCI Creed

ザ クリッド オブ ジュニア チェンバー インターナショナル The Creed of Junior Chamber International

ウィ ビリーヴ
We Believe:

ザッツ フェイス イン ゴッド ギブズ ミー ニン アンド パーパス トゥ ヒューマン ライフ
That faith in God gives meaning and purpose to human life;

ザッツ ザ ブラザーフッドゥ オブ マン トランセンズ ザ サヴァリエンティ オブ ネーションズ
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;

ザッツ エコノミック ジャスティス キャン ベスト ビー ウアン バイ フリー メン スル ー フリー エンタープライズ
That economic justice can best be won by free men through free enterprise;

ザッツ ガ バ メ ン ト シュッドゥ ビー オブ ロウス ラザー ザン オブ メン
That government should be of laws rather than of men;

ザッツ アースズ グレイト トレジャー ライズ イン ヒューマン パーソナリティ アンド
That earth's great treasure lies in human personality; and

ザッツ サービス トゥ ヒューマニティー イズ ザ ベスト ワーク オブ ライフ
That service to humanity is the best work of life.

JCI 綱領 意訳

我々はかく信じる：

真理は人生に意義と目的を与え 人類の同胞愛は国家による統治を超越し

公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ

政府には人治ではなく法治が必要であり

人間の個性はこの世の至宝であり 人類への奉仕が人生最大の使命である

〈1947 年 世界会議総会採択 1951 年 一部追加〉

JCI Mission

トゥー プロバイド ディプロブメント オポチュニティーズ
To provide development opportunities

ザット エンパワー ヤング ピープル トゥー クリエイト ポジティブ チェンジ
that empower young people to create positive change.

JCI ミッション 意訳

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすための発展と成長の機会を提供する

〈2008 年 世界会議総会採択〉

JCI Vision

トゥー ビー ザ リーディング グローバル ネットワーク オブ ヤング アクティブ シチズンズ
To be the leading global network of young active citizens.

JCI ビジョン 意訳

青年会議所が、行動を起こす青年の国際的ネットワークを牽引する

〈2008 年 世界会議総会採択〉

Ⅰ J C 宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

〈2020 年 10 月 第 165 回通常総会決定〉

Ⅰ 綱 領

われわれ J A Y C E E は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

〈1960 年 12 月 総会決定〉

2001 年度～ 2010 年度の旭川 J C 宣言文

新・旭川 J C 宣言

私たちは 2000 年代運動指針として

「次代を担う子どもたちの育成」

「地域社会を支える住民参画システムの構築」

「自身の生活の基盤である企業活動への貢献」

の 3 点を掲げる。

この 10 年間の活動を通じて私たちが目指すものは、地域経済の活性化による
わがまち・あさひかわの発展と教育・環境・国際交流に関する自らの資質の向上である。

私はこの組織の一員として「過去への感謝」と「未来への責任」を自覚し、
互いの友情を尊び、組織の誇りにかけてその実現に向け邁進する。

2011 年度～ 2020 年度の旭川 J C 宣言文

旭川 J C 宣言 夢ビジョン 2010

私たちは 2010 年代運動指針として

『豊かさの探求によるわがまち・あさひかわの発展』を掲げる

この 10 年を通じて私たちは

夢づくり・ひとづくり・地域づくりのリーダーとして

真に豊かな魅力あふれる地域の創造に向けて邁進する

ご挨拶



一般社団法人
旭川青年会議所
第70代理事長

新谷 逸生

戦後の混乱期において、日本の再建は青年の使命であると志を立てた青年が結集し、旭川青年会議所は1950年11月18日、創立総会をもって発足し、翌年1951年2月9日、認証番号7番の青年会議所として、日本青年会議所への正式加入が承認されました。創立70周年の節目を迎えるにあたり、これまで幾重のご縁をいただいた各地青年会議所及び関係各位、そして力強く運動を紡いでこられた先輩諸氏に心より感謝と敬意を申し上げます。

その後、時代の変遷とともに歩みを重ね、いつの時代も課題解決に使命感を持ち、常に未来を見据え進化を続けてきました。2020年は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという未曾有の事態に直面し、人類にとっての歴史的な転換期ともいえる新たな時代を迎えていますが、明るい豊かな社会の創造という理念は半永久的かつ普遍的なものとして現在に至るまでしっかりと根付いています。旭川青年会議所創始の想いを胸に刻み、青年経済人として、郷土愛と未来への情熱を燃やし、今できることを今できるやり方で、多様なパートナーと手を携え、最大限の運動を展開していく所存です。

結びとなりますが、これまで先輩諸氏が築いてこられた輝かしい歴史と伝統をしっかりと継承し、地域のさらなる発展に資する運動に邁進することをお誓い申し上げるとともに、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



旭川青年会議所
シニアクラブ
2020年度 会長

佐々木 通彦

創立70周年おめでとうございます。

全国7番目の青年会議所として1950年に誕生し、70年という旭川JCの歴史を築いてきたその時々のメンバー並びに関係者の皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。

さて、2020年は公益社団法人日本青年会議所 北海道地区協議会第69回北海道地区大会 旭川大会が開催されました。コロナ禍という環境の下、本大会を適応力や柔軟性を持ちYouTube 動画やweb 配信などデジタルの動向に対応した大会を開催したことは、今後の北海道の可能性や発展性を示す機会となり、これからの地域経済に大きく寄与できたと共にこれからの旭川JC運動の道標になることと思います。

また、新型コロナや異常気象と言った様なこれまで私たちが経験したことの無い時代が来ています。JC創始の精神である「奉仕、修練、友情」の三原則を節目である2020年、今一度立ち返ってみることも必要な時と感じています。

最後に旭川JCの益々の活躍に期待致しますと共に関係各位に今後もお力添え賜ります様お願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

目次

JCI Creed・JCI Mission・JCI Vision	1
JC 宣言・綱領	2
旭川 JC 宣言文（2000 年代・2010 年代）	3
ご挨拶	4
目 次	5
歴代理事長とスローガン	6
歴代日本青年会議所三役・会務及び地区協議会三役経験者	8
JCI 旭川の生い立ち、設立趣意書	9
70 年のあゆみ（30 周年記念誌より抜粋）	10
70 年のあゆみ（50・55 周年記念誌より抜粋）	29
70 年のあゆみ（2006 年度～2020 年度）	42
トピックス	72
理事長座談会	73
北海道地区大会の軌跡	78
15 年間の主な事業	93
各周年の記念式典・祝賀会紹介	100
資 料	103

歴代理事長とスローガン

初代、第2代	昭和25、26年度	川島	魁太郎	
第3代	昭和27年度	山崎	与吉	
第4代	昭和28年度	藤井	諄一	
第5代	昭和29年度	松岡	一隆	
第6代	昭和30、31年度	山崎	賢二	青年の力で新しい社会を
第7代	昭和32年度	小泉	涉	世界を結ぶ青年の力
第8代	昭和33年度	森山	元一	若い力で経済建設
第9代	昭和34年度	川島	一泰	JCの力で築こう明るい社会
第10代	昭和35年度	小檜山	亨	JCの一人一人が社会の希望
第11代	昭和36年度	廣野	忠雄	JCは明日の世界の道しるべ
第12代	昭和37年度	能登	正博	経済の正しい成長になえJC
第13代	昭和38年度	多田	一彦	JCの若さで結べ世界は一つ
第14代	昭和39年度	山崎	志良	新時代築く若さと指導力
第15代	昭和40年度	杉野	昭雄	福祉国家創るさきがけ果せJC
第16代	昭和41年度	小河原	辰也	JAYCEEの若さで創ろう明るい未来
第17代	昭和42年度	長沢	節雄	JAYCEEの勇気で築こう正しい社会
第18代	昭和43年度	桜井	良一	日本の正しい行く手しめせJAYCEE
第19代	昭和44年度	荒井	宏	JAYCEEの総意でしめせ日本の姿勢
第20代	昭和45年度	内藤	義弘	豊かな心 厳しい自覚貫け社会の正義
第21代	昭和46年度	山崎	正英	豊かな心 厳しい自覚築こうアジアの連帯感
第22代	昭和47年度	盛永	孝之	考える 行動する若い力が未来をひらく
第23代	昭和48年度	植平	卓夫	若人と創ろう築こう豊かな未来
第24代	昭和49年度	木幡	貢	模索する英知 挑戦する勇氣 若さで担え日本の未来
第25代	昭和50年度	森	康通	人間への期待 明日への行動 創ろう正しい日本の心
第26代	昭和51年度	松井	博通	自立の心 拓こう未来われらの連帯を
第27代	昭和52年度	尾田	一夫	築こう日本の礎 はかろう自治意識の高揚
第28代	昭和53年度	棚橋	正孝	厳しい自覚 明日への飛躍 世界に示そう 日本の心
第29代	昭和54年度	杉尾	伸夫	勇氣ある挑戦 厳しい自覚 世界に翔け 青年の力
第30代	昭和55年度	安住	英也	厳しい自覚 ふれあう心 英知で礎こう豊かな郷土
第31代	昭和56年度	山本	宏	燃える情熱! たかめよう己を(ともに創ろう 誇れる我が郷土)
第32代	昭和57年度	山田	洋	興せ 見直せ 旭川! 果そう 燃やそう 使命と気概!!
第33代	昭和58年度	佐藤	一彦	拓こう俺達のふるさと 今、心に汗を
第34代	昭和59年度	山田	克一	ふるさと 旭川の鼓動 2世紀への息吹 青年の使命萌え燃やせ
第35代	昭和60年度	前田	政克	企業・JC・ふるさと、今! インターアクト
第36代	昭和61年度	金田	英俊	21世紀への挑戦 躍進する旭川 示せ青年の力

※初代～第5代(昭和25年度～29年度)まではスローガン無し
 ※第29代(昭和54年度)までは日本青年会議所のスローガン

第37代	昭和62年度	新 谷 龍一郎	龍頭龍尾 奮い立て地域人! 創ろうふるさと新時代
第38代	昭和63年度	千 葉 新 次	世界に翔けパワフル旭川 - 情熱・行動・創造 -
第39代	平成元年度	柴 原 勝 彦	継往開来 駆けぬけよう 100年トンネル 熱き想いを新大地へ
第40代	平成2年度	田 島 喜 幸	発ち起こせ新気流百光年をひとつ翔び
第41代	平成3年度	生 駒 雅 彦	新JC元年 北海道の心臓「ASAHIKAWA」この胸のときめきを!
第42代	平成4年度	大 橋 一 慶	感動・情熱 旭川の詩 えがけ未来のワンダーランド
第43代	平成5年度	潮 日出夫	グローバル JC44 ハート全開夢無限大! 創ろう次代のメッセージ
第44代	平成6年度	北 野 明 彦	めざせ 未来の ^{アスリート} 能動者 我らがまちの応援団 - さあ、今からキックオフ -
第45代	平成7年度	佐々木 通 彦	Sail for "21" つかい夢をフィールドへ 地球時代の力鼓舞
第46代	平成8年度	櫻 原 克 則	Go for it! 粗にして野でも 卑ではなく
第47代	平成9年度	大 瀧 裕 行	ヒューマニアル JC Let's Begin! 意識・行動・挑戦
第48代	平成10年度	荒 井 保 明	気づこう自分の潜在能力、吹き飛ばそう閉鎖感! ポテンシャル JC "2001"
第49代	平成11年度	江 夏 秀 則	^{しょうぜんけいご} 承前啓後 抱け! 創始の ^{こころ} 精神 奮い立てよ! 変革の ^{アスリート} 能動者パワー
第50代	平成12年度	盛 永 喜 之	伝えよう、大いなる志 つなげよう、明日への思い 今、高らかに 新・旭川JC宣言!!
第51代	平成13年度	高 倉 雄 司	「燃えろ! 旭川JC 創造ろう 21世紀のニューリーダー」 - challenge the Everything いま新世紀の源流とならん -
第52代	平成14年度	川 村 寿 裕	『夢・希望・勇気』 成功への限りなき挑戦!!
第53代	平成15年度	水 野 弘 敏	同志感動～笑顔と感謝を旨に、飛躍前進～
第54代	平成16年度	片 岡 宏 文	さらなる真価! 地域の ^わ 環・ひとの輪・こころの和
第55代	平成17年度	橋 本 毅	JC New Generation! 築け人 地域 組織
第56代	平成18年度	水 上 崇	旭川ルネッサンスの創造、未来への元気発信! ～LOMと地域の元気のために!!～
第57代	平成19年度	前 田 光 理	魅力ある地域を創造するために未来への開拓者とならん オール旭川 Jaycee
第58代	平成20年度	松 倉 智 幸	Fun to Think! 伝染力で抜けよう 明るい地域、ひとつづくり
第59代	平成21年度	石 田 慶 嗣	我行精進～誇りと伝統の継承、そして新たな組織進化へ～
第60代	平成22年度	渡 辺 千 晃	志(士の心)を抱け! 武士道精神で己を高め限界へチャレンジ
第61代	平成23年度	本 間 公 浩	「Let's create the dream」そして、その先にある道程(みち)へ～改革から実行への第一歩～
第62代	平成24年度	嶋 岡 寛 之	Keep our challenges and get the high top 変わらないために変わる、凜然とした誇りある旭川の創造の為に
第63代	平成25年度	近 藤 博 之	夢をかなえる力～ Dream for Asahikawa ～
第64代	平成26年度	牧 原 史 典	勇往邁進～夢あふれる旭川創造に向けて～
第65代	平成27年度	鈴 木 慎 吾	Belief.Action ～夢を信じ行動すること。それをつなぐJCの力～
第66代	平成28年度	石 川 泰 路	Next Stage on the Dreamers ～五年後の未来を描き、踏み出す青年達～
第67代	平成29年度	海老子川 雄介	前 進
第68代	平成30年度	岩 井 隆 行	暁 想像し創造する
第69代	平成31年(令和元年)度	菅 井 謙 敬	楔の心
第70代	令和2年度	新 谷 逸 生	躍動 未来へつなぐ感謝

歴代日本青年会議所三役・会務及び地区協議会三役経験者

日本青年会議所 歴代三役・会務経験者

年 度	役 職	氏 名
1951年	理 事	川島 魁太郎
1951-52年	理 事	川島 魁太郎
1952-53年	地区担当常任理事	山 崎 与 吉
1953-54年	理 事	藤 井 諄 一
1954-55年	地区担当常任理事	藤 井 諄 一
1957年	地区担当常任理事	山 崎 与 吉
1958年	副会頭	山 崎 与 吉
1959年	会務担当理事	藤 井 諄 一
1960年	地区担当常任理事	藤 井 諄 一
1963年	理 事	青 山 正 孝
1969年	地区担当常任理事	長 沢 節 雄
1970年	理 事	松 村 勝 弘

年 度	役 職	氏 名
1971年	地区担当常任理事	内 藤 義 弘
1971年	国家問題室内問題担当理事	木 幡 貢
1972年	理 事	木 幡 貢
1986年	第1研修委員長	新谷 龍一郎
1993年	国際貢献プログラム委員長	生 駒 雅 彦
1997年	地区担当常任理事	潮 日出夫
1998年	海外研修生交流委員長	甲 斐 啓 二
1999年	地区担当常任理事	荒 井 保 明
2000年	副会頭	荒 井 保 明
2000年	日中友好交流委員長	田 中 信 也
2001年	新クロニクル創造会議長	盛 永 喜 之
2002年	会務担当常任理事	盛 永 喜 之

北海道地区協議会 歴代三役経験者

年 度	役 職	氏 名
1957年	会 長	山 崎 与 吉
1960年	会 長	藤 井 諄 一
1965年	副会長	桜 井 良 一
1966年	会 長	杉 野 昭 雄
1967年	副会長	福 井 武
1969年	会 長	長 沢 節 夫
1969年	副会長	内 藤 義 弘
1970年	副会長	松 村 勝 弘
1971年	会 長	内 藤 義 弘
1971年	専務理事	川島 淳久郎
1972年	副会長	木 幡 貢
1976年	副会長	森 康 通
1980年	副会長	大 谷 博
1982年	副会長	仲 山 昭 義
1987年	副会長	金 田 英 俊
1989年	副会長	新谷 龍一郎
1991年	副会長	柴 原 勝 彦

年 度	役 職	氏 名
1992年	副会長	生 駒 雅 彦
1996年	副会長	潮 日出夫
1997年	会 長	潮 日出夫
1997年	運営専務	嶋 村 卓 朗
1998年	副会長	大 瀧 裕 行
1999年	会 長	荒 井 保 明
1999年	運営専務	島 田 光 博
2001年	副会長	江 夏 秀 則
2004年	副会長	藤 田 裕 司
2007年	会務担当副会長	橋 本 毅
2009年	ブロック会長兼会務担当副会長	松 倉 智 幸
2010年	道北エリア担当副会長	石 田 慶 嗣
2012年	道北エリア担当副会長	酒 井 保 則
2013年	ブロック会長兼会務担当副会長	嶋 岡 寛 之
2018年	道北エリア担当副会長	海老子川 雄介
2019年	運営専務	石 川 泰 路
2021年	ブロック会長兼副会長	新 谷 逸 生

Ⅰ JCI 旭川の生い立ち

JCI 旭川は 1950 年 11 月 18 日創立総会をもって発足しました。当時敗戦後の混乱状態に対して、日本の再建はわれわれ青年の使命であると、その責任を痛感し、若さと活動力に富んだ青年の力を集結しようという機運が盛上っていました。折から元旭川商工会議所専務理事大西功氏の提唱により、川島魁太郎氏（初代理事長）他数名が集まり、東京青年会議所の定款を検討し、青年会議所の本質を研究した結果、広く会員を募集しようと新聞広告するなどして、以後 3 回の設立準備会の結果 1950 年 11 月 18 日旭川商工会議所 1 号室において 32 名の会員出席のもとに創立総会を開催するに至りました。ここに初代理事長に川島魁太郎氏が選ばれ JCI 旭川は華々しくスタートし、翌 1951 年 2 月 9 日、日本で 7 番目の青年会議所として JCI 日本に正式加入が承認されました。以来各界より注目される数多くの事業を行ない、1977 年 5 月 23 日には社団法人として認可されました。また JCI 日本等に多数の役員を送り活発なる JC 運動を展開し 2010 年には 60 周年を迎えました。「旭川 JC 宣言」を発信し、その具現化に向かって活動を行い、2020 年にその集大成として、30 年ぶりとなる全道大会を誘致し、第 69 回北海道地区大会旭川大会を主管、実施いたしました。同年には創立 70 周年も迎え、持続可能な地域を創造するために活動しています。

Ⅰ 旭川青年会議所 設立趣意書

万象は歴史を背景として始めて生起するものである。今や新しく生まれ来るべきもの、それは世界恒久の平和への翼求でなくして何であろう。此の来るべき世紀の凱歌こそ、吾等ことごとく戦火の中に吾身を投じ、まさしく盟友の血と肉を糧として自からの世界観を築き獲得したものに外ならない。そしてそこにこそ人類相剋に対する憎悪と平和への切なる願望が培われたのである。此の歴史的成果の帰結するところ、それは国際的認識の昂揚と国際的了解の大いなる前進であらねばならない。経済は人類社会の基盤である。日本の再建亦経済自立の達成なくして考え得べくもない。我国再建のホープたる北海道の中心に位する一大核心都市旭川の経済再建に負う責務は極めて重且大と云わねばならない。然るに今や経済活動の基盤は国際場裡の真只中に於いて考えられねばならない。戦争、孤立と封鎖の数年より一転して正に輝やかなしい自由の胎動を知るのである。自立は孤立に非ずして広い世界の連関性の上に立つものである。先づ眼を開け、心の扉を開けよ。そして青年のみに与えられた純潔と至情を以って互いに団結して相援け相いましめ、限りない知性の向上と徳性の錬磨を図り、将来に於ける指導力の養成に努め、更には発足せる“国際青年会議所”を通じて、青年のこだわりなき広い友情の力を信じ国際親善に寄与することは勿論、郷土産業の振興を枢軸とする国際経済の一環を担当すべく此処に旭川青年会議所を設立せんとす。

1950

昭和25年

天下に誇る——

旭川JC結成の提唱者は語る

旭川商工会議所 名誉副会頭 大西 功

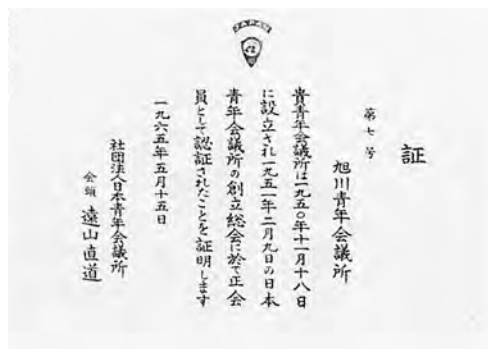
敗戦直後、私は商工会議所の要職にあった為旭川商工界の復興並に国家再建は絶えず念頭からはなれることがなかったわけです。誰しもが考える事は今後の旭川の在り方そして国家民族の消長に関しては勢い好むと好まざるとを問わずヤングパワーに期待し、且つは人材の開発に努力しなければならぬ事を痛感していた次第だ。

しかし在来の青年団あるいは青年会の如き結集体制では魅力を感じられず、私がロータリー再建チャーターメンバーとしての経験から、日本的つながり又は国際的規模のつながりをもった結集体制が必要であるという考えが終始去来しておりました。

幸いなるかな日本商工会議所の諸会合に出席するうちに、私が先に述べた考え方と一致する団体として青年会議所が設立されているということに気がつきました。さっそくその事務局を訪れ色々話し合ううちに結論としてやりましょうということになりました。話の中でやっていただければ設立七番目として認証するということでした。青年会議所をバックアップするという日商の方針と合致することでもあり、帰旭早々発起人会を設け、設立を諸君に提唱したわけです。

即ち旭川の再建復興にはどうしてもヤングパワーの力が必要であり、その練成、教育、修練の場として川島君を初代理事長として広い範囲の階層の若者を結集し昭和25年11月18日、日本で7番目のロムとして旭川青年会議所はスタートした訳です。今や全国650ロムのなかで7番目というすばやい対応を行い得たことはチャーターメンバーの先見性を吾人と共に喜びとするところであり、その後の歴代理事長の結成後のすばらしい運営には感謝申し上げる次第です。又私も会議所の要職上事務局あげて青年会議所の成長に協力してきた。

設立後の青年会議所があっばれ社会開発に着々と成果をあげておりますことは誠に喜ばしいことであります。望むべきことは、諸君らが今後とも青年そのものの若々しい力を発揮し、市政、経済、社会、教育、文化等の各方面に向っての活気縦横な勇氣と情熱的な行動性を具現して貰いたいと強く要望するものです。

旭川青年会議所
設立趣意書

万象は歴史を背景として始めて生起するものである。今や新らしく生れ来るべきもの、それは世界恒久の平和への翼求でなくして何であろう。此の来るべき世紀の凱歌こそ、吾等ごとく戦火の中に吾身を投じ、まさしく盟友の血と肉を糧として自からの世界観を築き獲得したものに外ならない。そしてそこにこそ人類相剋に対する憎悪と平和への切なる願望が培われたのである。此の歴史的成果の帰結するところ、それは国際的認識の昂揚と国際的了解のたいなる前進であらねばならない。経済は人類社会の基盤である。日本の再建亦経済自立の達成なくして考え得べくもない。我国再建のホープたる北海道の中心に位する一大核心都市旭川の経済再建に負う責務は極めて重且大と云わねばならない。然るに今や経済活動の基盤は国際場裡の真只中に於いて考えられねばならない。戦争、孤立と封鎖の数年より一転して正に輝やかしい自由の胎動を知るのである。自立は孤立に非ずして広い世界の連関性の上に立つものである。先づ眼を開け、心の扉を開けよ。そして青年にのみ与えられた純潔と至情を以って互いに団結して相援け相いましめ、限りない知性の向上と徳性の錬磨を図り、将来に於ける指導力の養成に務め、更には発足せる「国際青年会議所」を通じて、青年のこだわりなき広い友情の力を信じ国際親善に寄与することは勿論、郷土産業の振興を枢軸とする国際経済の一環を担当すべく此処に旭川青年会議所を設立せんとす。



1951

昭和26年

愛の募金運動

昭和27年7月15日からの10日間にわたり、「愛の募金運動」が行なわれた。これは育児院や盲啞学校などの施設に対する救済資金を目的としたもので、60余名の会員は一丸となってこの運動に取り組んだ。

連日の猛暑にめげず、商店や会社、工場などをくまなく廻り、運動の趣旨を率直にかつ真摯に訴え続けたのである。その結果、一口100円の募金で、1,216件、263,750円の尊い浄財を得ることが出来たのである。

ところが、われわれの「愛の募金運動」に、共同募金委員会からクレームが入ったのである。その言いぶんの骨子は、「勝手に募金されたのでは、当方の計画に支障をきたすので、集めたお金を委員会に寄せせ。」というものである。

しかし、理事長は憤然として、青年会議所の見解を述べた。「法はともあれ、青年会議所に何の罪があるだろうか。罪があれば、それはその法こそ罰せられるべきではないだろうか。」という名言で、マスコミもこのやりとりをトップ記事で書

きたて、大いに当時の世論を呼びおこした。

勝敗は自ずから明らかであり、青年会議所の主張は市民の共感と支持を得たのである。同時に創立間もない青年会議所の存在をもクローズ・アップさせ、広く市民の間に浸透させた《事件》であった。

そして、この浄財の配分はJ C が独自の立場で行なったのである。なお、この配分については、各施設を訪れ、どうしても欲しいもの、不足しているものを一人一人に尋ねてみて、それを慎重に検討した結果である。

今でも当時の会員にとって、この時の子供たちの歓声や喜びの表情が、耳や眼に鮮やかに残っているのではなかろうか。J C としても、大がかりなボランティア活動は初めてであり、その喜ばしい成果に、会員の感激もまたひとしおであった。

この「愛の募金運動」を通じて、会員の間に“やればやれる”といった、力強い自信と団結心が培われたことは大きな収穫であり、その後の事業や活動を進めるうえでの支えになったのである。



力強い自信と団結心で初のボランティア活動を

For Tomorrow

1952

昭和27年

街をきれいにしましょう

市民と共に歩むJC運動第二弾



冬の長い北海道の人々にとっては、待望久しい雪どけ、さんさんと降りそぐ春の陽光に、街は生き返ったかのように活力を取り戻し、活動を始めます。しかし、雪も消え、草の緑が萌え出しても、街はもうひとつ明るさを取り戻しません。それは長い冬の間に捨てられたゴミが街角にうず高く残り、人々をやりきれない思いにするからです。青年会議所はこのことに着目し、積極的に取り組んだのも、この人々の欲求に応えんがためであった。

しかし、街角のゴミを一掃するといっても、それは並大抵のことではなかった。当時、市内にあるトラックの台数も少なく、旭川青年会議所も出来て日が浅く、2年目にして取り組む事業としては余りにも大きな難かしい事業だったといえる。

だが、まだ青年会議所の何たるかを知らない市民にアピールする良い機会であり、どこまでこうした困難な事業を成し得るか、自分達にとっても良い機会である。

運動のネーミングは当初、“街の清掃美化運動”であったが、お役所的でどうも固苦しく、市民運動としてはどうかと、云ったことから“街をきれいにしましょう”に決定した。われわれの青年会議所運動が、市民と共に歩む運動であることは今日常識となっているが、創立間もないころの事業

にすでにこの感覚があったということは、驚くべきことだといえる。

この運動で最も困難だったことは、ゴミを運搬するトラックの確保であった。なにしろ、当時としては貴重なトラックにゴミを積むとあっては、良い返事をもらえるはずもなく、しかもまったくの無料奉仕であるから拒絶されることが多かった。やっと苦勞に苦勞を重ね、期日までに予定台数を揃えることができ、4月20日から6日間、全メンバーを動員してゴミの処理にあたり路上のゴミの大半を処理するという大成功を収めることが出来たのであった。



この事業は6年間続けられたが、市民への反響も年を追うごとに増え続け同時に「これは、われわれ自分たちのことだ。」という自覚に目ざめ、各町内・各地区ごとに計画、実行されていった。市役所では予算化して機動力や、人員の増強に力を入れる。市民は総出でゴミ運びをやってくれる。雪が消えたら、街をきれいにするんだという気持ちで、市民に定着し習慣になった。

かくして、JCが独自の立場で始めたこの運動が、市民全体の運動になったのである。市の行政に先行したこの事業により、市当局を含めて、市民のJCに対する認識は深まり、評価も極めて高くなったのである。

For Tomorrow

1954

昭和29年

友愛セール

愛から愛
そして大きな愛へ

「愛の募金運動」の成功に伴ない、ようやく青年会議所運動に誇りと自信のようなものが、芽生えて来た。これら慈善運動を通じて、奉仕活動に対するメンバーの関心の高まりから、施設のなかでも特に親のない子供たちを収容している旭川育児院への慰問は、特に熱心な活動のあらわれであった。その年の12月、クリスマス・プレゼントを持って慰問したのを始めとして、以降10数年以上続けられたのである。

しかし、昭和29年になって、ただだんに、青年会議所の予算から寄付金を支出したり、会員のポケットマネーをはいたり、一般市民からの募金に頼ったりするだけでは、若手経済人の集まりである、青年会議所の運動としてはふさわしくないのではないだろうか、また事業を通じて、一人でも多くの市民に、この問題に対する関心を高めなければならないとの結論から、「友愛セール」と銘うって、収益事業を行ない、その益金をもって、各施設への援助をすることになったのである。

ある時は、会場を設営し、婦人団体の協力を得て慈善バザーを、ある時は日用品の巡回販売、映画やコンサートを企画上演し、その切符販売など、自らの労力を提供し、この事業を推進したのである。

「友愛セール」は6年間にわたって実施されたが、「愛の募金運動」を含めた一連の事業は、社会一般が、未だその日の生活に追われ、他を顧みない余裕のなかった時代に実践されただけに、高く評価されてしかるべきであろう。同時に、青年会議所の根底に流れるヒューマニズムは、市民の心を深く捉え、我々JCの運動に対しての理解と共感を市民に与えることに成功したのである。

また、単発的な事業ではなく、継続しつづけたことも、特筆すべきであろう。地道な運動であり、非常に根気の要る運動である。形こそ変われ、現在も継続されている。ユネスコ協会や、青少年団体連絡協議会、ボーイスカウト連盟など、ボランティア活動を行っている諸団体との共同事業も多い。

「ヤング・フォーク・フェスティバル」のよう



なチャリティーコンサートや、「古本市」「がらくた市」のような募金活動、「リトル・リーグ」や「オリエンテーリング」のようなレクリエーション、「まほろば講演会」の啓蒙運動、これらはすべて、この「友愛セール」からの枝葉であるといっても過言ではないだろう。これら一連の事業の根底には、ヒューマニズムが流れており、労力を惜しまぬ奉仕の精神が宿っているのである。

あの、ぼろをまとった時代に、骨身を措かず不幸な人々の為に活動した心が、今、我々青年会議所運動を市民に理解され、「豊かな社会」に住まえる環境の基盤の支えになっているのである。

驕りを戒め、絶えず原点を振り返って、青年会議所運動の着実な展開の道づくりをしなければならない。

For Tomorrow

1957

昭和32年

辺地校助成運動

校舎に灯を、教師に励ましを、児童によるこびを



この運動は、例会スピーチにおいて齊藤一郎氏より、山間辺地の実態についてくわしく話されたことがきっかけとなり、あまりにも悲惨な、暗すぎる辺地の子供たちの実情を耳にして驚き且つ大きく胸をうたれ、何とか出来ないものだろうか、というところから始まったのである。

幾多の難かしい事情が山積しておりわれわれは、まず関係当局での実態調査から始めたが、そこで第一に判ったのは、なんと北海道の52%は辺地だということである。調査が進むにつれ、あまりに厳しい現実に圧倒されてしまった。

例えば、純粋な教育的理念を燃やして、教師が辺地に赴任しても、教材不足や、頼るべき友人・知人もいない。生活にうるおいがなく、土地の封建的空気ともたたかわなければならぬといったことで、情熱はみるみるうちに冷却してしまうといったケースをよく聞く。

この問題は一地区、一地方だけの問題として取り組むには、あまりにも大きすぎるということで、旭川J Cは、これを第2回道北地区青年会議所連絡協議会における「辺地助成決議」として採択せしめたのを手始めに、北海道地区会員大会の決議とし、遂には日本J Cの統一事業として全国各地のJ Cを立ち上げさせることに成功したのである。

特別委員会が設けられ、全国各地の実態をまとめたレポートが次々と流された。そして、それぞれの実情にそった、いろいろな運動が展開された。辺地の学校を訪問して学用品を贈ったり医療班をつくって無料診療を行ったり、慰安会や手紙の交換など、ひたすらこの運動への努力が続けられるようになったのである。

旭川J Cにおいても、この問題を最初に採りあげ、提案し、他に働きかけただけに、「辺地の校舎に灯を、辺地の教師にはげましを、辺地の児童によるこびを」をキャッチフレーズにして積極的な活動が展開されたのは当然であった。

最初に辺地校の実情を聴くということで、占冠中央小学校々長をされていた笠松秀雄氏を招いて、その実情をお話していただいたのを皮切りに、当局者、報道陣などから客観的な状況を聴く機会を何度か持ったのである。

学用品や雑誌を贈るにも、まず基金がなければどうにもならないということで、「辺地教育助成カクテル・パーティ」と銘うったパーティを3回にわたって開催、広く市民にこの問題の重要性を訴え、理解と協力をあおいだのである。

その結果、このパーティは1300余名の市民が参集、益金70余万円を挙げるという、地方J Cのこ

For Tomorrow

1957

昭和32年

ニュージーランドアワード

の種の催しには珍しいほどの成績を収めることが出来た。このほか、友愛セールを実施し、その益金も加えたのである。

まず、辺地の子供達に学習雑誌を贈ろうということになり、当時の小泉理事長が東京小学館に乗り込んでの協力要請が効を奏し、小学館から無料で寄贈を受けることに成功。さらに旭川通運の高松社長の御好意で東京から旭川までの輸送を引き受けていただけることになったのである。こうして、小学1年生から6年生までの月刊雑誌を、上川管内の辺地校50校を選定して、毎月贈ることがスタートしたのである。



この雑誌寄贈によって、辺地の児童から、たくさん感謝の手紙や作文が寄せられ、会員一同深く感激して、次は直接に辺地を慰問しようではないかとの機運が高まってきたのである。

辺地の学校の状況をじかにこの目で見、そして励まそうとこの年の7月、占冠のニニウ小学校を訪れた。聞きしにまさる悪路を難行苦行のすえ、たどりついたニニウ部落は、戸数21戸、児童数は35人で、6年生はたった1人の超ミニ小・中学校であった。授業を参観、医療団による健康診断、教育大仔熊座の人形劇、映画会など、子供たちは驚きと喜びで声すら出で来ない。こうした彼らの新しい体験の反応は、われわれにとっても同時に新鮮であり、筆舌に尽しがたい喜びであった。

このニニウの訪問に引き続き、翌年6月には、上雨紛、富沢、中園の各小学校を訪問し、授業参観、人形劇の後に、学用品、菓子、肝油などをプレゼントして大層喜ばれたのである。

さらにこの助成運動は、こちらから訪問するだけでなく、辺地の子供たちを旭川へ招待して、工場や諸施設の社会見学をさせてあげようと計画、昭和34年7月、辺地校15校から150名の子供たちを、修学旅行の意味を含めて招いたのである。

そして、この機会に引率して来た先生方15名を囲み、報道関係者、教育関係者、民間各界の代表を交えて座談会を開催、この問題に対する市民各層の協力を訴えたのである。

旭川青年会議所は、このような辺地校問題を一人でも多くの市民に訴えるために、いろいろな試みを行なった。例えば、辺地教育に関する論文募集、辺地教育助成に関する懇話会、辺地児童と市内児童とを結ぶ作文交換（いずれも昭和33年）、上川町旭ヶ岡小学校学童の映画招待、江丹別春日小学校へのテレビ贈呈（昭和36年）、辺地と都市が手を結ぶ運動（昭和37年）等々の事業は、そのつどマスコミにも取りあげられ、市民の共感と協力を得ることが出来たのである。



この辺地教育助成運動を全国に先駆けて提唱し、実践し、大きな成果をあげたことは、昭和32年10月、東京で開催された日本青年会議所全国会員大会と、J C I 世界会議で高く評価され、日本J C より表彰、世界大会においてニュージーランド賞を受賞するという栄誉に輝いたのである。これは、旭川青年会議所にとって大きな喜びであった。と同時に、旭川青年会議所の名が全国はおろか、世界にとどろいた画期的な出来事であった。

For Tomorrow

1961

昭和36年

全 国 大 会

1961年8月20・21日の両日を中心として、旭川で画期的大規模な全国会員大会が開催された。広野理事長を中心に会員50余名はその成功に鋭意努力し、集った一千八百余名に旭川の印象を強力に植え付けた。前年度の小松山理事長と藤井地区協会長ら当時の会員の大会誘置運動にかけた情熱も若さならではの青春の一途な現れであり、旭川の心意気を全国に印象づけた。

しかしこの成功の基盤となったのは、創立以来展開した事業が先見性と先取り精神でもって地域社会と密着し且つニーズに合致していた事に在るという点を明記しておかなければならない。会員が商店、会社、家庭を訪問した「愛の募金運動」、街の美化を訴え又自から車輛を運転し実践の中から、現在全国で使われている「街をきれいにしましょう」のスローガン発祥の地は旭川であった。医療奉仕と学用品を中心にした「辺地援助成運動」は広く知られるところとなり、J C 世界大会に於いてニュージーランドアワード賞を受け全国の会員に大きな刺激を与えた。これらの地に足ついた社会開発運動が全国の会員に認識されていた点が大会誘置にまた大きな力となった。



当時の全国大会誘置に立候補した中で、旭川と岐阜が最後まで一歩もひかず結論は日本青年会議所理事会の場に持ち込まれた。多くのエピソード（後述座談会参照）を生みながら幸いにも女神は旭川の上に立った。会場と宿泊設備に不利な面を持ち、更に遠隔地でありながら、先程述べたような地道な事業展開と日本J C への活発な出向の中から芽ばえた人的結がりと大会誘置にかけける不退転の熱意が岐阜有利の予想を覆し成功に導いた。

あの「歴史的籤引き」、^{（じくひき）}「全市冷房完備」、のP R 幕からスタートした大会は、全国の会員に旭川J C の努力を理解させ、又旭川市各界のJ C に対する理解を深める所期の目的は幸いに達せられた。この成功はその後のJ C 運動に大きな弾みをつけるという副産物をも生み出した。

神楽岡公園で行われたアトラクションの熊祭り是非常に象徴的なものであったので紹介しよう。熊祭りが終りに近づいた時、一転にわかに空が雲り雷鳴と共にものすごい雨が降ってきました。熊祭りの尊長があいさつで「熊祭りを行うと雨が降りその年は豊作となる」といったものですから全くその通りになった為参加した全国の会員は大いに感激したものであった。雨が降りだした後の雨ガッパとバスの手配等に示された現役・シニアの素早い対処は、旭川各界の積極的支援と共に旭川の名を高めたといえます。



全市冷房完備……大成功！

For Tomorrow

1964

昭和39年

ナナカマド

ナナカマドの花は本気になって咲きだした

“街をきれいにしましょう運動”が全力を挙げて行なわれていた昭和29年、ゴミを処理するという、どちらかといえば後ろ向きの街の美化から、もう一歩進めて、積極的な美しい快適な街造りをしようという運動の芽が、芽生えていたのである。

この年の5月17日、旭川市の緑化運動を率先提唱し、近文総合グラウンドにナナカマドとプラタナスの植樹がメンバーの手により実施されたのである。さらに翌昭和30年にも、近文公園に植樹が行なわれ、緑豊かな街こそ、旭川の将来目指すべきひとつの大きな道標であり、それを自分たちの手でいつかは市民運動にまで盛りあげていかなければならないとの決意をメンバーが持ったのである。

その後、市の提唱する緑化運動に協力する形で続けられてきたこの運動が昭和39年に爆原の火となって燃えあがったのである。すなわち、“ナナカマドを旭川の象徴に運動”である。官製の旭川市緑化運動では、真の街の緑化は困難であり、街ぐるみ、市民ぐるみの緑化運動でなければならない。そのためには、市民に愛される〈旭川の樹〉として樹種を選定し、それを中心にして緑化を進めようという発想であった。

かくして、市や市民、J Cによりナナカマド推進委員会が結成され、〈旭川の樹〉としてナナカマドが選定されたのである。この姿勢は、生物を市のシンボルに選んで、市民と自然の融合を図り、親近感をもたらす試みの第一歩であり、後に〈市の花〉にツツジ、〈市の鳥〉にキレンジャク、〈市の虫〉にカンタンが選ばれている。

ナナカマドは、夏には緑の葉が風にそよぎ、秋にはキレンジャクが実をついばみに訪れ、冬には真白な雪に赤い実が映えるという、まことに北国にふさわしい樹である。

まず手はじめに、旭川駅やデパートなどに、ナナカマドの大枝を展示、看板に趣旨を書いて設置、市民に強くアピールしたのである。

さて、実際の植樹の段階に入って当惑したのが、苗木の入手であった。植木屋でもそんなに扱っていないような樹であり、近郊の山野に群生しているようなナナカマドである。山から採ってくるしか

仕様があるまい、という結論に達したのである。山にはいくらでもあり、山の持ち主も持っていても良いという。しかし、その方法が問題であった。山へ行き、ナナカマドの根を掘り出し、街まで持ってくる。どう考えてみても、それは自分たちの力だけでは不可能であった。

苦慮しているうちに、自衛隊の協力を得たらという案がでたが、自衛隊もそう簡単には協力してくれるはずもない。そこで、理事長のねばり強い交渉が始まり、やがてそれが実り、遂に自衛隊の全面的協力を得ることに成功し、この懸案の問題は大きく前進したのである。

早速、江丹別の山中からナナカマドを搬出し、翌40年、緑橋通りにナナカマド並木が完成し、さらに旭川青年会議所創立15周年を祝って、駅前にもナナカマドの記念植樹をしたのである。

昭和41年、再び自衛隊の協力を得て、江丹別の山中深く分け入ってナナカマドの根切り作業を行なった。粘土に足をとられ、笹の根につかまり、スコップの先に渾身の力をこめ、額に流れる汗を拭いながら、会員達は人々がナナカマドの樹蔭で憩う姿を想像し、自分たちの労力の持つ価値を考えたのである。

そして昭和42年、旭川において開催された全道会員大会の記念施設の一部として、その年オープンした旭山動物園に、ナナカマドの森を造成し、「J Cの森」として寄贈したのははじめ、市内各所にナナカマドを植樹するなど、このナナカマド運動は継続して実施されたのである。

その後も、J Cの森の補植とか、緑橋通りグリーンベルト並木の手入れとかは、現在に至るまで毎年続けられている。こういった一連の事業を通じて、今やナナカマドは、旭川のシンボルツリーとしての地位を確固たるものにし、旭川青年会議所もまた、「ナナカマドの青年会議所」として、その名を全国に広く知られている。

For Tomorrow

1966

昭和41年

買物公園

マスコミが都市コミュニティへの創造とそのチャレンジ精神を絶賛した、あの買物公園も生まれる芽は、旭川青年会議所の経済活動委員会からといってもよいであろう。

昭和41年に、過去3カ年間にわたる経済活動委の旭川市の卸売業を対象とする、旭川商品市場調査が一応の完結を見ているところから、次に取り組むべき問題として、小売商店街の問題をとりあげたのである。

特に、平和通り商店街は、旭川市の代表的商店街であり、JCメンバーの店も多いということから、当時一部で行なわれていた「平和通り商店街を買物公園商店街化してはどうか」の実現の可能性を追求するために、平和通りの実態および商店街改造に対する意向調査に踏み切ったのである。

この調査の結果は、買物公園調査報告書としてまとめられ、小冊子にして刊行、各方面に配布、大きな関心を集めたのである。このアンケートにより出された結果は、対象となった平和通り商店主の大部分が、買物公園造成については深い関心を示しながらも、商店街の協調性について強い不安を示し、小売商の内蔵する根強い相互不信感が見られたのである。したがって、買物公園実現のためには、土地家屋の所有問題、資金面の調整もさることながら、商店主のこの問題実現の意欲と協調性の確立が最大のネックであることが確認されたのである。

8月2日、東京都都市センターで開催された、旭川市都市整備委員会に出席し、この調査結果を報告、関係者の大きな共感を呼んだ。

8月17日には、経済企画庁の下河辺課長の来旭を仰ぎ、平和通り商店街の商店主たちを交えて、「都市開発の問題点」と題する講演会を開催し、その中で、買物公園構想について、地元商店街の結束の重要性の指摘がなされたのである。

こうしたアンケート調査の実施、講演会、懇談会などを通じて、平和通り商店主の間にも、この問題を真剣に考えてみようとの気運が起り、旭川平和通り商店街振興組合が発足、ひとつの足がかりが生まれたのである。

翌年、今度は消費者サイドからみた買物ということ、再度アンケートを実施したが、この結果、

旭川の消費者は、必ずしも旭川の売小商店街に満足しておらず、なかでも平和通り商店街については、このまま推移すれば、旭川市の中心商店街としての地位を失いかねないほどの傾向が、はっきりと指摘されたのである。

11月27日には、道により実施された旭川市広域商業診断の結果が出て、旭川市広域商業診断実施者との懇談会を開催。翌43年、「繁栄のための旭川商店街の集い」という、商店側との懇談会を再三にわたり実施し、商店街が結束して、その再開発にあたらなければならないことを強く訴え続けたのである。

ようやく、平和通り商店街にも、市当局が中心となって企画を進めている買物公園計画に賛同する気運が強くなってきて、実施にあたる組織が結成され、買物公園の実施が試される運びとなったのである。

そして昭和44年8月、ニューヨーク、東京銀座に先駆けること一年。世界でも初めてといわれる、歩行者天国、買物公園実験が平和通商店街において実施されたのである。

日頃は、自動車が疾駆し、騒音でゆっくり買物を楽しめるような雰囲気ではなかった平和通りが、一夜明ければ、緑があり、噴水があり、ベンチがあり、子供たちの遊戯施設があるといった小公園に生れ変わったのである。歓声をあげてはしゃぎまわる子供たち、それをベンチに腰をおろして見守る若い母親。実験は大成功であった。

青年会議所では、本格造成への資料を得るために、来園者実態調査を実施、この実験への協力の姿勢を取ったのである。もちろん、買物公園実験のイニシアティブは、この時には、市や平和通り商店街に移っていた。しかし、まとまりの悪い商店主たちを根気よく説得し、再三にわたる種々のアンケートを通じ、商店街の危機感に訴え、その必要性を納得せしめ、ついに実験までこぎつけることが出来た、この一連の青年会議所の運動は、きわめて高く評価され、価値あるものとして、旭川市の商業運動の歴史の一頁に、旭川青年会議所の歴史の中に輝き続けるであろう。

ニューヨーク、東京銀座に先駆けて……。

For Tomorrow

1967

昭和42年

姉妹 J C の締結

広がり始めた国際交流

戦後、日本の経済復興と共に、国際社会への復帰がなされ、企業の海外進出、観光旅行など諸外国との交流が盛になると、我々も諸外国との直接の対応を余儀なくされるようになった。個人では、言語、風俗習慣などの違いによって、なかなか溶けこめるものではないが、青年会議所のように目的がはっきりした組織化された団体に於ては、交流も容易である。公的機関での煩わしい手続きもなしに、他国の青年会議所との連携を強化するという、立派な外交の役目も可能である。この潤滑油的な活動が、姉妹都市の締結に、重要な役目を果たしたのである。

アメリカ・イリノイ州のブルームントン市は、隣接のノーマル市と併せ、人口5万人弱の小都市ではあるが、当時学園都市構想を持っていた旭川市が理想とした都市機能を備えた街であった。整備された都市計画に基づく開発が進められたこの小都市は、大学のキャンパス優先ではなく、市民の総意によって、生活に主眼を置いた、つまり「暮らし易さ」を念頭に大学を招へいたのである。ただ単に、「食わんがため」に学園都市にしたのではなく、学生も市民の一人として、構想に含めたのである。学究のはかどる環境を作り、ショッピングセンターを広くとり、官公庁の統括化、住宅街の整理は、人口30万人に増加しても、困らぬ機能を備えている。この点に着眼した旭川市は、幾多の困難を克服し、姉妹都市関係を結ぶことに精力をそそいだのであった。前述の如く、旭川 J C が、民間外交の役割を十二分に果たしたわけであるが、昭和39年より、文書交換により連絡を開始、42年に至って遂に姉妹 J C の締結に成功したのである。

交換留学生や、児童画の交換などを通じ、その国際友情を愈々深めているのであるが、当初の目的を忘れず、お互いの長所を吸収しあって、発展したいものである。

ますます国際化してゆく日本、その実情を踏まえて青年会議所の運動もまた国際的視野に立った展開が必要である。同時に、市民サイドにそった事業を考え、形式のみにとらわれた交流にならぬ

よう配慮せねばならない。

旭川 J C は、韓国馬山 J C との友好関係の進行や、北方領土問題、青年の船による東南アジアとの交流など、取組まねばならない問題を数多く抱えている。重複するようであるが、我々にとって都合の良いものを吸収するばかりではなく、相手にとっても刺激になるものを提供しなければならない。情報化時代は、国際社会を狭くし、異国の問題も自身の問題として捉えるようになった。即ち、我々 J C の L O M の事業すら、国際化の波におおわれているということである。お互いの長所欠点をよく検討し、補足しあう姿勢を保持してこそ、姉妹都市としての価値があり、友好を維持できるのである。

課題は多い。だが、先輩達の努力の結晶を無駄にはすまい。民間外交の道は険しいが、青年会議所の情熱をもってこそ成し遂げられると信ずる。



(写真提供 旭川市市民活動課)

For Tomorrow

1971

昭和46年

医大誘致

市民と共に汗と熱意の誘致運動

旭川に医療設備を持つ大学をというのは、旭川市民のみならず、道北地方住民の長年の悲願であり、旭川に新設大学を誘致するなら医科大学をと、目標は定まっていた。

おりから、国では全国初の単科医科大学を新設する用意があると発表。ただちに、全国各地から候補地が続出、この日から熾烈な誘致合戦が始まったのである。

医大誘致は、この年の市長選でも保革両候補から最大の公約にあげられ、市民の関心はさらに高まった。

しかし、喜びの決定をみるまでには、行政サイドだけではなく、粘り強い市民運動があった。

医大誘致を目指す諸団体は、イデオロギーを超えた統合機関にまとまる必要に迫られ、そのまとめ役には、中立な立場の青年会議所こそふさわしいのではと立候補し、これが認められる。こうして、6月1日以後、J C がリーダーシップをとる国立医大誘致旭川市民会議が結成される。



中心となった作業は、目標、全戸署名という署名運動であった。街頭はいうに及ばず、町内会や企業ぐるみの署名にと、連日東奔西走。J C メンバー全員が、なんらかの形でこの署名運動に参加、J C の意気は燃えに燃え、旭川市民に賛同の嵐を巻き起こす。スローガンは、“あなたの熱意が旭川の未来を創る。”であった。

もうひとつの作業は、各団体からの陳情書及び請願書の集約作業であった。

これらの成果が実り、秋に入ると道レベルでの候補地として、旭川市に選ばれた。道レベルで



のライバル都市は釧路市で、終始、互角だっただけに嬉しい知らせだった。この朗報をステップ台に、いよいよ全国の有力都市を相手に誘致を勝ちとらなくてはならない。

道代表ということで、中央への陳情はパイプが通りやすくなったが、それぞれ特色のある候補地ぞろいで、旭川市は苦戦を強いられた。選考は難航につぐ難航で、旭川市民のやきもきは、年を越すことになる。しかし、年が明けると旭川市民にデッカイお年玉が届く。旭川国立医科大学の誕生が正式に決定！あの汗と熱意の誘致運動は、遂に結実したのだ！

“旭川における市民運動史上空前の成功”と評価された、この誘致運動に見事、リーダーシップを発揮したJ C もまた、その存在を旭川市民に強烈に焼きつけた。またJ C 自身も、全員一丸となって燃えた運動だけに、非常に勉強になった。

地域社会が、今、一番望んでいることを適確に採択して、勇気をもって正しい方向へ導いていくといったJ C の路線は、ますます市民の期待が高まるものと思われる。期待と影響力が高まれば、責任も重くなるが、J C は誘致運動の成功によって、充分その手応えと自信を得たはずである。

For Tomorrow

1972

昭和47年

交通安全キャンペーン

旭川青年会議所はこれまで、さまざまな角度から交通安全運動にたずさわってきたが、モータリゼーションの進行はすさまじく、交通事故も軌を一にして、年々増加の一途をたどり、交通戦争というおぞましい言葉が、マスコミに定着するほど事態は深刻である。ことに、本道は交通事故死全国一という、不名誉な記録ホルダーで、今ひとつ問題の根は深い。

都市問題B委員会としては、交通三悪追放を筆頭に、今年も重点的にドライバーの安全運転のアピールを国道12号線、39号線、40号線、237号線等で展開。

交通安全運動には、今後も決定的な打開策は生まれないであろう。だから、こうした地道な活動が、少しでも交通道德の遵守に結びついてくれたらと願うしだい。

さて、一日ノーカー運動であるが、発想というか、誕生のいきさつは、交通安全運動の一環として八王子J C から始まる。この運動は、あつという間に全国へ広がり、一大ブームを巻き起こす。しかし、当初の懸念どおり永続きせず、いつの間にかうやむやになっていく自治体が、これまた続出していく。車の便利さに慣れきってしまった人々には、一と月の内のわずかな一日ですら、もう手離すのが出来ぬほど意識が変革されてしまっているのだ。はからずも、翌年のオイル・ショックが、車漬け、石油漬けの文明社会の底の浅さを露呈してしまう。

車は、今後もけっしてなくなりはないだろうしその存在価値はだれしも認めるところであるが、ではそれを上手に使いこなしているかという疑問である。人と車、車と社会の調和、これらを考えると、一日ノーカー運動の持つ意義や、果たした役割は大きいものがある。

旭川市のノーカー運動が、正式にとりあげられたのは、昨秋の交通安全運動推進委員会である。その後、各方面からこの運動を誤まりのない方向に、しかも全市的な市民運動として展開するために、J C にイニシアティブをとってほしいと要請を受け、スタートしたのである。ノーカー運動の

むづかしさは、運動の根底に価値感の転換を胚胎しているからに他ならない。

J C ルーム

旭川市勢の拡大に伴い、商工会議所も経済界の中核としての機能向上の為、道北経済センターを建設し、内容を充実させることを決定した。

それに伴い、我々青年会議所も、センター内部に常設の事務局を設置すべく、財源の確保や、資料の整理にかかり、商工会議所や各方面からの多大な協力によって、3FにJ C ルームの設置をみた。

メンバーが多様な業種に互り、年齢、経験、また考え方も様々な中で、J C がその機能を十分発揮する為には、どうしても共通のサロンの保持は不可欠であった。果して、完成と共に、連絡は密となり、併せて、道北ブロック協議会事務局としての機能も発揮され、さらに組織面に於ても、三役の活動は無論のこと、専務理事、事務局や渉外担当理事の連絡も活発になった。後年の社団法人化にあたっては、推進力を十二分に発揮できるものになった。

名実共にその体裁が、万全のものとなったのである。

設立以来、事務処理の能率アップは勿論のこと、各種委員会の会議場として、気軽に立ち寄れる自分達のサロンとして、その機能を果している。

こうした実用的メリットは、メンバーの中に余裕をもたらし、素晴らしいJ C 運動展開の糧になっているといっても、過言ではないだろう。

設立にあたっての、シニアメンバーの努力も又、後輩に活躍の場を与えてくれる思いやりであり、絶えず忘れることなく、感謝しつづけねばならない。

願いはひとつ
人と車と社会の調和

For Tomorrow

1973

昭和48年

献血キャンペーン

この運動でもしも一人の生命が救われているならば……

旭川青年会議所が、最初に献血問題に取り組んだのは、現在の旭川赤十字センターが北海道赤十字血液銀行として、昭和38年1月に開設されたのがきっかけであった。

J C 例会に、当時の直江所長を招き、「血液銀行について」というレクチャーを受けた。講話後、もちろん会員有志による献血が行なわれたのはいうまでもない。

それ以来、例会での献血は続けられるのだが、絶対量の不足もあって J C 内部だけではなく市民レベルまでの運動へと、即ち街頭献血キャンペーンへと拡がっていく。

具体的行動として参加したのは、市民に対する献血の意義を記したチラシの街頭配布や、採血車で街頭献血の呼びかけ等である。

このキャンペーンの成果は徐々に実り、街頭献血の参加者及び献血協力団体数もまた、以前と比べものにならないほど増加した。

しかし、最近の交通事故や労働災害の多発と輸血を必要とする疾病の増加は、医学の進歩とあいまって、ますます多くの、しかも良質な輸血用血液を必要としている。

さらに、医学の進歩により血液の需要は複雑化していく傾向を見せている。血液をそのまま輸血する方法から、患者の必要とする血液の各成分（赤血球、白血球、血清フィブリノーゲンなど）を抽出する方法がそれである。それだけ、新鮮な血液が求められているわけで、事態は深刻である。

血液だけは、親友ですら即座に協力できるものではありません。

このような血液の需給バランスと、輸血体制の円滑化を図る妙案はないだろうか？ 煩雑な手数を無くし、最低一回以上の献血で緊急時に即応でき、しかも電話一本で OK というシステム。献血担当グループのアイデアは、これを十分に満たす“共済献血制度”となって提唱され、ただちに推進されていった。簡単にいえば、血液の保険である。年間数回の献血が保険の掛金に相当し、払い戻し金として緊急時の血液の無料提供を受ける。対象は本人に限らず家庭にも及ぶこととする。

このユニークさを前面に押しだして、J C の献血キャンペーンは第2段階に入ったといえる。共済献血のアピールは、パンフレットやスライド作成へと拍車がかかり、企業訪問献血もこの年、2回行なわれた。企業献血は共済献血の基礎となるだけに、順調なスタートを切ることができた。

そして、これ以下は共済献血のその後を含めた献血に関するトピックスの報告である。

翌年、献血担当グループは、共済献血会の予備登録人員、700名を目標に企業廻りの毎日。この努力の結果、参加企業65社、予備登録人員1,100名を超え、ここに共済献血制度は名実ともに3月1日、開始された。

ところが、残念ながらというよりこれは喜ぶべきことなのだが、法律の改正がこの年にあつて、誰でも無料で輸血を受けることができるようになった。献血の根本思想からいえば当然すぎる帰結であるが、輸血の面では、行政がやっと追いついたといえる。先に残念と述べたのは、共済献血の最大のメリット、「献血すれば、無償で輸血が受けられる」が御破算となってしまうからであるが、この善政に対しては、J C メンバー全員、双手を挙げて賛同するところである。

この朗報と前後して、飛び込んできたのが北海道知事表彰の知らせである。過去6年間の献血運動と昨年より取り組んでいる共済献血制度が、多大の功績として評価され、7月27日の北海道公衆衛生大会において、北海道社会貢献賞を受けた。これら努力の結晶は、さらに翌年の厚生大臣表彰となってあまねく全国に知れわたり、見事実を結ぶのである。

旭川 J C は、コミュニティにおける人間同士の連帯を献血運動で確認しあい、さらにこの授賞をスプリング・ボードとして、力強い継続が展開されてゆくはずである。

For Tomorrow

1974

昭和49年

子供雪あそび大会

冬の風物誌、旭川雪まつりとともにすっかり市民の間にも定着した、J C 主催の子供雪遊び大会は、今年でもう風揚げ大会を含め、10回目を数える。

冬季間はどうしても室内にとじこもりがちな北国の人々の生活、半年近く雪におおわれるハンデをいかに克服し、逆に積極的に生かすかというのが、永年の課題であった。そのひとつの橋頭堡が、雪まつりや冬まつりといったウインター・フェスティバルである。

健康のうえからも、冬の陽光と仲良く握手する必要がある、こうした意味あいからも冬まつりとは別個に、風上げ大会から冬への挑戦をテーマに厳寒の2月にJ C の雪遊び大会は生まれ愛されてきた。

よく“子供は風の子”というが、北国の旭川っ子は、さらに雪の子と加えて形容されるにふさわしい。子供は大人が危惧するほど、身体はひ弱ではない。子供の体温というのは通常、大人より高く、少々の戸外の寒さなど元気に身体を動かしていれば、へっちゃらである。ましてや、子供は遊びの中から、いろいろなことを学習していくものである。冬でも、どんどん外で遊ばせるべきである。

とはいえ、冬の季節に子供たちの遊びが、種類も含めて制限されるのはやむを得ない。しかし、そこはアイデア次第。

これまでの雪遊び大会のメイン・ゲームは風あげ大会であり、白銀の中に舞うカラフルな風は、一幅の絵画ともいえる素晴らしさである。

しかし、風あげ大会は毎年、風に泣かされるのが常で、憎っきは無風状態。こういうのも水をさすのでしょうか？（なにしろ風が吹かなきゃ、桶屋もうからない？）

近年の風ブームにより、参加する子供は年々増え、しかも手作りの素晴らしい風など、ほれぼれするような出来、それが無風のせいで空に勢いよく舞いあがらないのだから、気の毒としかいいようがない。泣く子と無風には勝てぬ。でも、これで手をこまねいては、J C の名前まで泣こうというもの。要は、無風に備えての代替え行事や、ゲ



ームが盛りだくさんあればいいわけで……。

そう、何事もアイデア次第で、ソリ大会（リュージュ）、ミニスキー大会、雪上綱引き、模型ヒコキ大会、雪上騎馬戦、ミニ雪像コンクールetc。石狩川の河川敷きを利用したゲームだけでも、このぐらいは可能である。また、氷のリンクが必要になるが、カナダで盛んなカーリングという競技など非常におもしろそうである。

風揚げに始まった子供雪遊び大会は、自衛隊、ユースホステル協会の協賛をえて内容を充実させ、雪と寒さへの子供達の恒例の行事となった。

四年前から、子供雪遊び大会は、冬まつり実行委員会の要請を受け冬まつり主会場に場所を移し市民交流委員会の主要事業として移され、旭川の風の子・雪の子達にもっともっと愛されるよう、パワー・アップ冬まつり会場にかかせぬ行事となった。これからも、乞う御期待！

外へ飛び出せ、寒さと遊ぼう旭川っ子！

For Tomorrow

1975

昭和50年

教育シリーズ

旭川JCに教育を専門とする委員会が設置されて、既に6年が経過した。市民の教育への期待と関心の嵩まりの中で、着実にその活動は成果を挙げてきた。「明るく豊かな社会」の実現の為に是非共必要な人間造り。この最も難かしい問題に取り組み、障害と挫折の中で、我々メンバー自体も「何か」を得たに違いない。GNPの増大とは裏腹に、教育の質的低下が叫ばれて久しい。

何の為に教育するのか。人は教育というソフトウェアに身を包み、自身を守って来た。普段、教育の心要性を感じなくなっている我々の怠慢な気持ちこそが、社会の崩壊—それも自身の内部からの一につながっているのである。'75年に委員会の設置をみる以前からも、教育に関するテーマはたびたび取り上げられてはいた。辺地校助成運動や、子供雪遊び大会などに端的に示される活動は、それなりの成果は果した。しかし、専門の委員会の設置によって、それらが相乗的効果をあげるようになれば、より社会に対する貢献度は高いものになる筈である。

教育を真正面から捉える。その重要性を認識し、教育の位置づけを旭川JC内部に確固たるものとして、教育シリーズが始まった。



「教育はみんなのもの」では、一連の講演会を市民もまじえて開催し、大成功を納めた。村松喬氏をはじめとし、依藤子氏、さらには紅林晃氏と一流のゲストを呼んだこのシリーズは、教育に関



心の薄い層に改めて重要性を再認識せしめ、次代を担う若者達に、社会や家庭における「協調」の精神を植えつけることに成功した。PTAとの話し合い、教師との討論会も、疎遠になりがちな教育の場とのふれあいとなり、後記のJC運動に対する協力と理解が深まる結果にもなった。

オリエンテーリング、リトルリーグ、国際児童年行事の成功は、これら一連の教育活動の成果といっても過言ではないだろう。

地道ではあるが、やがて美しい開花を望まんが為、黙々と耕しつづけなければならない。

畑は無限に広い。だが努力しよう、明日の人間づくりをめざして！

ヒトプラス 教育イコール人間

For Tomorrow

1976

昭和51年

全道大会

きびしい社会 挑もう われら北の若人

静まりかえった場内、いよいよ旭川J Cメンバーが待ちこがれた全道大会が、幕をあげようとしている。緊張を和らげるようなギターの音が響き、寂然としたテーマ曲が颯爽と流れてゆく。場内の同朋たちは、一瞬息を呑み、そしてこの爽やかなオープニングに、だれひとり惜しめない万雷の拍手。

この序盤の数分間の短かい演出のために、どれほどの労力と時間を費したことだろう。でも、その苦労は報われ、メンバーひとりひとりの胸に熱いものがこみあげる。



いつも心に太陽を抱きながら
北の若人たちは 自分の道を行く
汗と涙の人生に 挑む君
熱い命のある限り
試練の道を行く
ふるさと 緑の大地
はるかな 田園風景
汗にまみれて 歩む君
ふるさとの若人よ
ふるさとの若人よ

J Cの精神と郷土愛を盛りこんだテーマ・ソングは続く。流麗なオーケストレーション。新しい時代の幕開けにふさわしい、荘厳さに満ちた開会式である。

旭川J Cの全道大会の主管は、昭和41年、第16回大会以来、9年ぶりである。この四半世紀の間にも、全道の青年会議所は発展、拡大し続け、46 L O M・3600名の大世帯に成長。この大会を大きな区切りとして、基礎固めの出来た青年会議所は、次なる四半世紀に向かって歩み始めたといえる。

なお、この大会で特記すべきは、3年計画の最終年である「クリーン・ナップ・キャンペーン」の締めくくりとして、大会最終日の朝、早起きして多数のメンバーが、駅前から7条緑道を経て、常盤公園まで清掃の奉仕を行なったことである。全道のJ C間に広く浸透した「クリーン・ナップ・キャンペーン」の精神は、以前に旭川J Cが提唱した「街をきれいにしましょう運動」と一脈通じるものがあり、因縁めいたものを感じます。早朝起きをお願いした旭川J C一同は、各L O Mの参加者諸君に深く感謝の意を表するしだいです。

こんな、爽やかな想い出を残してくれた全道会員の応援のもとに、閉会式の“さようなら旭川”も成功裡に終えることが出来たのである。



For Tomorrow

1977

昭和52年

オリエンテーリング

街をすて、夢は野山を駆けめぐる

数年前より、オリエンテーリング及び略称のOLという耳慣れない言葉が、マスコミに頻繁にとりあげられるようになり、その何たるかが、徐々に知られることとなり、JC 内部でもその趣旨に参同するシンパが増えていった。

ここで、簡略にオリエンテーリング（以下略称のOLを使用）を説明したい。発祥地は19世紀中葉の北欧諸国で、OLは、自然の山野を地図と磁石を用いて、主催者が示した方法で指示された地点を発見・通過し、できるだけ短時間でゴールするスポーツ。

いわば、宝探しのようなファンタスティックな性格を持っており、加えて自然の中で体力と知力を競い合うというハイ・ブローなスポーツである。とはいえ、自分に合ったコースの選択により、老若男女、万人の参加が可能である。発祥地の北欧に似て、夏の短い（日照時間の少ない）北海道向きのスポーツといえる。

ところで、正式な競技にはパーマネントコースという、常設コースが必要なのだが、（本道には、札幌の滝野及び西野の両10キロコースのみ）パーマネントコース設定への過程として、とにかく広く市民を対象としたOL大会を開くことが先決と、教育大学の今村源吉先生及びユースホステル協会、オリエンテーリングクラブの協力を得ながら、その研究と準備がなされた。

大会当日である6月19日までに紆余曲折はあったが、とにかく主催者も参加者もほとんど初体験といい、第1回のOL大会がついに伊の沢で開かれた。屋外事業の最大の心配のタネ、天候も前日の雨にショックをうけつつも、当日は祈りが通じてか、夜来の雨はあがり、多少のぬかるみは目立つものの、曇り空なのでゴー・サインが出る。

当日は400名以上という多くの参加者数に加えて、しかも家族参加というケースも見られ、主催者の狙いはピタリの中、OL大会というものが、いかに準備に手間どるか、備品の調達ひとつをとっても、大変な苦労だったが、参加者のルール説明を聞くときの期待にふるえた顔を見ると、その苦労すら消しとんでしまうほど嬉しかったと述懐しておきたい。

競技は9時にスタートして、2時過ぎには、一つの事故、一人の脱落者ともなく無事終えることができた。

こうして、OL大会も3年継続した79年、これらの成果と反省をふまえて、暫定的にはあるが、伊の沢に待望のパーマネントコースが誕生したが、OLが旭川市民に愛され、そして定着するのはこれからだろう。このパーマネントコースがその重責を果たしてくれるものと確信している。

社団法人化

J Cメンバーの胸の内にいつかはと、秘かに期するところがあった“社団法人化の実現”が、この年のハイライトであろう。というよりも、JCの歴史においても一区切りをつける意義深いことである。

長年の懸案事項である法人化は、年頭の理事長方針により、申請への準備委がスタート、直ちに設立発起人理事会で20名が指名され、以後中心となる。

定款等の事前調査、申請書の提出と連日のペーパー・チェイス。窓口の北海道庁商工観光部とは、すっかりもう顔なじみ(?)。

設立認可の告示を受けたのは、5月23日。そして、6月4日には法務局で登記完了。関係各位の御披露目、社団法人設立祝賀会は6月7日、来賓、先輩諸氏の多数の参加を得て盛会の内に終始した。旭川青年会議所は、一廻り大きくなって、第二の航海をこの日から出航したといえる。

J C運動がJ C内部だけに留まることが評されずらくなった今日、逆に対外的に他団体及び行政等との拘りを深めてこそ活動の質を高める今日、ハードな面のJ Cルーム設置と並びソフト面で社団法人化は一層活動のスピードアップに拍車をかけ、その基礎を築き上げた。

この基礎を踏まえ青年としての夢と情熱をかけるにふさわしいテーマを選び、J C運動として美しい花を開かせるのが現役メンバーの責務といえましょう。

For Tomorrow

1978

昭和53年

リトルリーグ創設

白球に熱い思いのたけをぶっつけろ！

少年スポーツの人気は、メキシコ・オリンピックの銅メダル獲得後、サッカーに一時奪われたが、昔も今も少年スポーツの王者は野球であろう。

もう戦後だけでも何度目かの野球ブームは、「一億総野球」とも呼べるぐらいのフィーバーぶり。もっとも、昨今の過熱ぶりは、見るのはプロ野球より高校野球、やるのは草野球オンリーというのが、そのブームの実態かもしれないが……。

それはともかく、これほど野球が支持されるには、それなりの必要十分条件が考えられる。

- 手軽にできる大衆性がある。
(普遍性)
- 近代的なスマートさを備えている。
(カッコよさ)
- ルールに適度な複雑さを持っている。
(知的要求とドラマの意外性)
- スーパースターが出ること
(ヒーロー願望)

これらの諸要素があいまって、根強く支持されてきたのではあるまいか。

ふりかえれば、J Cメンバーの多くは、大なり小なり、少年時代に白球に熱い思いのたけをぶつけてきた世代といえる。それが例え、草っ原の三角ベースであろうと、そして夕暮れのもう人影がおぼろになっても走りまわったあの日々—ああ、チームワークという言葉とその実感を初めて教えてくれたスポーツは、たしかに野球だった。

それゆえ、その素晴らしさを、次代の少年たちにも享受してもらいたいという願いも、せつないまでに純朴といえる。

さて、その“受け継ぎ”には、いろいろな形態があって当然だが、J Cが選んだのはリトル・リーグである。リトルリーグは全国規模の立派な少年野球組織で、全国代表に選ばれると、世界選手権という大舞台も用意されている。年齢制限があり、硬式野球だけにチーム内の規律は、想像以上にきびしい。リトルリーグを単なる野球技術の取得の場としてではなく、野球を通じて少年の社会教育・人間形成の場として促えてほしいと念じている。この主旨にそって団体生活の規律、ひいて



は友情、信頼、協調心、礼儀などが以前にも増して、育くまれてゆくものと期待される。ときにはチームワークという大前提に自己犠牲というつらさと喜びを知るかもしれない。これらの体験が、社会でも健全な大人へと成長させてくれるはずである。

そんな熱い期待が込められた入団テストが2月に行なわれ、その結果、66名が合格。5月、市営球場での結成記念大会でいよいよスタート。7月には、日本選手権道予選に出場と早くも意欲的。秋の新人戦では、気力充実優秀な成績を収め、今後の期待を抱かせてくれた。

もっとも、こうした勝敗は二の次で、当初の眼目どおり、団体生活における友情や、根性、決断力などが初年度で早くも飛躍的に伸び、関係者および父兄とも喜んでいいる。

さらに翌年、姉妹都市交流の縁から、親善米国遠征に赴き、好成績を挙げたことは市民の記憶にも新しい。益々の発展を期待してやまぬものである。

For Tomorrow

1979

昭和54年

国際児童年

わが子への愛を世界のどの子にも

70年代の掉尾を飾る79年は、国際児童年であり、旭川JCも青少年開発委員会を中心に多年の青少年活動の集大成を期すべく、季節ごとに盛りだくさんの行動と事業を計画、そして実行していった。

まず、子供の日に旭山動物園にて、ガールスカウト、緑の少年団が中心となって記念植樹。風雪に強い北国の樹、オンコの樹50本である。

次いで6月には、現代っ子達に忘れられている手づくりの竹馬、独楽廻しなど創意、工夫のいる遊びを紹介する催しが開かれた。これら、日本古来の伝承遊びも捨てたものではなく、予想外の反響をうけた。この日に限らず、親が子供時代に親しんだ遊びを子供達に伝承するのは、親子のふれあいを確めあえる絶好のチャンスともいえる。よく、鉛筆を小刀で削れない子供が多いと聞くが、これは規格品の玩具ばかり与え続けた大人達の責任かもしれない。



夏休みには、レクリエーションの決定版、神楽岡公園でサマーキャンプがひらかれた。サイクリング、オリエンテーリングなども併せて行なわれ、ことに魚つかみどりゲームは大好評で今さらながら、夏の水遊びは子供達にとって、最高のレジャーであることを再確認。川の水遊びは、危険が伴

なうが、しっかりした安全対策がこうじられた楽しいプランがもっと考えられていい。この日見た白昼夢は、クリーンキャンペーンでふるさとの川に鮭が朔り、それを手づかみでとれるようになったら……。川の町、旭川。ふるさとの川はぜひともきれいにしたいものである。

秋は、市民文化会館で「親と子のつどい」を開催。子供達の情操教育の一助にと、見て聞いて、参加する各種コーナーを設け、おおいに利用してもらう。ホールでは、無着成恭先生の記念講演「親ってなあに」が、ユーモアたっぷりに現代の親の教育の盲点をつき、共感の拍手を沿びていました。子供に対しての親の理解を深めるまたとない講演であった。

どの親でもわが子は可愛い。その気持ちを今ひとつつ上げた“わが子への愛を世界のどの子にも”というスローガン、いってみれば、『全地球一家族』というグローバルな愛の提唱は、この一年間、深く理解されたのではないだろうか。次代をになう子供達に、より良い環境で、条件でバトンを渡したいと私達は国際児童年を契機に約束したい。

For Tomorrow

1980

昭和55年



スローガン

厳しい自覚 ふれあう心

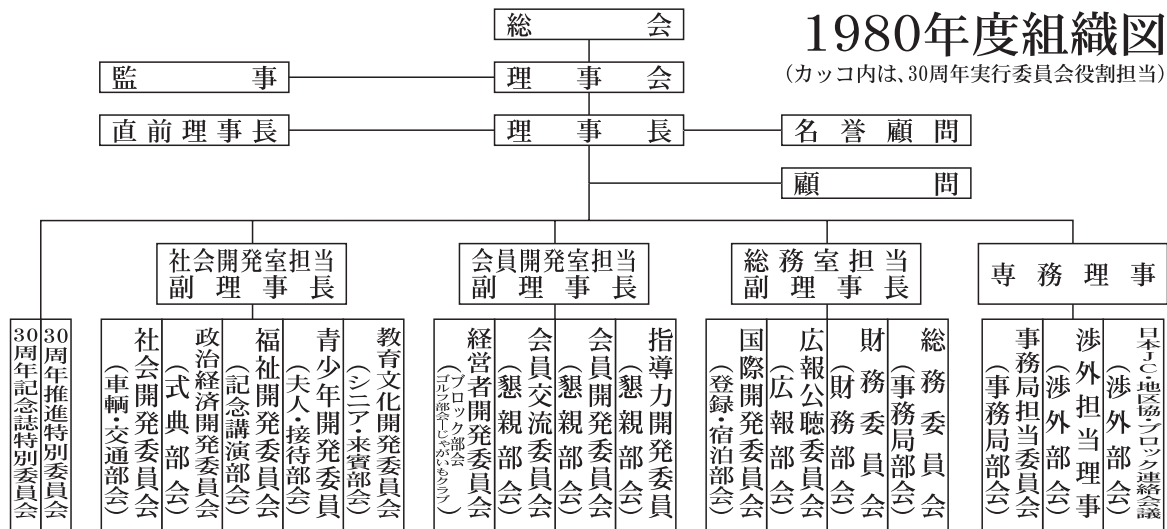
英知で礎こう豊かな郷土

理事長名 安 住 英 也

会 員 数 167名

新会員の同期会の名前（会員名） ゴーゴー会

卒業生の会の名前（会員名）



1981

昭和56年



スローガン

燃える情熱！ たかめよう己れを

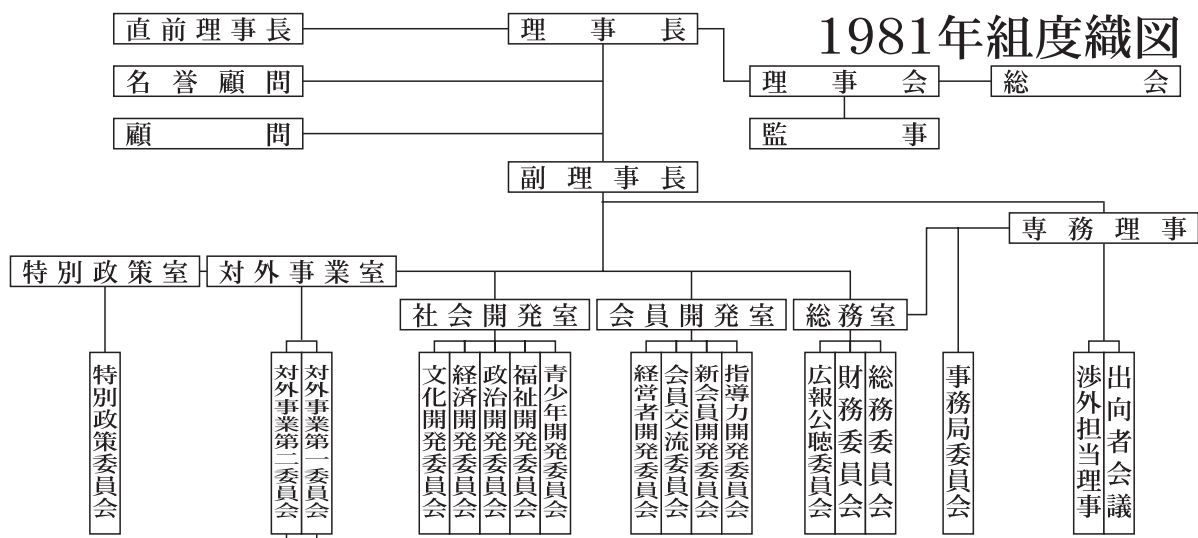
(ともに創ろう 誇れる我が郷土)

理事長名 山 本 宏

会 員 数 183名

新会員の同期会の名前（会員名） ゴロッキ会

卒業生の会の名前（会員名） 巳道会



1982

昭和57年



スローガン

興せ 見直せ 旭川！

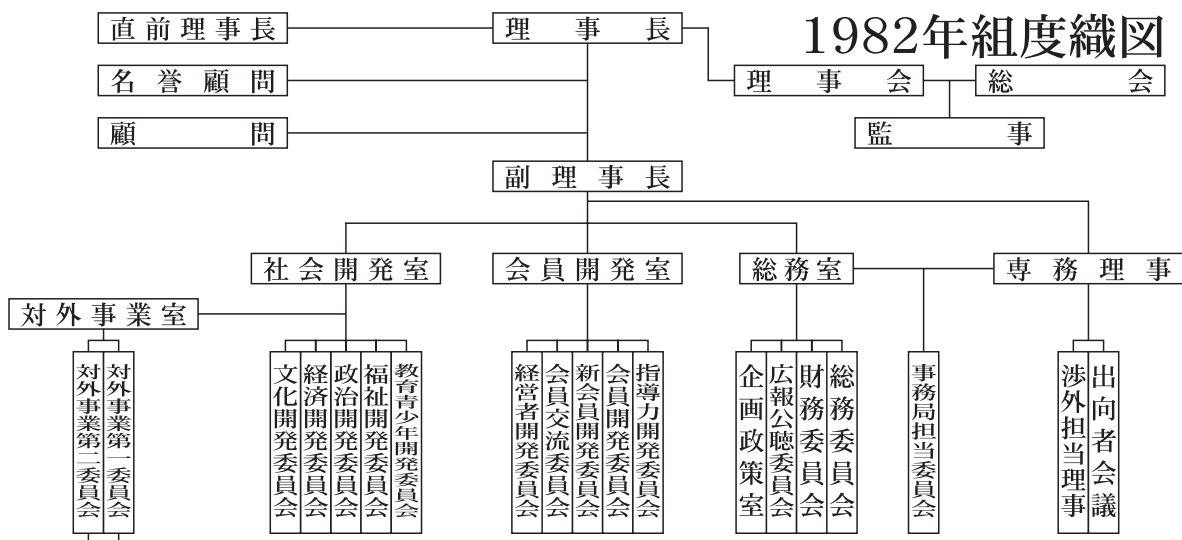
果そう 燃やそう 使命と気概!!

理事長名 山 田 洋

会 員 数 190名

新会員の同期会の名前（会員名） ニコニコ会

卒業生の会の名前（会員名）



1983

昭和58年



スローガン

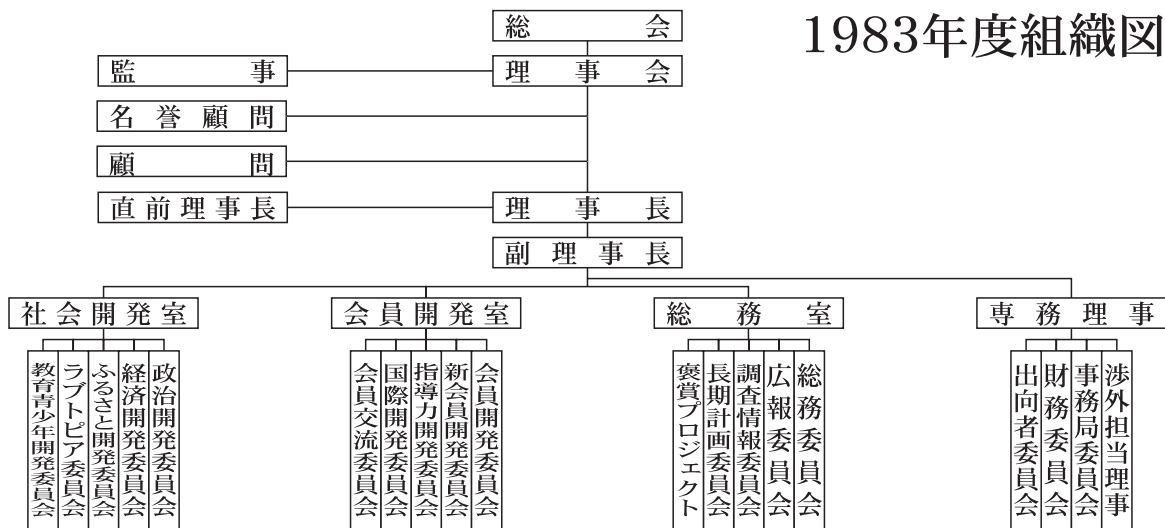
拓こう俺達のふるさと
今、心に汗を

理事長名 佐 藤 一 彦

会 員 数 186名

新会員の同期会の名前（会員名）

卒業生の会の名前（会員名） 馬なみ会



1984

昭和59年

スローガン
ふるさと

旭川の鼓動 2世紀への息吹

青年の使命 萌え燃やせ

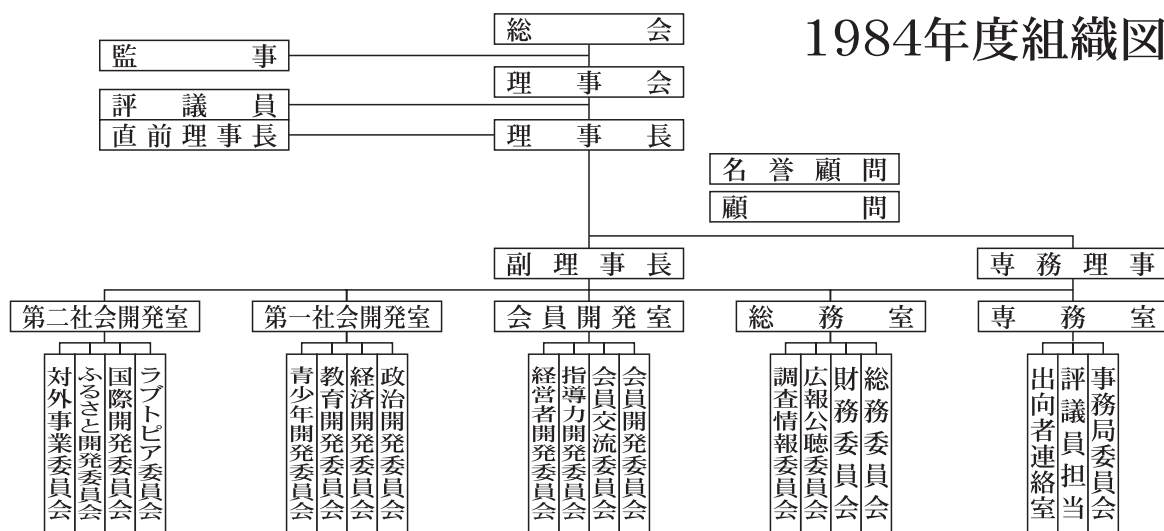
理事長名 山田 克一

会 員 数 178名

新会員の同期会の名前（会員名） どぶねずみ会

卒業生の会の名前（会員名） 我ら一九申会

1984年度組織図



1985

昭和60年



スローガン

企業・J C・ふるさと、

今！インターアクト

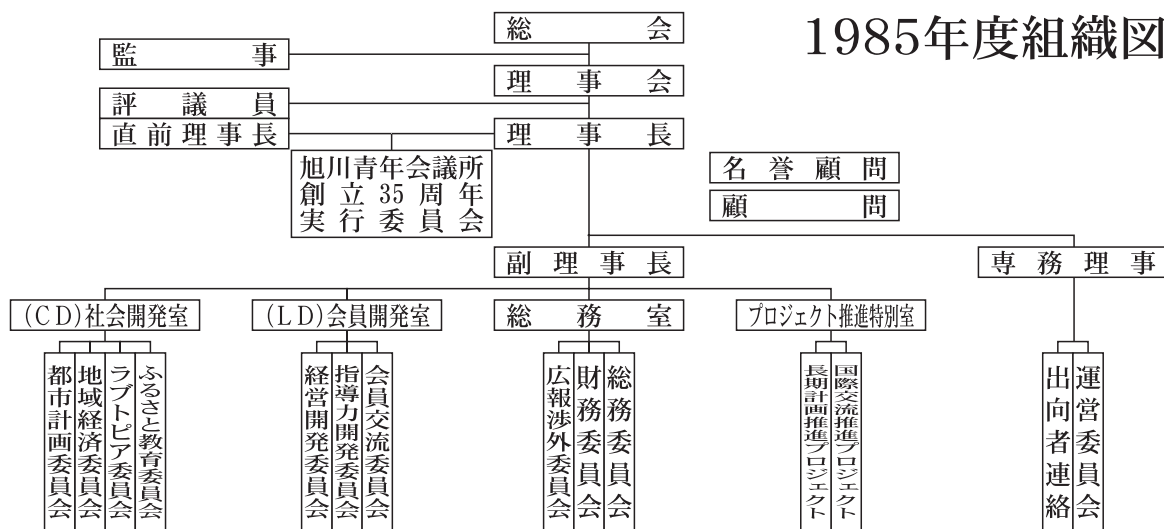
理事長名 前田 政 克

会 員 数 175名

新会員の同期会の名前（会員名） 六〇会

卒業生の会の名前（会員名） J Cさるの会

1985年度組織図



1986

昭和61年



スローガン

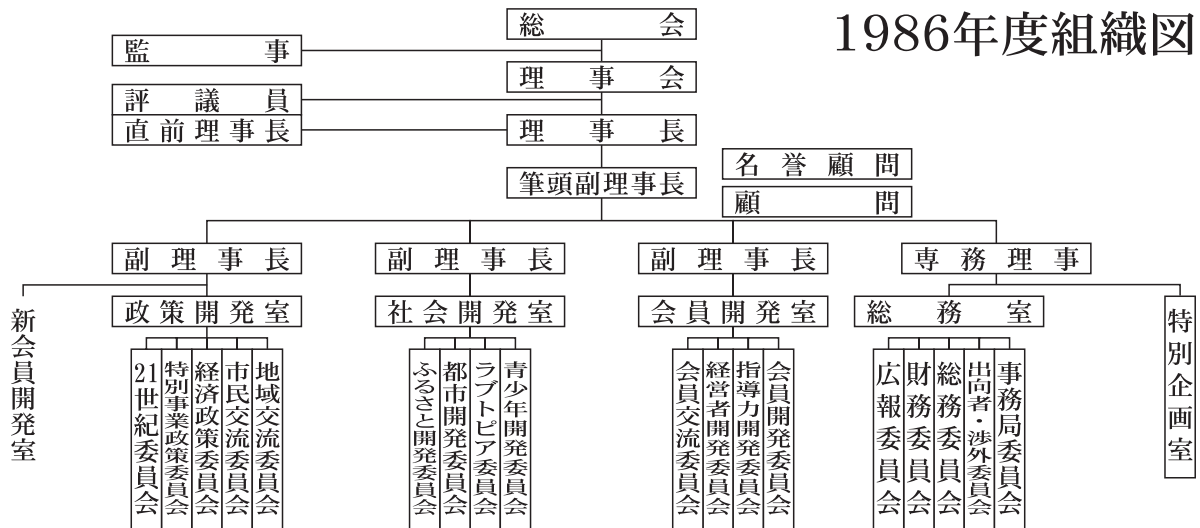
「21世紀への挑戦
躍進する旭川 示せ青年の力」

理事長名 金 田 英 俊

会 員 数 201名

新会員の同期会の名前（会員名） リリイズ

卒業生の会の名前（会員名） 36期会



1987

昭和62年



スローガン

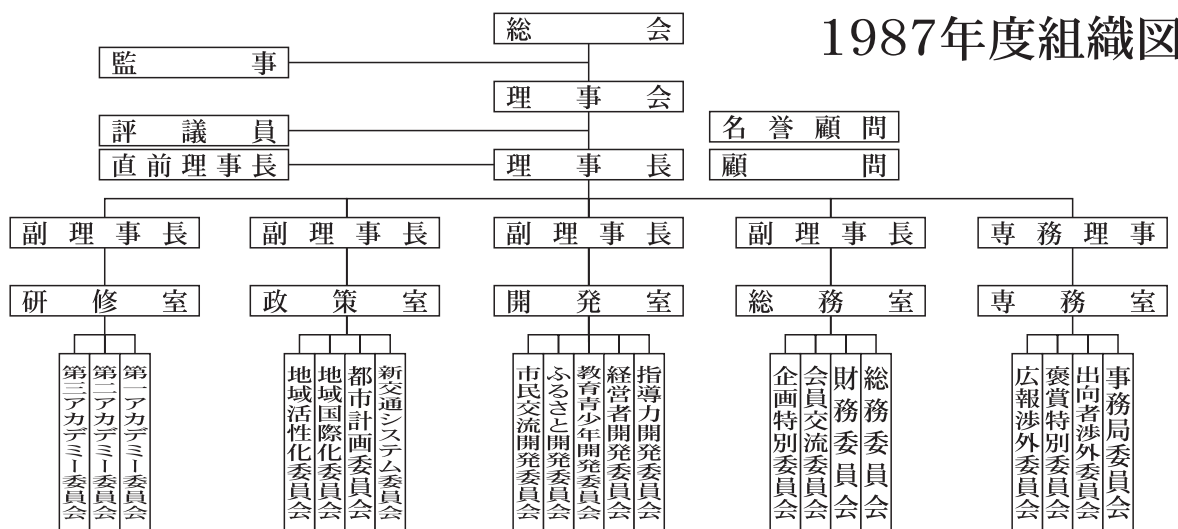
龍頭龍尾 奮い立て地域人！
創ろうふるさと新時代

理事長名 新 谷 龍一郎

会 員 数 214名

新会員の同期会の名前（会員名） あったかクラブ

卒業生の会の名前（会員名）



1988

昭和63年



スローガン

「世界に翔けパワフル旭川」

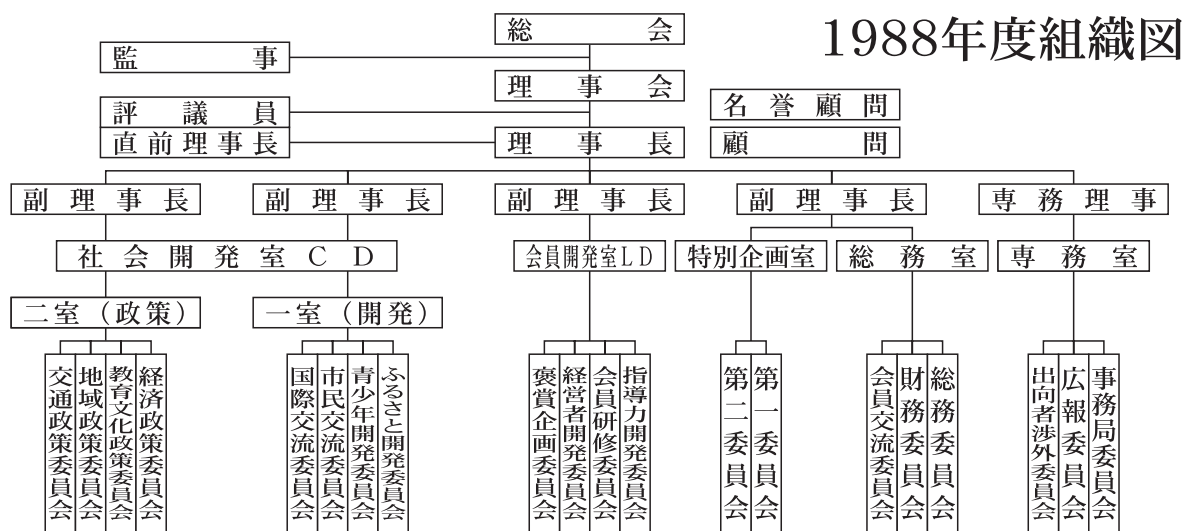
—情熱・行動・創造—

理事長名 千葉新次

会員数 212名

新会員の同期会の名前（会員名） 三十志会

卒業生の会の名前（会員名）



1989

平成元年



スローガン

継 往 開 来

駆けぬけよう100年トンネル

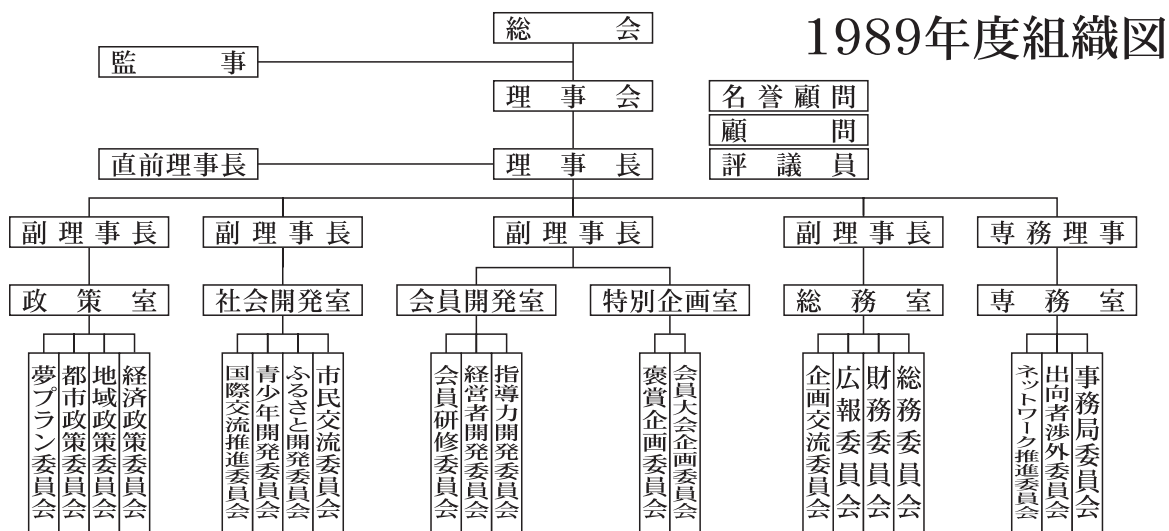
熱き想いを新大地へ

理事長名 柴原勝彦

会員数 200名

新会員の同期会の名前（会員名） 有羊会

卒業生の会の名前（会員名） 芙蓉会



1990

平成2年



スローガン

発ち起こせ新気流

百光年をひとつ翔び

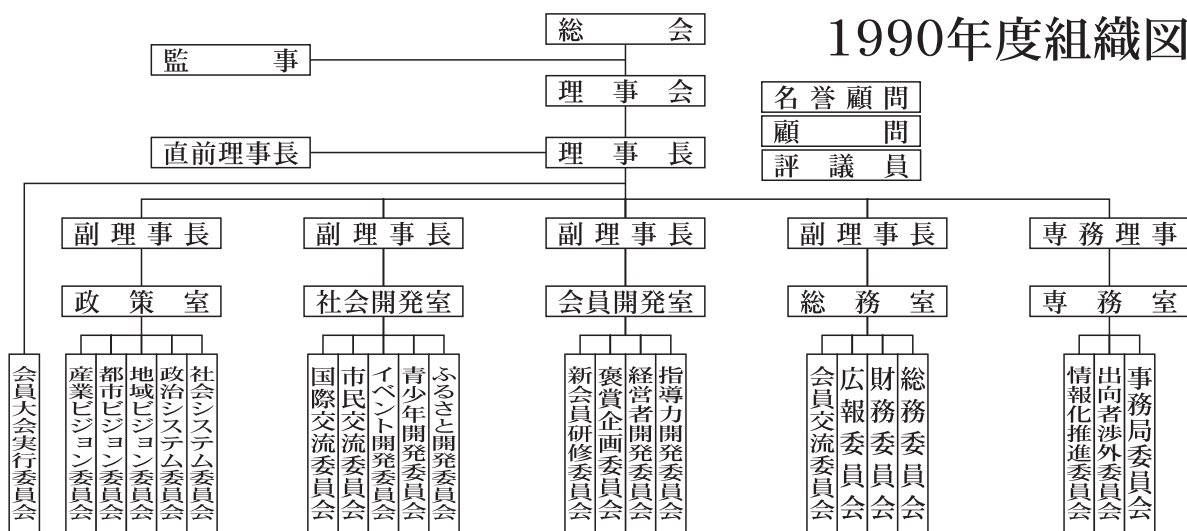
理事長名 田 島 喜 幸

会 員 数 211名

新会員の同期会の名前(会員名) 百年会

卒業生の会の名前(会員名) 嬉流虎会

1990年度組織図



1991

平成3年



スローガン



新JC元年

北海道の心臓「ASAHIKAWA」
この胸のときめきを！

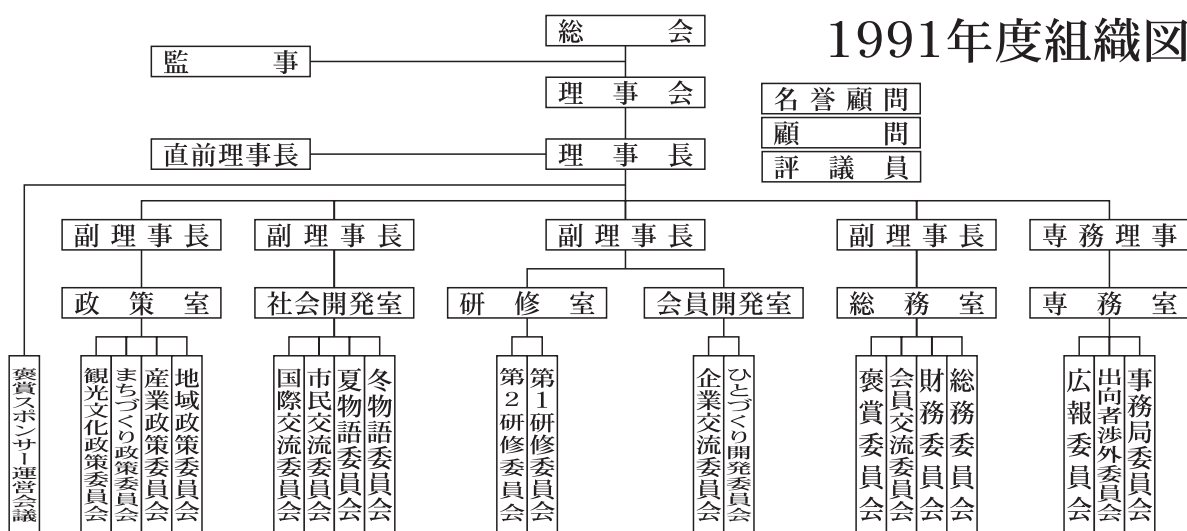
理事長名 生 駒 雅 彦

会 員 数 210名

新会員の同期会の名前(会員名) 新鮮組

卒業生の会の名前(会員名) バニークラブ

1991年度組織図



1992

平成4年



スローガン



感動・情熱 まち うた
旭川の詩
えがけ未来のワンダーランド

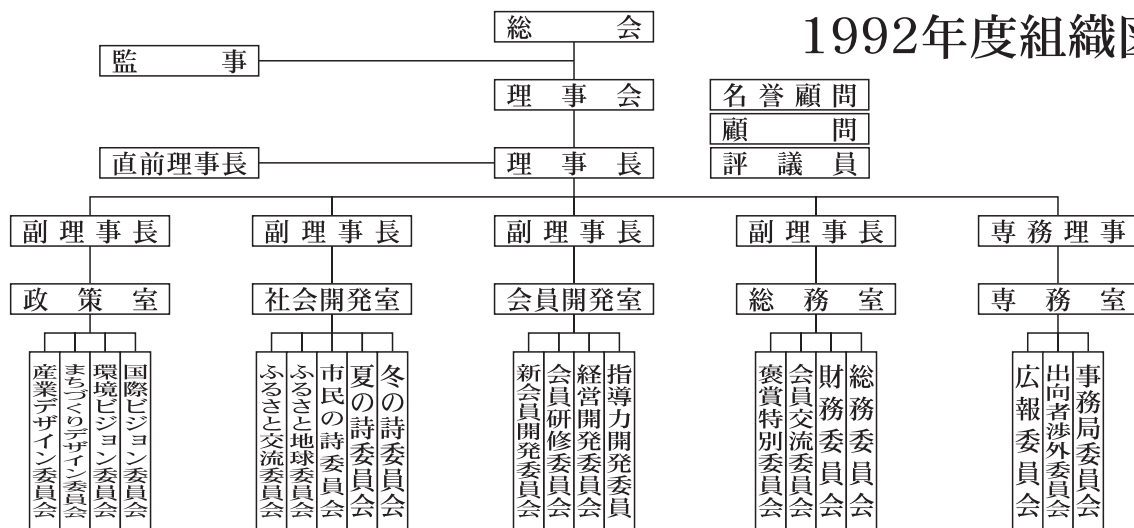
理事長名 大橋 一 慶

会 員 数 210名

新会員の同期会の名前（会員名） '92の会

卒業生の会の名前（会員名） 第三例会

1992年度組織図



1993

平成5年



スローガン



グローバルJC44
ハート全開夢無限大！
創ろう次代のメッセージ

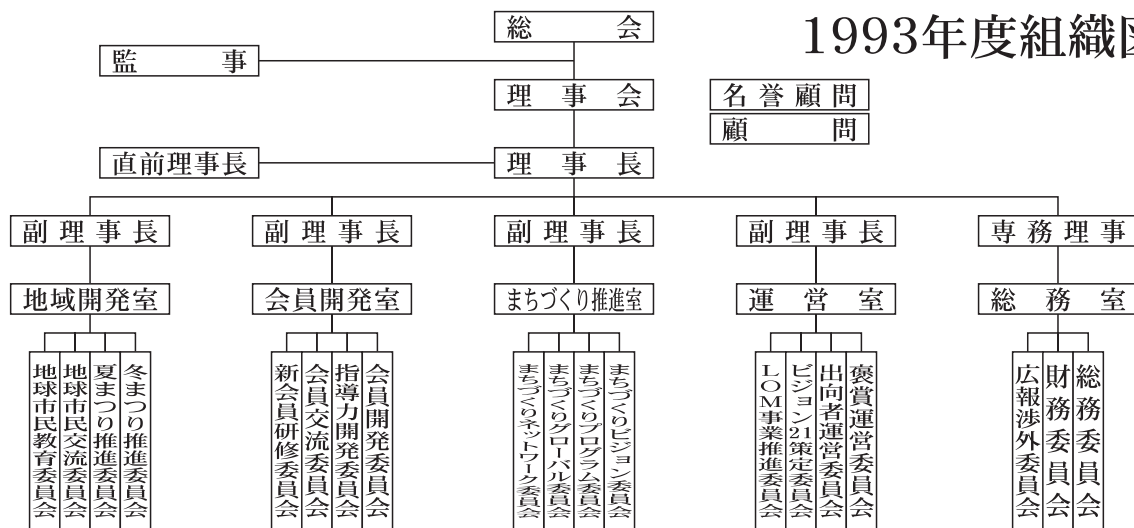
理事長名 潮 日出夫

会 員 数 211名

新会員の同期会の名前（会員名） 雅会

卒業生の会の名前（会員名） だ蛇っこ倶楽部

1993年度組織図



1994

平成 6 年



スローガン



「めざせ 未来の ^{アスリート} 能動者
我らがまちの応援団」
—さあ、今から キックオフ—

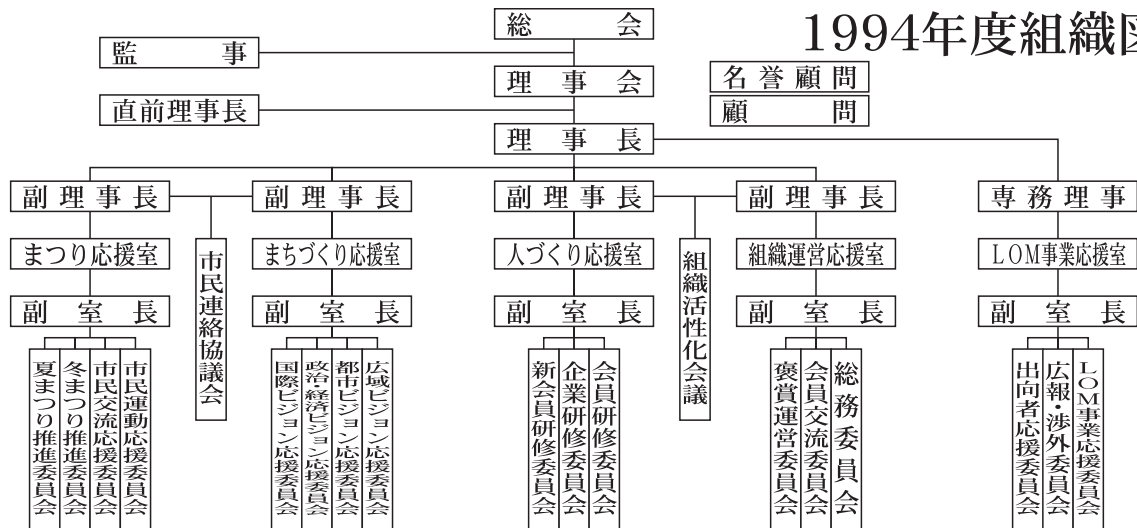
理事長名 北 野 明 彦

会 員 数 217名

新会員の同期会の名前（会員名） ふる里の会

卒業生の会の名前（会員名） 飛馬会

1994年度組織図



1995

平成 7 年



スローガン



Sail for "21"
でっかい夢をフィールドへ
地球時代の 力鼓舞

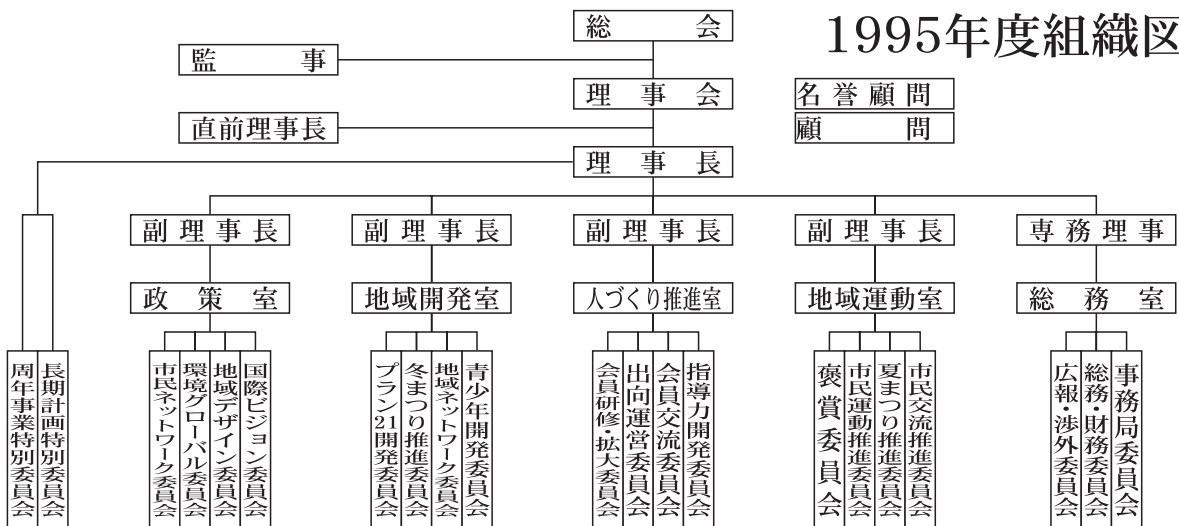
理事長名 佐々木 通 彦

会 員 数 217名

新会員の同期会の名前（会員名） オフセット95

卒業生の会の名前（会員名） 遊羊会

1995年度組織図



1996

平成 8 年



スローガン

Go for it !

粗にして 野でも 卑ではなく

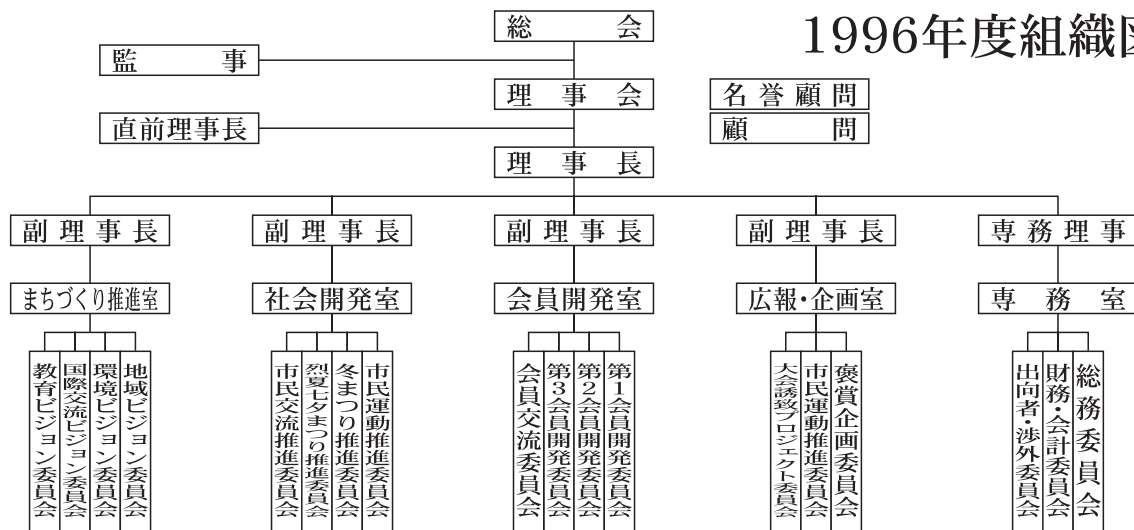
理事長名 榎 原 克 則

会 員 数 209名

新会員の同期会の名前（会員名） 野嵐会

卒業生の会の名前（会員名） 申八会

1996年度組織図



1997

平成 9 年



スローガン

ヒューマニアルJC

Let's Begin ! 意識・行動・挑戦

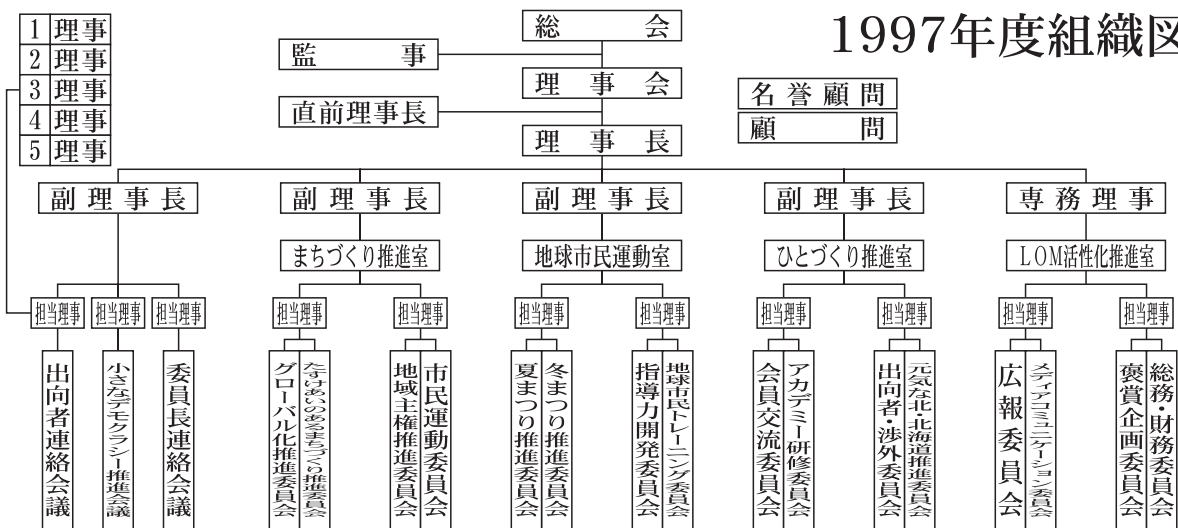
理事長名 大 瀧 裕 行

会 員 数 206名

新会員の同期会の名前（会員名） 魅仁倶楽部

卒業生の会の名前（会員名） ひよっこ倶楽部

1997年度組織図



1998

平成10年



スローガン

気づこう自分の潜在能力、
吹き飛ばそう閉塞感！
ポテンシャルJC “2001”

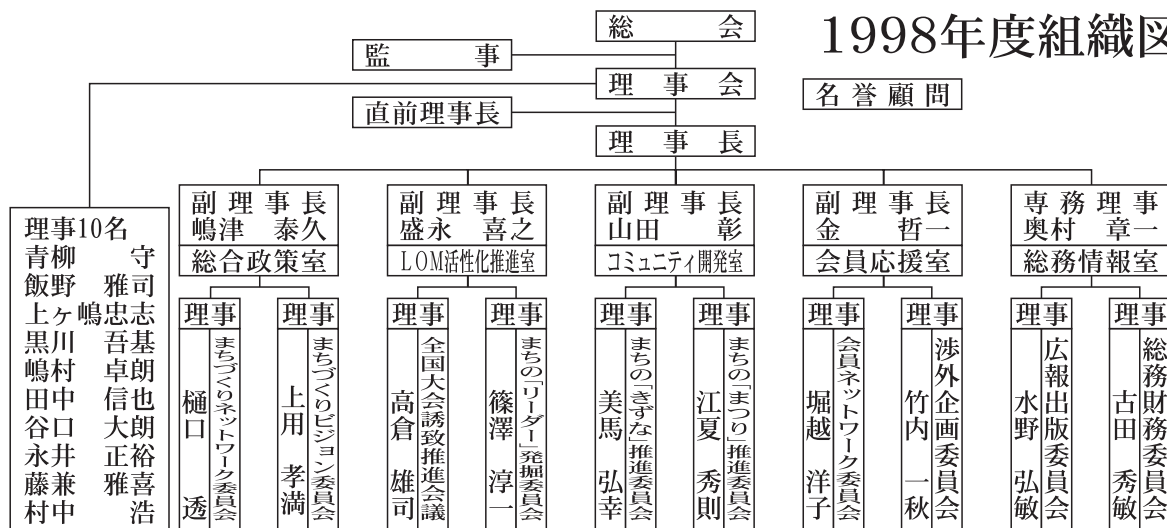
理事長名 荒井 保明

会 員 数 193名

新会員の同期会の名前（会員名） 二五卵会

卒業生の会の名前（会員名） ごご八時

1998年度組織図



1999

平成11年



スローガン

しょうぜんけいご 承前啓後 抱け！創始の精神
アスリート 奮い立たせよ！ 変革の能動者パワー

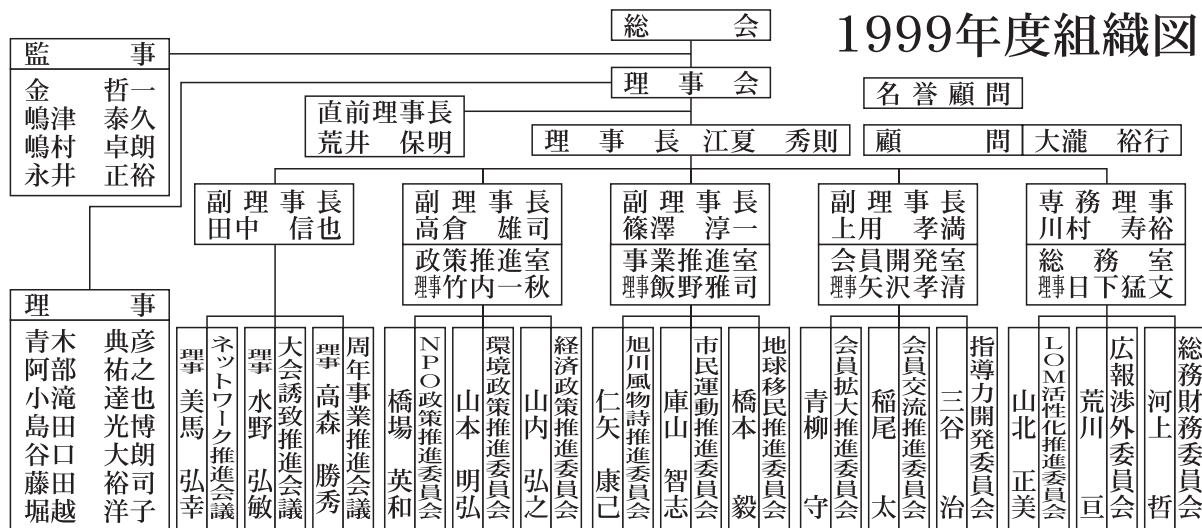
理事長名 江夏 秀則

会 員 数 183名

新会員の同期会の名前（会員名） √26

卒業生の会の名前（会員名） 瓜坊99

1999年度組織図



2000

平成12年



スローガン

伝えよう、大いなる志

つなげよう、明日への思い

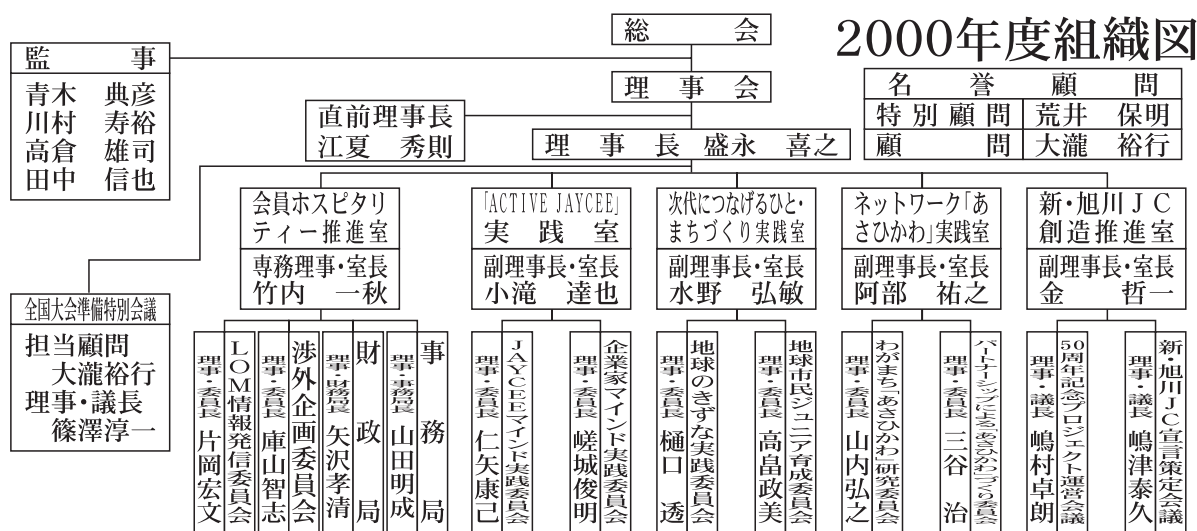
今、高らかに 新・旭川JC宣言!!

理事長名 盛 永 喜 之

会 員 数 162名+(後期5名)

新会員の同期会の名前(会員名) ミレニヤ会

卒業生の会の名前(会員名) 子ども倶楽部



2001

平成13年



スローガン

「燃えろ！旭川JC

創造ろう 21世紀のニューリーダー」

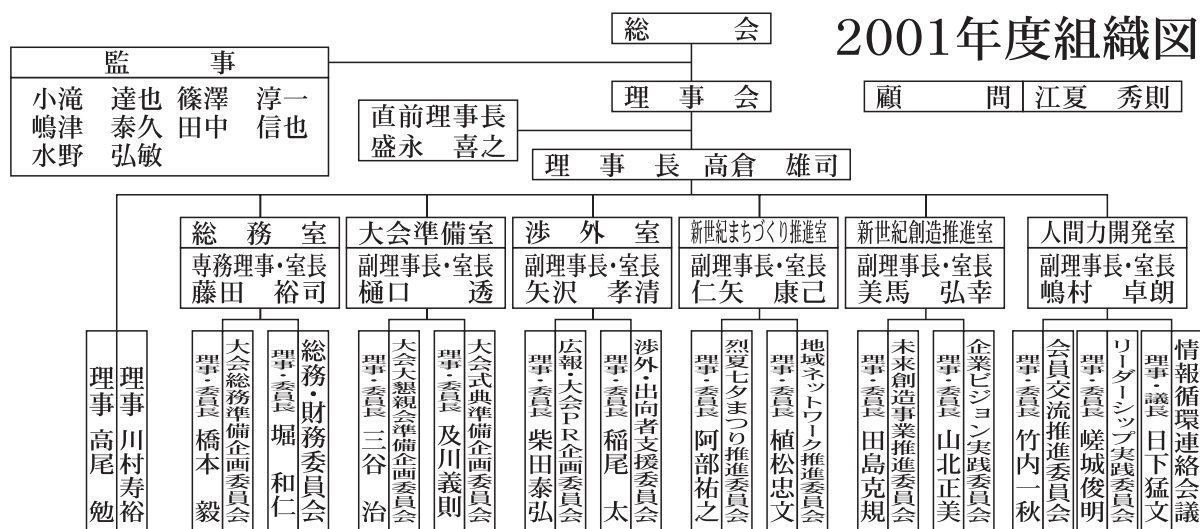
—challenge the Everything いま 新世紀の源流とならん—

理事長名 高 倉 雄 司

会 員 数 162名+(後期5名)

新会員の同期会の名前(会員名) 花21

卒業生の会の名前(会員名) 3・6 かうぼーいず



2002

平成14年



スローガン

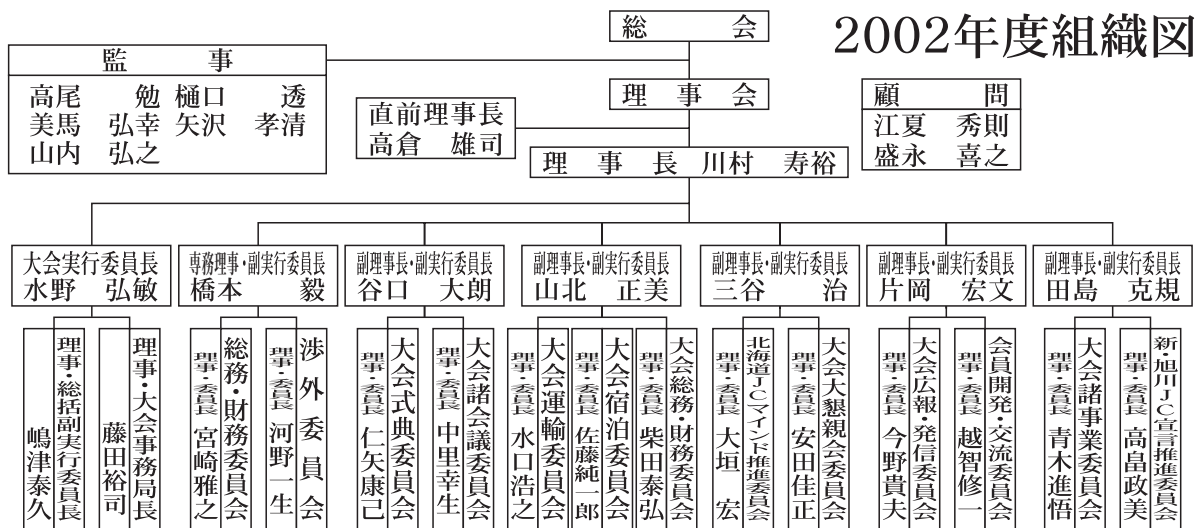
『夢・希望・勇気』
成功への限りなき挑戦!!

理事長名 川村 寿裕

会 員 数 132名+(後期3名)

新会員の同期会の名前(会員名) 全国大志会

卒業生の会の名前(会員名) わがまま虎ちゃんズ



2003

平成15年



スローガン

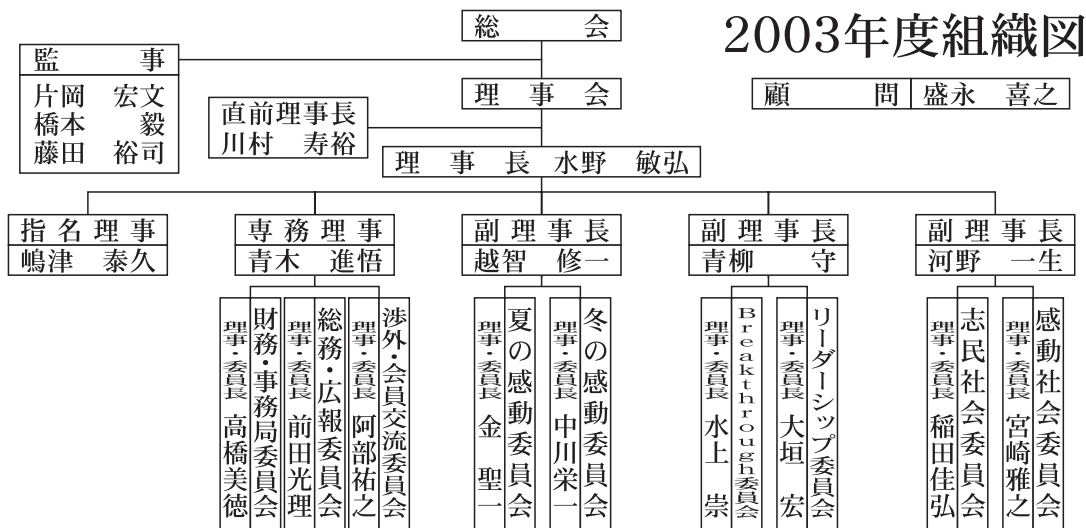
同志感動
～笑顔と感謝を胸に、飛躍前進～

理事長名 水野 弘敏

会 員 数 105名+(後期3名)

新会員の同期会の名前(会員名) 零三会

卒業生の会の名前(会員名) 兎38会



2004

平成16年



スローガン

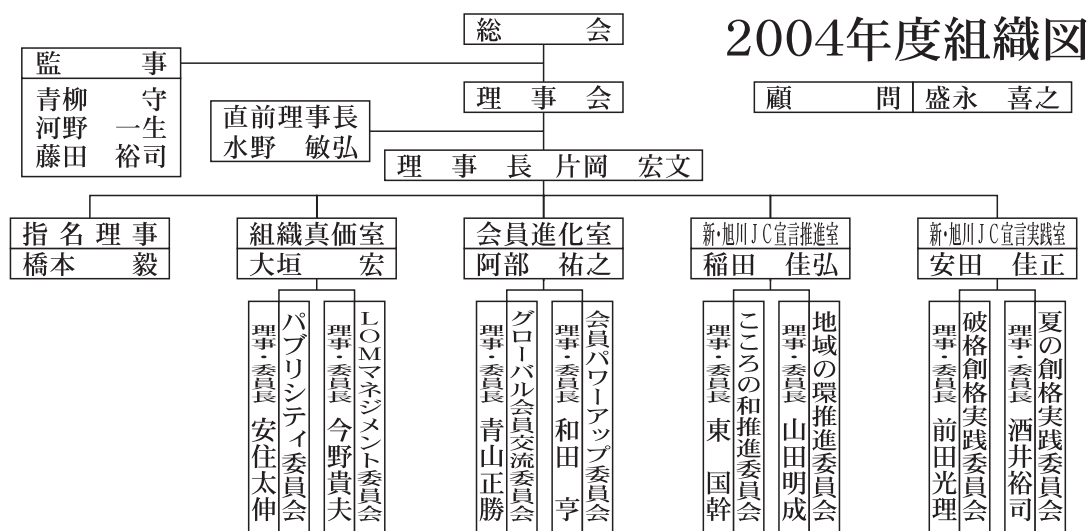
さらなる真価！
地域の環・ひとの輪・こころの和

理事長名 片岡 宏文

会 員 数 97名+(後期5名)

新会員の同期会の名前(会員名) 遊楽猿

卒業生の会の名前(会員名) オレ龍の会



2005

平成17年



スローガン

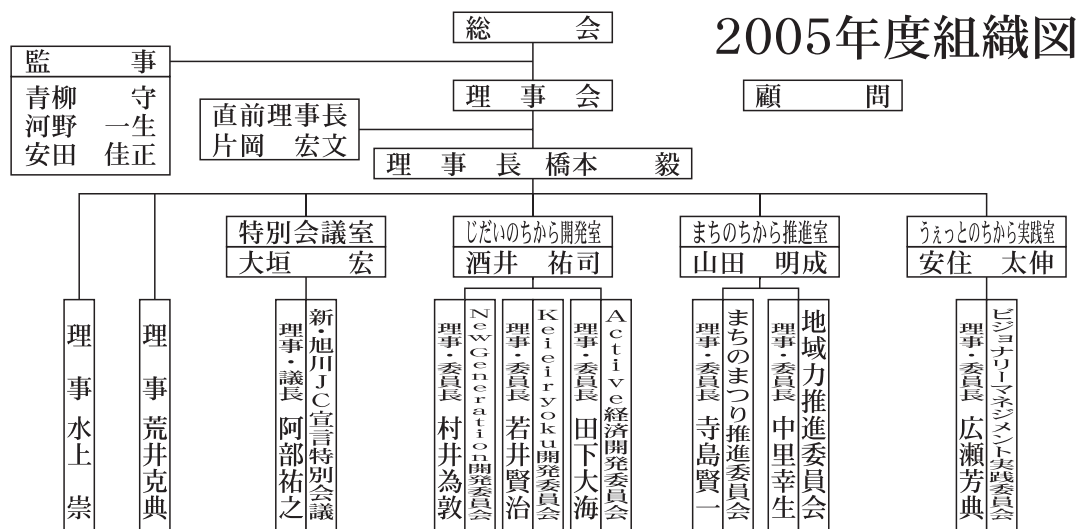
JC New Generation!
築け 人 地域 組織

理事長名 橋本 毅

会 員 数 91名+(後期6名)

新会員の同期会の名前(会員名) Bird55

卒業生の会の名前(会員名) 蛇蛇蛇じゃ〜ん



2006.01-12

平成 18 年度



第 56 代理事長

水上 崇

—— 会員数 ——

94 名

(新会員: 21 名)
(卒業生: 11 名)

—— スローガン ——

**旭川ルネッサンスの創造、
未来への元気発信!**
～ LOM と地域の

元気のために!! ～

＝ この年について ＝

「元気」をキーワードとして、JC メンバー一人ひとりが元気になり、所属する企業が元気になる。そして、その元気を地域に発信することで、このまちの元気に繋げていく。そんな旭川 JC を目指して活動しました。「新会員は LOM の元気!」と言われ続けている通り、組織に新鮮さと活力を与えてくれる新しい会員の拡大にも力を入れました。創立 55 周年記念シンポジウムのなかで提言された「旭山動物園マイスター制度」が募集開始され、第 1 回実行委員会に 70 人もの市民が参加し、旭川市民の手によって作られる、新しい形のボランティア活動として、スタートを切りました。

役員名簿

理事長	水上 崇	理事 (地域力創造委員長)	菊川 直人
直前理事長	橋本 慶嗣	理事 (夏の元気発信委員長)	石田 晋一
副理事長 (まちの元気創造室)	前田 光一	理事 (冬の元気発信委員長)	山城 俊一
副理事長 (LOM の元気発信室)	河野 生一	理事 (LOM の元気発信委員長)	増澤 智幸
副理事長 (まちの元気発信室)	寺島 賢治	理事 (LOM の元気創造委員長)	松倉 正貴
専務理事 (LOM の元気創造室)	若井 克典	理事 (総務・財務委員長)	石川 明太
指名理事	荒井 大	監事	山田 安住
理事 (地域社会創造委員長)	西 肇	監事	

卒業生

東来正	等友	荒井宗	克典悦	荒川西	亘稔	川尻西	明義	金増	萬坤
水上	行崇	万	子	田		村	浩	澤	俊一

新 会 員

荒井健	二幸	稲葉	徹	尾崎	雄一	加藤	康博	川尻	明
岸本和	幸	藤工	弘	小島	崇	米内	勝継	近藤	耕
酒井保	則	高松	明	武田	宏	千葉	智史	西村	義
本間公	浩	三浦	直	道下	仁	安田	考	山下	好
吉岡大					健太郎				也

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード

2006 年度	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新
	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新
	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新
	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新
	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新	新新新

アクティブアワード

LOM の元気創造委員会	副委員長	中川 栄一
夏の元気発信委員会	副委員長	大谷 善彦
冬の元気発信委員会	副委員長	伊藤 博元
総務・財務委員会	副委員長	瀨古 博之

ななかまどアワード

(日本) 日中関係委員会	委 員	東堂 賢功
(日本) 人間力大賞運営委員会	委 員	荒井 克典
(地区) 道北エリア研修委員会	委 員	嶋岡 寛之
	委 員	瀨古 博之

A B C アワード

LOM の元気創造委員会

会員拡大アワード

夏の元気発信委員会	委 員 長	石田 慶嗣
総務・財務委員会	委 員 長	石川 正貴

100% アワード

10 年間	橋本 毅	山田 明成	山田 明成	山田 明成	山田 明成	山田 明成	山田 明成	山田 明成	山田 明成
4 年間	藤原 正幸	若井 長	若井 長	若井 長	若井 長	若井 長	若井 長	若井 長	若井 長
3 年間	石川 上	水瀬 古	水瀬 古	水瀬 古	水瀬 古	水瀬 古	水瀬 古	水瀬 古	水瀬 古
2 年間	瀨河 野	前田 田	前田 田	前田 田	前田 田	前田 田	前田 田	前田 田	前田 田
1 年間	菊川 川	石田 松	石田 松	石田 松	石田 松	石田 松	石田 松	石田 松	石田 松
	高松 保	酒井 則	酒井 則	酒井 則	酒井 則	酒井 則	酒井 則	酒井 則	酒井 則

出 向 者

日本青年会議所	日中関係委員会	副委員長	橋本 毅
北海道地区協議会	全国大会支援委員会	副委員長	中里 幸生
	道北エリア運営局	局 次 長	藤原 正幸
	エリア交流委員会	副委員長	長川 めぐみ

他 計 19 名



1 月第二例会

まちづくりルネッサンス
～豊かな地方自治の実現へ～
担当：地域社会創造委員会



2 月第一例会

アイスアートフェスタ 2006
第 17 回市民氷彫刻コンテスト
担当：冬の元気発信委員会



旭山動物園マイスター制度

旭山動物園マイスター制度（仮称）
実行委員会設置及び開催
担当：冬の元気発信委員会



5 月第一例会

私たちの組織進化
～君は News23 を見たいか～
担当：LOM の元気創造委員会



6 月第一例会

経営カルネッサンス
～メンバー企業元気化計画～
担当：地域社会創造委員会



8 月第一例会

第 16 回烈夏七タまつり
担当：夏の元気発信委員会



スクールコンサート

豊島雄一スクールコンサート 2006
～生きる力を伝えたい～
担当：三役



青少年育成事業

『大自然は大事典
～学ぼう・遊ぼう・助け合おう』
担当：地域力創造委員会



10 月第一例会

動物園マイスター！これを聞けば、動物園が 10 倍楽しいゾウ！
担当：冬の元気発信委員会

1 月 1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1 月第二例会 まちづくりルネッサンス
～豊かな地方自治の実現へ～

2 月 2 月第一例会 アイスアートフェスタ 2006
第 17 回市民氷彫刻コンテスト

3 月 3 月第一例会 LOM の元気の源泉を探せ！
湧き出る友情にポッカポカ
3 月第二例会 JC パワーで飛び出そう！
さぁ行こう（最高）じゃん！

4 月 4 月第一例会 財務・会計セミナー
～LOM の収支を知って財務諸表を読んじゃおう～
旭山動物園マイスター制度（仮称）
実行委員会設置及び開催

5 月 5 月第一例会 私たちの組織進化
～君は News23 を見たいか～

6 月 6 月第一例会 経営カルネッサンス
～メンバー企業元気化計画～

7 月 7 月第一例会 合同懇親会（ビールパーティ）
臨時総会

8 月 8 月第一例会 第 16 回烈夏七タまつり

9 月 9 月第一例会 第 55 回北海道地区大会函館大会
9 月第二例会 定時総会
豊島雄一スクールコンサート 2006
～生きる力を伝えたい～
青少年育成事業『大自然は大事典
～学ぼう・遊ぼう・助け合おう』

10 月 10 月第一例会 動物園マイスター！
これを聞けば、動物園が 10 倍楽しいゾウ！
10 月第二例会 新会員例会
品格ある青年経済人であるために

11 月 11 月第一例会 第 56 回創立記念式典・祝賀会
11 月第二例会 卒業生例会
馬馬馬馬馬 HAVIVANONNON のタベ

12 月 12 月第一例会 2007 年度旭川 JC 予告編
明るい豊かな社会を創造します。オール旭川 Jaycee
会員交流親睦事業 はじめての大納会
～ 06 ファイナル～



第 57 代理事長

前田 光理

—— 会員数 ——

103 名

(新会員: 27 名)
(卒業生: 11 名)

—— スローガン ——

**魅力ある地域を創造するために
未来への開拓者とならん
オール旭川 Jaycee**

— この年について —

「魅力ある地域の創造」をめざして「旭川地域経済の活性化」「住民参画型社会の実現にむけて」「子どもたちに確かな未来を」の3つのアプローチの実践に向けて行動を起こしていくことが我々青年の使命として、英知と勇気と情熱をもって、一人一人行動を起こしていく一年となりました。旭川経済再生への挑戦と題し、旭川市長をお招きした公開例会や、旭川の歴史を考えるフォーラムとして、衆議院議員の石破茂氏を招いたフォーラムを陸上自衛隊敷地内にある北鎮記念館で開催。2006年度に開始された旭山動物園マイスターボランティアも実行委員会として旭川市民とともに活動しました。

全国大会旭川大会開催から5年目にあたる年であり、帯広の地で開催されることもあり経験のあるLOMとして積極的に参画しました。

役員名簿

理事長	前田 光理	理事(地域のまつり推進委員長)	藤原 正幸
直前理事長	水上 崇	理事(LOMの魅力創造委員長)	石川 正貴
顧問	橋本 毅	理事(LOMの魅力推進委員長)	近藤 博之
副理事長(地域の力創造室)	阿部 祐之	理事(未来の魅力創造委員長)	石田 慶嗣
副理事長(LOMの魅力創造室)	松倉 智幸	理事(地域の魅力推進委員長)	伊藤 博元
副理事長(未来の魅力創造室)	山城 晋一	理事(LOMの要推進委員長)	平田 大樹
専務理事(LOMの要推進室)	高橋 美徳	理事(LOMの力発信委員長)	中里 幸生
指名理事	山田 明成	監事	若井 賢治
理事(地域の力創造委員長)	今津 寛介	監事	河野 一生

卒業生

伊藤 博元	遠藤 幸男	河野 一生	小島 俊明	神内 宏幸
沼館 純雄	橋本 毅	前田 光理	山口 彰啓	山城 晋一
若井 賢治				

新 会 員

飯塚 正浩	市川 範之	井上 雄樹	入場 健太郎	岩田 泰明
尾形 智勝	小川 尚孝	奥田 裕之	川島 和也	小島 俊明
小谷 守	佐々木 一仁	佐々木 直人	須海 啓	関口 史郎
高橋 規久	高山 修	武田 信克	只石 あかね	田中 国文
西坂 恵理	西村 達一郎	長谷部 進也	法本 莊子	本間 潤
前森 和実	山口 彰啓			

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2007年度 新 会 員	佐々木 直人
アクティブアワード	地域の力創造委員会 委 員	大谷 善彦
	地域のまつり推進委員会 副委員長	高松 範明
	LOMの要推進委員会 副委員長	酒井 保則
	LOMの力発信委員会 副委員長	千葉 智史
ななかまどアワード (地区)北海道JC交流統括特別委員会	委 員	東堂 賢功
(地区)全国大会支援特別会議	委 員	長川 めぐみ
	委 員	安田 典充
(地区)地区大会運営室	委 員	嶋岡 寛之
	委 員	瀬古 博之
A B Cアワード	地域の力創造委員会	今津 寛介 (他7名)
会員拡大アワード	LOMの魅力創造委員会	委 員 長 石川 正貴
	未来の魅力創造委員会	委 員 長 石田 慶嗣

100%アワード

11年間	橋本 毅							
5年間	藤原 正幸							
4年間	石川 正貴							
3年間	山城 晋一	平田 大樹	大谷 善彦	寺島 賢一				
2年間	高松 範明	酒井 保則	前田 光理	松倉 智幸				
	嶋岡 寛之	中川 栄一	石田 慶嗣					
1年間	阿部 祐之	高橋 美徳	伊藤 博元	中里 幸生				
	近藤 博之	千葉 智史	佐々木 直人					

出 向 者

北海道地区協議会	(役員)会務担当 副 会 長	橋本 毅
	(役員)地区大会運営室 室 長	若井 賢治
	他 計 19 名	



1 月第二例会 公開例会

旭川経済再生への挑戦 呼び覚ませ、開拓の心！今、未来への開拓者とならん
担当：2007 年度三役



2 月第一例会

アイスアートフェスタ 2007
第 18 回市民氷彫刻コンテスト
担当：地域の魅力推進委員会



全国大会主管 5 周年記念例会

旭川の歴史を考えるフォーラム
～北鎮記念館新築移転を記念して～
担当：地域の力創造委員会



7 月第一例会

ミッション 21!
1 泊 2 日自然体験エコキャンプ
担当：未来の魅力創造委員会



8 月第一例会

第 17 回烈夏七タまつり
担当：地域のまつり推進委員会



8 月第二例会 (5 月第一例会)

Get Real!! All Asahikawa Jaycee
～「新・旭川 JC 宣言」の実現に向けて～
担当：LOM の魅力創造委員会



9 月第二例会

(社) 日本青年会議所 第 56 回
全国会員大会帯広大会参画
担当：LOM の力発信委員会



10 月第一例会

2010 年まで残された時間は後 1177 日
～アクションプラン 2010 教育ビジョンの実現に向けて～
担当：未来の魅力創造委員会



11 月第一例会

魅力あるまちづくりの
実現に向けて
担当：地域の魅力推進委員会

1 月 1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1 月第二例会 旭川経済再生への挑戦
呼び覚ませ、開拓の心！今、未来への開拓者とならん

2 月 2 月第一例会 アイスアートフェスタ 2007
第 18 回市民氷彫刻コンテスト
2 月第二例会 (社) 日本青年会議所
全国会員大会大会副主管 LOM として

3 月 3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
いざ集え！オール旭川 Jaycee
～ようこそ白金 (しろがね) ～ぜご一行 (晃) 様～

4 月 4 月第一例会
4 月第二例会 旭山動物園マイスター
ボランティア活動概要の報告例会

5 月 5 月第一例会 Get Real!! All Asahikawa Jaycee
「新・旭川 JC 宣言」の実現に向けて

6 月 6 月第一例会 旭川発展の正しい歴史を学び、
先人たちへの感謝の心と誇りを持ってもらう
6 月第二例会 社団法人日本青年会議所 第 51 回全国会員大会
旭川大会主管 5 周年記念例会 旭川の歴史を考える
フォーラム～北鎮記念館新築移転を記念して～

7 月 7 月第一例会 ミッション 21!
1 泊 2 日自然体験エコキャンプ
7 月第二例会 臨時総会

8 月 8 月第一例会 第 17 回烈夏七タまつり
8 月第二例会 (5 月第一例会) Get Real!! All Asahikawa Jaycee
～「新・旭川 JC 宣言」の実現に向けて～

9 月 9 月第一例会 定時総会
9 月第二例会 (社) 日本青年会議所
第 56 回全国会員大会帯広大会参画

10 月 10 月第一例会 2010 年まで残された時間は後 1177 日
～アクションプラン 2010 教育ビジョンの実現に向けて～
10 月第二例会 旭川の魅力やまちの賑わいを
高める可能性について考える
～氷点の街旭川、現在の旭川の評点は！～
10 月第三例会 北海地区大会千歳大会参画

11 月 11 月第一例会 魅力あるまちづくりの実現に向けて
11 月第二例会 第 57 回創立記念式典・祝賀会

12 月 12 月第一例会
JC クリスマスパーティ



第 58 代理事長

松倉 智幸

—— 会員数 ——

110 名

(新会員：26 名)
(卒業生：16 名)

—— スローガン ——

Fun to Think!
伝染力で拡げよう
明るい地域、ひとつづくり

— この年について —

「楽しさの伝染」をキーワードとして、新しいことにチャレンジする楽しさや共に困難を乗り越えていく楽しさ、教養を身につける楽しさといった、さまざまな要素が複合的に絡み合った楽しさを 1 年通して体験できる活動をしました。

旭川冬まつり支援事業では、冬の旭川の更なる魅力を創るべく「アイスビレッジ(雪と氷の村)」を開催。中心であるアイスドーム内でカフェや体験氷彫刻が楽しめ、ライトアップやイルミネーションで幻想的な空間や演出がされた事業となりました。また、2007 年に開催されたフォーラムから、地域経済再生に向けた具体的アクションの第一弾として、ものづくり戦略モデルである MARCHE DE TAISETSU (たいせつマルシェ) in あさひかわが買物公園で開催されました。

役員名簿

理事長	松倉 智幸	理事(青少年事業推進委員長)	佐藤 友泰
直前理事長	倉田 幸生	理事(LOM 活性化推進委員長)	藤 孝仁
副理事長(住民参画推進室)	前里 幸生	理事(広報・観光促進委員長)	万 史
副理事長(会員開発室)	中川 栄一	理事(会員開発委員長)	田 智浩
副理事長(LOM 活性化推進室)	石田 慶嗣	理事(地域のまつり支援委員長)	本 公典
副理事長(教育力再生室)	平田 大樹	理事(総務・財務委員長)	安 典充
専務理事(専務室)	石川 正貴	理事(教育力再生委員長)	渡 邊晃
指名理事	阿部 祐之	監事	高 橋美
理事(住民参画システム推進委員長)	稲葉 徹	監事	寺 賢一
理事(会員交流・渉外委員長)	菊川 直人	監事	山 明成

卒業生

東 国 幹	阿 部	祐 之	大 西	肇	佐々木 直人	佐藤 友泰
高山 幸修	土野 三浦	佳樹 直人	鶴岡 村上	久也 徳彦	寺島 賢一	長川 めぐみ
好井 宏泰					山下 好也	山田 明成

新 会 員

浅見 仁博	伊部 智子	植西 泰文	内田 貴弘	榊原 博史
重原 拓司	鈴木 慎吾	丹保 航介	千葉 真也	寺田 信彦
中井 章仁	中澤 史匡	仲丸 昌伸	中村 光一	成田 政典
西山 仁晃	長谷川 周弘	林 高岳	藤井 昇彦	牧原 史典
松本 尚三	三浦 勇治	皆川 岳大	村上 徳彦	村 本 曉
山賀 三碩				

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2008 年度 新 会 員	伊部 智子
アクティブアワード	LOM 活性化推進委員会 副委員長	大谷 善彦
	会員開発委員会 副委員長	大西 肇
	広報・観光推進委員会 副委員長	近藤 耕介
	地域のまつり支援委員会 副委員長	佐々木 直人
	青少年事業推進委員会 副委員長	高山 修
	会員開発委員会 副委員長	本間 潤
		前森 和美
ななかまどアワード	(地区)地区大会運営委員会 委 員	大谷 善彦
	(地区)地域再生情報発信委員会 委 員	高山 修
A B C アワード	青少年事業推進委員会	佐藤 友泰 (他 6 名)
会員拡大アワード		専務理事 石川 正貴
		副理事長 石田 慶嗣

100%アワード	6 年間	藤原 正幸	平田 大樹	松倉 智幸	酒井 保則
	5 年間	石川 正貴	中川 幸生	智史	
	4 年間	大谷 善彦	里 史	智史	
	3 年間	石田 慶嗣	中里 友公	佳千	
	2 年間	石田 慶嗣	榊原 友公	千典	
	1 年間	佐々木 直人	本 近	高 田	
		伊部 智子	間 藤	田 田	
		大西 幸生	本 近	高 田	
		菊川 直人	高 田		
		稲葉 徹	高 田		

出 向 者

北海道地区協議会	(役員)地域再生情報発信委員会 委 員 長	石田 慶嗣
	他 計 17 名	



2 月第一例会 公開例会

旭川経済再生への挑戦
～農業と食品加工業から経済再生を考える～
担当：政経ビジョン策定特別会議



新住民参画システム事業

アイスアートストリート
～旭川アイスアートビレッジへ続く道～
担当：地域のまつり支援委員会



2 月第二例会 公開例会

企業活性化のための啓発例会
～僕らの「夢」、宇宙(そら)飛んで行け！～
担当：LOM 活性化推進委員会



4 月第一例会

魅力ある住民参画型社会の
実現に向けて!!
担当：住民参画システム推進委員会



8 月第一例会

第 18 回烈夏七夕まつり
～やっぱりまつりは楽しい～
担当：地域のまつり支援委員会



地域経済活性化事業

MARCHE DE TAISETSU
たいせつマルシェ in あさひかわ
担当：政経ビジョン策定特別会議



8 月第二例会

次世代を担う子どもたちの育成を Fun to Think!
～自然から学ぶ! 友から学ぶ! 昔遊びの伝承と未来への翼づくり体験キャンプ～
担当：青少年事業推進委員会



10 月第一例会

大会誘致検討例会
「Get the cooperative spirit!!」
担当：LOM 活性化推進委員会



青少年育成事業

次世代を担う子どもたちの育成を Fun to Think!
～総合的な学習の授業編～
担当：教育力再生委員会

1 月 1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ

2 月 2 月第一例会 公開例会 旭川経済再生への挑戦
～農業と食品加工業から経済再生を考える～
新住民参画システム事業 アイスアートストリート
～旭川アイスアートビレッジへ続く道～
2 月第二例会 企業活性化のための啓発例会
～僕らの「夢」、宇宙(そら)飛んでいけ!～

3 月 3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業

4 月 4 月第一例会 魅力ある住民参画型社会の
実現に向けて!!

5 月 5 月第一例会 次代を担う
子どもたちの育成を「Fun to Think!」
5 月第二例会 公益法人啓蒙例会
「過去の軌跡 社会の掟 無償の愛」

6 月 6 月第一例会 Welcome to Asahikawa
～旭山動物園の先にあるもの～
6 月第二例会 自己の徳目育成
～おもいやりの心をもとう～

7 月 7 月第一例会 臨時総会

8 月 8 月第一例会 第 18 回烈夏七夕まつり
～旭川の夏 燃え尽きろ!!～
地域経済活性化事業 MARCHE DE TAISETSU
たいせつマルシェ in あさひかわ
8 月第二例会 次代を担う子どもたちの育成を「Fun to Think!」
～自然から学ぶ! 智から学ぶ! 昔遊びの伝承と未来への翼づくり体験キャンプ!～

9 月 9 月第一例会 臨時総会
9 月第二例会 第 57 回北海道地区会員大会
釧路大会参画
9 月第三例会 定時総会

10 月 10 月第一例会 大会誘致検討例会
「Get the cooperative spirit!!」
次世代を担う子どもたちの育成を Fun to Think!
～総合的な学習の授業編～
10 月第二例会 Re・birth 未来のために
『YA・SA・SHI・SA』で創る街あさひかわ

11 月 11 月第一例会 第 58 回創立記念式典・祝賀会

12 月 12 月第一例会 卒業生例会
JC クリスマスパーティ

2009.01-12

平成 21 年度



第 59 代理事長

石田 慶嗣

—— 会員数 ——

108 名

(新会員：24 名)
(卒業生：10 名)

我行精神

～誇りと伝統の継承、
そして新たな組織進化へ～

—— この年について ——

Let's do JC together. を合言葉に JC 運動に打ち込み、旭川や北海道、日本、そして世界を動かす第一歩となるべく、様々な活動を行いました。

新・旭川 JC において掲げている一つである「次代を担う子どもたちの育成」。宣言に則り、子どもたちにより多くの「体験」と「心に残る感動」を与えていくための有効な手法として、当時、静岡県浜松市の中高生 4 人が集まり発足され、活動していたユナイテッドチルドレン (UC) の設立を目指し、旭川市内の中高生に向けた体験ワークショップなどを開催し、設立へとつながりました。

役員名簿

理事長	石田 慶嗣	理事 (環境・政経ビジョン推進委員長)	上村 有史
直前理事長	松倉 幸一	理事 (観光・住民参画ビジョン推進委員長)	大樹 充彦
副理事長 (会員開発 LOM 支援室)	川津 寛一	理事 (青少年開発プロジェクト委員長)	大典 善保
副理事長 (地域ビジョン推進室)	今津 晃	理事 (まつり開発プロジェクト委員長)	彦則 伸徳
副理事長 (地域プロジェクト推進室)	渡邊 千公	理事 (総務・財務委員長)	太美
専務理事 (専務室)	本間 浩貴	理事 (渉外局長)	
指名理事 (大会誘致検討会議議長)	石川 正	監事	
理事 (第一会員開発室委員長)	嶋岡 寛之	監事	
理事 (第二会員開発室委員長)	近藤 耕介		

卒業生

稲葉 徹	植松 忠文	武田 仁	千葉 智史	東堂 賢功
中川 栄一	西坂 恵理	馬場 明治	本間 潤	一 晃

新 会 員

赤坂 英亮	石川 泰路	石崎 智章	稲垣 幸治	稲木 沢 潤
海老子川 雄介	小笠原 みさき	角橋 政志	北谷 憲市	村木 哲也
佐藤 満	重原 浩貴	菅原 啓太郎	鈴木 大介	鈴外 英裕
高橋 省吾	高橋 聖典	鷲井 一義	土井 隆典	
中村 雄一	福居 裕二	三井 博紀	米田 修司	

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2009 年度 新 会 員	石川 泰路
アクティブアワード	青少年開発プロジェクト委員会 副委員長 本間 潤	
	総務・財務委員会 副委員長 近藤 博之	
	大会誘致検討会議 副議長 重原 拓司	
	渉外局 副局長 牧原 史典	
	まつり開発プロジェクト委員会 副委員長 千村 真暁	
	第一会員開発委員会 副委員長 武田 仁	
ななかまどアワード	(日本)北海道ブロック協議会 会長 松倉 幸	
	(地区)会務担当 副会 倉嶋 智	
	(日本)JC インテリジェンス確立委員会 幹事 野嶋 壮一郎	
	(日本)国防問題検証委員会 委員長 東堂 賢功	
	(地区)事務局 局長 酒井 保則	
	(地区)領土問題関係委員会 委員長 藤原 正幸	
	(地区)総務運営委員会 委員長 牧原 史典	
	(地区)地区大会運営委員会 委員長 松本 尚	
		伊部 智子
		重原 拓司
ABC アワード	青少年開発プロジェクト委員会 平田 大樹 (他 10 名)	
会員拡大アワード	理事長 石田 慶嗣	
100%アワード		

7 年間	藤原 正幸								
6 年間	石川 善彦								
5 年間	大谷 慶嗣								
4 年間	石田 大樹	平田 大樹	中川 栄一	嶋岡 寛之					
3 年間	松倉 幸史								
2 年間	千葉 智公	渡邊 千真	近藤 伊也	藤部 拓	耕智 史	本 樺	間 原	潤	
1 年間	本間 武上	重本 千重	伊部 牧	原 井	智典 隆	石 今	原 川	史路	
	安住 近	松本 外	司 晃	田 米	修 典	吉 岡	津 岡	大	
	藤村 本		裕 二						

出 向 者

日本青年会議所	北海道ブロック協議会 会 長 松倉 智幸
北海道地区協議会	(役員) 会務担当 副 会 長 松倉 智幸
	(役員) 事務局 局 長 酒井 保則
	他 計 26 名



1 月第二例会 市長例会

どうする？どうなる！まちの真ん中
担当：環境・政経ビジョン推進委員会



2 月第一例会

アイスアートビレッジ 2009
担当：まつり開発プロジェクト委員会



2 月第二例会

Get the high Top! ～地区会員大会
主管と旭川 JC の夢を語ろう～
担当：大会誘致検討会議



4 月第一例会

地域観光資源を見出せ！
～旭川にしかないもの、課題と秘めた可能性～
担当：環境・政経ビジョン推進委員会



6 月第二例会

地獄の黙示録Ⅳ ～心をつに、
苦労を共に、そして語り合おう～
担当：/ 第一会員開発委員会



地域経済活性化事業

たいせつマルシェ 2009
(全 6 回開催)
担当：/ 環境・政経ビジョン推進委員会



8 月第一例会

第 19 回烈夏七夕まつり
～伝えたいのは烈夏の魂～
担当：まつり開発プロジェクト委員会



8 月第二例会 公開例会

次代を担う子どもたちの育成を
考えるフォーラム
担当：/ 青少年開発プロジェクト委員会



青少年育成事業

ユナイテッドチルドレン企画体験
～友達と一緒に町をつくらう～
担当：/ 青少年開発プロジェクト委員会

- 1 月 1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1 月第二例会 市長例会 どうする？どうなる！まちの真ん中
～中心市街地の活性化によるわがまち旭川の
発展と地域の経済再生に向けての取り組み～
- 2 月 2 月第一例会 旭川冬まつり支援事業
アイスアートビレッジ 2009
2 月第二例会 Get the high Top!
～地区会員大会主管と旭川 JC の夢を語ろう～
- 3 月 3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
- 4 月 4 月第一例会 地域観光資源を見出せ！
～旭川にしかないもの、課題と秘めた可能性～
旭山動物園マイスターボランティア総会
北海道地区協議会事業 北海道未来創造フォーラム
～道民パワーで未来（あした）を創れ！～
- 5 月 5 月第一例会 ユナイテッドチルドレンに設立に向けて
～ Youths making the future ～
5 月第二例会 let's study 領土領海問題をもっと知ろう
- 6 月 6 月第一例会 環境問題に向き合うはじめての一步
6 月第二例会 地獄の黙示録Ⅳ
～心をつに、苦労を共に、そして語り合おう～

- 7 月 7 月第一例会 臨時総会
たいせつマルシェ 2009（全 6 回開催）
- 8 月 8 月第一例会 第 19 回烈夏七夕まつり
～伝えたいのは烈夏の魂～
国と地域の未来は自ら創る 緊急公開討論会
8 月第二例会 公開例会 次代を担う子どもたちの
育成を考えるフォーラム～大人になる子どもた
ちのために 大人になった私たちができること～
- 9 月 9 月第一例会 定時総会
9 月第二例会 北海道地区会員大会北見大会参画
ユナイテッドチルドレン企画体験
～友達と一緒に町をつくらう～
- 10 月 10 月第一例会 新会員例会 国際交流への挑戦
～ We Are The World. We Are The Children. 我われは地球人！～
第 58 回全国会員大会 沖縄那覇大会
- 11 月 愛宕小学校授業プログラム
子どもたちの未来へ～子どもたちを見守る環境～
11 月第一例会 第 59 回創立記念式典・祝賀会
11 月第二例会 卒業生例会 We have a dream
- 12 月 12 月第一例会 意気込み例会
JC クリスマスパティー
I LOVE YOU からはじめよう！



第 60 代理事長

渡邊 千晃

—— 会員数 ——

101 名

(新会員: 11 名)
(卒業生: 8 名)

—— スローガン ——

志(士の心)を抱け!
武士道精神で己を高め
限界にチャレンジ

— この年について —

創立 60 周年の節目を迎え、2000 年代運動指針である、新・旭川 JC 宣言の対象期間が終わる、大きな節目の年となりました。実行委員会を設立し、多くの議論が交わされ、創立 60 周年記念式典には、各地 JC メンバーや旭川市内の関係者ら 700 名近くの参加者で盛大に開催されました。また、姉妹 JC であるタンペレ JC、友好 JC である鶯歌 JC の現役・シニアメンバーも多数出席し、互いの友情を確かめ合う充実した国際交流の機会となりました。また、記念事業として「戦略を超える経営理念」と題し、アチーブメント(株)代表取締役 青木仁志氏をお招きした記念講演を開催しました。

役員名簿

理事長	渡邊 千晃	理事(住民参画支援委員長)	宗万孝行
直前理事長	石川 慶嗣	理事(烈夏支援委員長)	千葉 真也
副理事長(60周年プロジェクト室)	石川 正貴	理事(60周年プロジェクト委員長)	大谷 善彦
副理事長(住民開発担当室)	藤原 正幸	理事(新・宣言検証委員長)	近藤 博之
副理事長(社会開発担当室)	上村 有史	理事(広報・渉外委員長)	野嶋 壮一郎
専務理事(専務室)	嶋岡 寛之	理事(総務・財務委員長)	酒井 保則
指名理事	安住 太伸	地区出向理事	村本 暁宣
指名理事(会員開発委員長)	本間 公浩	監事	平田 大樹
理事(地域活性化委員長)	市川 範之	監事	高橋 美徳
理事(青少年育成委員長)	林 高辞		

卒業生

安住 太伸	高橋 規久	高橋 美徳	千葉 真也	西森 良一
前森 和実	米田 修司	渡邊 千晃		

新 会 員

小島 圭	櫻井 学	作家 孝幸	篠原 史也	関村 卓也
田中 裕輔	富居 典弘	西村 光	平澤 和貴	湯浅 秀昭
中川 雄策				

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2010年度 新 会 員	櫻井 学
	新 会 員	湯浅 秀昭
アクティブアワード	地域活性化委員会 副委員長	米田 修司
	青少年育成委員会 副委員長	牧原 史典
	住民参画支援委員会 副委員長	重原 拓司
	烈夏支援委員会 副委員長	鈴木 慎吾
	新・宣言検証委員会 副委員長	石黒 裕規
	会員開発委員会 副委員長	福居 耕二
	総務・財務委員会 副委員長	近藤 耕介
		松本 尚晃
ななかまどアワード	(地区)道北エリア運営会議 幹 事	近藤 耕介
	(地区)総務運営委員会 副委員長	村本 暁宣
A B C アワード	60 周年プロジェクト委員会 大谷 善彦(他 11 名)	
会員拡大アワード	烈夏支援委員会 委 員 長	千葉 真也

100%アワード	8 年間	藤原 正幸							
	7 年間	石川 正貴							
	6 年間	大谷 善彦							
	5 年間	石田 慶嗣	酒井 保則	嶋岡 寛之					
	3 年間	石田 慶嗣	渡邊 千晃	近藤 耕二					
	2 年間	本間 公浩	重原 拓司	牧原 史典					
		安住 太伸	松本 尚晃	土井 隆典					
		村本 暁宣							
	1 年間	市川 範之	宗万孝行	福居 裕二	千葉 真也				
		湯浅 秀昭	櫻井 学	入場 健太郎	石川 泰路				
		鈴木 慎吾			米田 修司				
					野嶋 壮一郎				
					石黒 裕規				

出 向 者

北海道地区協議会	(役員)道北エリア担当 副 会 長 石田 慶嗣
	他 計 25 名



2月第一例会

アイスアートビレッジ 2010
雪と氷の幻想 アイスアートリンク
担当：住民参画支援委員会



2月第二例会 市長例会

We love! あさひかわ 2010 年旭川はこう変わる
～食と農の魅力から地域活性化～
担当：地域活性化委員会



4月第一例会

ユナイテッドチルドレンの羽ばたき
～ We believe a new possibility ～
担当：青少年育成委員会



5月第一例会

「新・旭川JC宣言」に基づいた活動の検証
～夢をかたちにそしてかたちを現実～
担当：新・宣言検証委員会



6月第一例会

モチベーション
その偉大な力～成功への方程式
担当：会員開発委員会



8月第一例会

第20回烈夏七タまつり
こんなに暑い！我が街・我が故郷旭川
担当：烈夏支援委員会



旭川開村 120 年記念事業

北の恵み 食べマルシェ 参画
たいせつマルシェ 2010 in 食べマルシェ
担当：地域活性化委員会



11月第一例会

第60回創立記念式典・祝賀会
担当：60周年プロジェクト委員会



12月第一例会

創立60周年記念講演
戦略を超える理念経営
担当：60周年プロジェクト委員会

1月 1月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ

2月 2月第一例会 アイスアートビレッジ 2010
雪と氷の幻想 アイスアートリンク
2月第二例会 We love! あさひかわ 2010 年
旭川はこう変わる～食と農の魅力から地域活性化～

3月 3月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
白金温泉討入事件 ～今宵、殿は誰かを
斬らずにいられないの～

4月 4月第一例会 ユナイテッドチルドレンの羽ばたき
～ We believe a new possibility ～

5月 5月第一例会「新・旭川JC宣言」に基づいた活動の検証
～夢をかたちにそしてかたちを現実～

6月 6月第一例会 モチベーション
その偉大な力～成功への方程式
たいせつマルシェ 2010（全7回開催）

7月 7月第一例会 烈夏七タまつり「全体説明会」

8月 8月第一例会 第20回烈夏七タまつり
こんなに暑い！我が街・我が故郷旭川
8月第二例会 臨時総会
8月第三例会 Let's go together
旭山動物園マイスターボランティア

9月 9月第一例会 北海道地区会員大会留萌大会参画
9月第二例会 定時総会

10月 たいせつマルシェ 2010 in 食べマルシェ
10月第一例会 地域の学校を地域の力で
～地域・家庭・学校が融合した教育の実現に向けて～
10月第二例会 新会員例会 10.10 会
健康プロデュース～健康が地域を救う～

11月 11月第一例会 第60回創立記念式典・祝賀会
11月第二例会 卒業生例会
心配、グッバイ、ジャンボ DE ナイト

12月 12月第一例会 創立60周年記念講演
戦略を超える理念経営
JC クリスマスパティー
感謝の気持ちを愛するすべての人へ



第 61 代理事長

本間 公浩

—— 会員数 ——

90 名

(新会員: 15 名)
(卒業生: 9 名)

—— スローガン ——

「Let's create the dream」
そして、その先にある道程(みち)へ
～改革から実行への第一歩～

—— この年について ——

「明るい豊かな社会を作るため」創始の精神を引き継ぎ、「旭山動物園マイスターボランティア」や「たいせつマルシェ」を年に数回開催しました。

冬まつりアイスドームでは消防署の協力も頂いて二基のアイスドームを作成し、マジックショーやコンサートも開催し多くの子どもたちの笑顔を見れました。また、旭川ユナイテッド・チルドレンも旭川市内の現役中高生 10 名のメンバーで活動し、旭川冬まつりへの参画事業としてアイスドームメロンパンを販売。売上の一部は旭山動物園「もっと夢」基金へ募金しました。3月11日に起きた東日本大震災の街頭募金活動も行いました。

役員名簿

理事長	本間 公浩	理事(専務室長)	近藤 耕介
直前理事長	渡邊 千晃	理事(夢ビジョン創造委員長)	海老川 雄介
顧問	石田 慶嗣	理事(まちの未来創造委員長)	牧原 史典
副理事長(夢ビジョン創造室)	近藤 博之	理事(まちのくらし活性化委員長)	村本 暁宣
副理事長(まちの未来活性化室)	酒井 保則	理事(まちのまつり推進委員長)	福居 裕二
副理事長(まちの魅力推進室)	大谷 善彦	理事(まちの魅力発信委員長)	鈴木 慎吾
専務理事(専務室)	高田 泰慎	理事(総務・渉外委員長)	落合 孝尚
指名理事	平田 大樹	理事(会員開発委員長)	松本 正貴
指名理事	菊川 直人	監事	石川 正寛
理事(まちの未来活性化室長)	野嶋 壮一郎	監事	嶋岡 寛之
理事(まちの魅力推進室長)	今津 寛介	監事	藤原 正幸

卒業生

荒井 敬大	大谷 善彦	加藤 康博	木村 哲也	瀬古 博之
中川 雄策	中村 弘一	藤原 正幸	本間 公浩	

新 会 員

荒川 敬大	稲田 良輔	井上 雅之	鏡 圭介	小関 聖人
菊地 ミオ	小林 大祐	佐々木 雄二郎	助安 秀章	南 智守
山添 宏基	山田 大生	岩井 隆行	海野 悠	田中 圭祐

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2011年度 新 会 員	荒川 敬大
アクティブアワード	まちの未来創造委員会 副委員長	石川 泰路
	まちのまつり推進委員会 副委員長	石黒 裕規
	委員 桜井 典弘	学 拓司
	まちの魅力発信委員会 副委員長	重原 拓司
	副委員長	篠原 智子
ななかまどアワード	(地区)道北エリア運営会議 運営議長	藤原 正幸
	(地区)財務特別委員会 幹 事	重原 拓司
	(地区)地区大会運営委員会 委員長	酒井 保則
	副委員長	嶋岡 寛之
	委員	大谷 善彦
	委員	近藤 耕介
A B C アワード	まちの魅力発信委員会	鈴木 慎吾 (他 8 名)
会員拡大アワード	まちのくらし活性化委員会	委 員 長 村本 暁宣
100%アワード		

9年間	藤原 正幸				
8年間	石川 正貴				
7年間	大谷 善彦				
6年間	石田 慶嗣	酒井 保則	嶋岡 寛之		
4年間	本間 公浩	近藤 耕介	牧原 史典	石川 泰路	
3年間	上村 有史	重原 拓司	土井 隆典	櫻井 学	
	松本 尚晃	村本 暁宣	鈴木 慎吾	篠原 智子	
2年間	福居 裕二	野嶋 壮一郎	鈴木 富居	海老川 雄介	
1年間	近藤 博之	高田 泰慎	荒川 敬大		
	落合 孝優	榊原 博史			

出 向 者

日本青年会議所	JC 運動発信会議	ブロック代表	野嶋 壮一郎
北海道地区協議会	(役員)道北エリア運営会議	運営議長	藤原 正幸
	(役員)財務特別委員会	委 員 長	酒井 保則
			他 計 21 名



1 月第二例会

市長例会

担当：まちのくらし活性化委員会



2 月第一例会

アイスアートビレッジ 2011

コラボレーション・夢への架け橋

担当：まちのまつり推進委員会



4 月第一例会

夢を実現する力！

～継続する強い意志を作るために～

担当：会員開発委員会



6 月第一例会 公開例会

私たちの知らない間に忍び寄る黒船は「開国」か「壊国」か？

～TPP が地域経済にもたらす影響とは～

担当：まちのくらし活性化委員会



7 月第一例会 公開例会

Let's create the "Familiation(ファミリケーション)"

～親と子を繋ぐ愛言葉～

担当：まちの未来創造委員会



8 月第一例会

第 21 回烈夏七夕まつり

～未来につなげる熱い、夏～

担当：まちのまつり推進委員会



8 月第二例会

今こそ創始の志を胸に、果てしなく続くストーリー

～この改革の先にあるもの～

担当：夢ビジョン創造委員会



たいせつマルシェ事業

たいせつマルシェ 2011

in 食べマルシェ

担当：まちのくらし活性化委員会



10 月第一例会 公開例会

Just Zoo it !

～初めてのマイスター～

担当：まちの魅力発信委員会

1 月 1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1 月第二例会 市長例会

2 月 2 月第一例会 アイスアートビレッジ 2011
コラボレーション・夢への架け橋
新会員セミナー

3 月 3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
Dreamer 達のディープな夜
3 月第二例会 踏み出せば その一歩が道程(みち)
となり その一足が道程(みち)となる 迷わず行け
よ 行けばわかるさ エリア！ 地区！ 日本！ ダー！

4 月 4 月第一例会 夢を実現する力！
～継続する強い意志を作るために～

5 月 5 月第一例会 情報共有例会

6 月 6 月第一例会 公開例会 私たちの知らない間に
忍び寄る黒船 TPP は「開国」か「壊国」か？
～TPP が地域経済にもたらす影響とは～
たいせつマルシェ 2011
(6/26 ～ 10/2 隔週日曜日 計 7 回開催)

7 月 7 月第一例会 公開例会
Let's create the "Familiation(ファミリケーション)"
～親と子を繋ぐ愛言葉～

7 月 7 月第二例会 臨時総会

8 月 8 月第一例会 第 21 回烈夏七夕まつり
～未来につなげる熱い、夏～
8 月第二例会 今こそ創始の志を胸に、果てしなく
続くストーリー～この改革の先にあるもの～
8 月第三例会 Let's go together!!
旭山動物園マイスターボランティア

9 月 9 月第一例会 定時総会
9 月第二例会 第 60 回北海道地区大会 伊達大会
たいせつマルシェ 2011 in 食べマルシェ

10 月 10 月第一例会 公開例会 Just Zoo It !
～初めてのマイスター～
10 月第二例会 新会員例会
あさひかわに生きる者として、あさひかわの未来を創造する
～再考！ 再興！ 最高のまち「あさひかわ」～

11 月 11 月第一例会 第 61 回創立記念式典・祝賀会
11 月第二例会 卒業生例会 試験に出る JC
～JC × 卒業生＝理不尽?!～

12 月 12 月第一例会 意気込み例会
12 月親睦事業 JC クリスマスパティー
愛しのあなたへ贈るドリームワールド



第 6 2 代理事長

嶋岡 寛之

会員数

84 名

(新会員: 8 名)
(卒業生: 12 名)

スローガン

**Keep our challenges
and get the high top**

変わらないために変わる、
凜然とした誇りある旭川の創造の為に

この年について

2010 年代運動指針である「旭川 JC 宣言～夢ビジョン 2010～」を基軸に、高みを目指し挑戦し続けるために、更なる進化を遂げ創造力の向上に努めて参りました。

62 年の歴史と伝統に基づく運動と地域に根ざした活動を展開することのみならず、あの未曾有の大惨事である東日本大震災や原子力発電所事故から約一年、我々旭川青年会議所は旭川地域を元気にすることだけを主眼に置くのではなく、東日本復興支援の一助として被災地や被災者に心をよせ、あの悲しい出来事を風化させないためにも、また被災地の子どもたちに笑顔を取り戻すためにも、何が出来るか…に挑戦しました。

役員名簿

理事長	嶋岡 寛之	理事 (会員開発委員長)	上村 有史
直前理事長	本間 公浩	理事 (青少年育成委員長)	澤田 真由美
顧問	石田 慶嗣	理事 (地域経済活性化委員長)	篠原 智子
副理事長 (ひとづくり発信室)	石川 正貴	理事 (地域のまつり推進委員長)	石黒 裕規
副理事長 (地域の未来発信室)	牧原 史典	理事 (地域の魅力創造委員長)	松本 尚晃
副理事長 (地域の誇り発信室)	福居 裕二	理事 (総務・渉外委員長)	榊原 博史
専務理事 (専務室)	近藤 耕介	理事 (財務局長)	落合 孝優
指名理事 (事務局長)	近藤 博之	理事 (事務局次長)	林 高辞
指名理事	村本 暁宣	監事	酒井 保則
指名理事	海老子川 雄介	監事	高田 泰慎
理事 (広報・会員交流委員長)	石川 泰路	監事	平田 大樹

卒業生

飯塚 正浩	石黒 裕規	菊地 ミオ	小林 睦明	重原 浩貴
高田 泰慎	津山 旭	土井 隆典	富居 典弘	西山 仁
福居 裕二	松本 尚晃			

新会員

犬伏 和夫	大矢 正彦	金津 美湖	喜久野 夕介	北崎 悌綱
小林 睦明	廣瀬 真希	高橋 健太		

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2012 年度 新会員	北崎 悌綱
	新会員	犬伏 和夫
アクティブアワード	青少年育成委員会 副委員長	重原 拓司
	地域の魅力創造委員会 副委員長	鈴木 慎吾
	地域のまつり推進委員会 委員	外崎 裕二
ななかまどアワード (日本) LOM サービス実践委員会 委員	石田 慶嗣	
(地区) 道北エリア担当 副会長	酒井 保則	
(地区) 道北エリア運営会議 副議員	村本 暁宣	
(地区) 総務運営委員会 副委員長	海老子川 雄介	
(地区) 復興支援委員会 委員	重原 拓司	
A B C アワード	地域のまつり推進委員会	石黒 裕規 (他 9 名)
褒賞委員長特別賞	青少年育成委員会 委員長	澤田 真由美

100%アワード

9 年間	石川 正貴				
7 年間	石田 慶嗣	酒井 保則	嶋岡 寛之		
5 年間	近藤 耕介				
4 年間	石川 泰路	重原 拓司	牧原 史典	松本 尚晃	
	村本 暁宣				
3 年間	鈴木 慎吾	福居 裕二			
2 年間	海老子川 雄介	近藤 博之	高田 泰慎		
1 年間	北崎 悌綱	澤田 真由美	外崎 裕二	平田 大樹	

出向者

北海道地区協議会	(役員) 道北エリア担当 副会長	酒井 保則
	道北エリアアカデミー研修塾 塾長	石田 慶嗣
		他 計 20 名



1月第二例会 市長例会

更なる進化を求め主張しよう！
市長例会！
担当：地域経済活性化委員会



2月第一例会

アイスアートビレッジ 2012
わくわく Winter Attraction!
担当：地域の魅力創造委員会



4月第一例会

Hello Coliseum 2012
～熱意と正論を持ってぶつかり合おう！～
担当：会員開発委員会



5月第一例会

第一回北海道 JC フォーラム参画
担当：総務・渉外委員会



6月第二例会 公開例会

子どもの心に思いやり
～学ぶことは支援の為の第一歩～
担当：青少年育成委員会



8月第一例会

第 22 回烈夏七夕まつり
今、始まる烈夏伝統・・・
担当：地域の魅力創造委員会



8月第二例会

東日本大震災復興支援事業 福島っ子・旭川っ子
ずっと友達！おもいっきり夏休み in 旭川
担当：青少年育成委員会



9月第一例会

私達が、私達の為に本気で考える街づくり
～未来の変わらない旭川の為に～
担当：地域経済活性化委員会



10月第一例会

ここから始まる Next Step! ～旭山動物園
マイスターボランティアさらに一歩先へ～
担当：地域の魅力創造委員会

1月 1月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1月第二例会 更なる進化を求め主張しよう！市長例会！

2月 2月第一例会 アイスアートビレッジ 2012
わくわく Winter Attraction!

3月 3月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
GET THE ハイテンション
～変わらないために泊まる！～

4月 4月第一例会 Hello Coliseum 2012
～熱意と正論を持ってぶつかり合おう～

5月 5月第一例会 第一回北海道 JC フォーラム参画

6月 6月第一例会 皆で残そう 100 %のキセキ！
皆で誓おう JC の絆！
6月第二例会 公開例会 子どもの心に思いやり
～学ぶことは支援の為の第一歩～
6月第三例会 臨時総会
一般社団法人移行に伴う臨時総会

7月 7月第一例会 情報共有例会

8月 8月第一例会 第 22 回烈夏七夕まつり
今、始まる烈夏伝説・・・

8月第二例会 東日本復興支援プロジェクト
「福島っ子・旭川っ子ずっと友達！おもいっきり夏休み」in 旭川
地域活性化事業 ほっこり ひとの手市
～たいせつマルシェ&アートマルシェ in 買物公園～

9月 9月第一例会 私達が、私達の為に本気で考える街づくり
～未来の変わらない旭川の為に～
9月第二例会 第 61 回 北海道地区大会稚内大会参画
たいせつマルシェ 2011 in 食べマルシェ
9月第三例会 臨時総会
9月第四例会 定時総会

10月 10月第一例会 ここから始まる Next Step!
～旭山動物園マイスターボランティアさらに一歩先へ～
10月第二例会 新会員例会
40yaers"Oath" together!! ～ 40 歳の誓い～

11月 11月第一例会 第 62 回創立記念式典・祝賀会
11月第二例会 卒業生例会

12月 12月第一例会 意気込み例会
12月親睦事業 JC クリスマスパティー
愛するすべての人へ感謝とありがとう



第 6 3 代理事長

近藤 博之

—— 会員数 ——

79 名

(新会員: 12 名)
(卒業生: 11 名)

—— スローガン ——

夢をかなえる力

～ Dream for Asahikawa ～

＝ この年について ＝

社団法人から一般社団法人になった年である 2013 年度は、2010 年代運動指針である「旭川 JC 宣言～夢ビジョン 2010」にのっとり“夢づくり・ひとづくり・地域づくり”のリーダーとなり真に豊かな地域の創造に向けて各種事業を展開しました。

各種事業を通じて、時には“地域のリーダーづくり”、時には“経済を意識した地域おこし”、時には“次代を担う青少年育成”を行いました。

また、旭川市民の生活・文化の向上に寄与するまちづくり並びに人づくりを目的として活動している団体への資金助成を通じて、その活動を支援する「旭川なかま基金」を設立しました。

役員名簿

理事長	近藤 博之	理事 (LOM の夢創造委員長)	岩井 隆行
直前理事長	嶋岡 寛之	理事 (未来のたから育成委員長)	櫻井 大生
顧問	石田 慶嗣	理事 (リーダーシップ委員長)	山田 裕二
副理事長 (みらいの旭川創造グループ)	平田 大樹	理事 (まちおこし支援委員長)	外崎 総司
副理事長 (広報・渉外グループ)	落合 孝優	理事 (夢をかなえる力実践委員長)	田村 拓司
副理事長 (未来創造グループ)	林 高 辞	理事 (LOM の魅力発信委員長)	重原 和也
副理事長 (旭川 JC 宣言実践グループ)	海老子川 雄介	理事 (LOM の力推進委員長)	川島 周弘
専務理事 (専務室)	村本 暁宣	理事 (総務委員長)	長谷川 正貴
指名理事 (みらいの旭川創造グループ室長)	鈴木 慎吾	監事	石川 耕介
指名理事 (旭川 JC 宣言実践グループ室長)	今津 寛介	監事	近藤 史典
指名理事 (広報・渉外グループ室長)	榊原 博史	監事	牧原 史典

卒業生

市川 範之	落合 考優	鏡 圭介	菊川 直人	齊藤 眞美
齊藤 三寛	田村 総司	外崎 裕二	西村 光	藤井 昇
村本 暁宣				

新 会 員

秋山 謙	石倉 佳明	伊藤 光裕	上田 積	菅井 謙
富居 慶幸	久志 卓豊	松山 奈々	吉村 諭	山田 篤
伊藤 久美	長井 翔一郎			

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2013 年度 新 会 員	上田 積
アクティブアワード	まちおこし支援委員会	副委員長 中澤 史匡
		副委員長 犬伏 和夫
		副委員長 北崎 悌綱
	夢をかなえる力実践委員会	委 員 石川 泰路
		副委員長 尾形 智勝
ななかまどアワード	(日本) 北海道ブロック協議会 (地区) 会務担当	会 長 嶋岡 寛之
	(日本) JC プログラム実践委員会	副 会 長 石田 慶嗣
	(地区) 道民意識醸成実践委員会	副委員長 牧原 史典
	(地区) 総務運営委員会	小 幹 事 海老子川 雄介
	(地区) 道北エリア運営会議	委 員 長 石川 泰路
ABC アワード	LOM の力推進委員会	委 員 員 重原 拓司
会員拡大アワード	まちおこし支援委員会	川島 和也 (他 5 名)
100% アワード		委 員 長 外崎 裕二
10 年間	石川 正貴	
8 年間	石田 慶嗣	嶋岡 寛之
6 年間	近藤 耕介	
5 年間	村本 暁宣	牧原 史典
4 年間	鈴木 慎吾	石川 泰路
3 年間	近藤 博之	重原 拓司
2 年間	北崎 悌綱	
1 年間	落合 孝優	海老子川 雄介
	櫻井 学	外崎 裕二
	中澤 史匡	田村 総司
	松山 奈々	長谷川 周弘
		犬伏 和夫
		伊藤 久美
		菅井 謙
		大樹 生
		高 辞
		榊原 博史
		川島 和也
		上田 積

出 向 者

日本青年会議所	北海道ブロック協議会	会 長 嶋岡 寛之
北海道地区協議会	(役員) 会務担当	副 会 長 嶋岡 寛之
	(役員) 道民意識醸成実践委員会	委 員 長 海老子川 雄介
		他 計 19 名



1 月第二例会

市長例会

担当：夢をかなえる力実践委員会



2 月第一例会

Ice wonderland 2013

Smile for ASAHIKAWA

担当：まちおこし支援委員会



2 月第二例会

育てよう！未来のたから見つめよう！

未来の夢 旭川は私たち次第！

担当：未来のたから育成委員会



4 月第二例会

The brand of Asahikawa JC

担当：LOM の夢創造委員会委員会



7 月第一例会・9 月第二例会

会員研修「企業力の向上と継続的な成功」のための第一歩

担当：LOM の力推進委員会



8 月第一例会

第 23 回烈夏七夕まつり

鼓・踊・山！魅せる烈夏魂

担当：まちおこし支援委員会



8 月第二例会

旭川ナナカマド基金設立に向けて

担当：LOM の夢創造委員会



10 月第二例会

旭川未来創造フォーラム 第一部

未来のたから育成フォーラム

担当：未来のたから育成委員会



10 月第二例会

旭川未来創造フォーラム 第二部

旭川経済の復活へ！アジアの成長を取り込め！

担当：夢をかなえる力実践委員会

1 月 1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1 月第二例会 市長例会

2 月 2 月第一例会 Ice wonderland 2013
Smile for ASAHIKAWA
2 月第二例会 育てよう！未来のたから
見つめよう！未来の夢～旭川は私たち次第！～

3 月 3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
J と C は青年のしるし！！24 時間語らえますか？
3 月第二例会 きっかけ・レッツゴー！！
～日本・地区事業へ～
新会員セミナー

4 月 4 月第一例会 Now, let's think together.
あさひかわ JC フォーラム
4 月第二例会 The brand of Asahikawa JC

5 月 5 月第一例会 会員拡大いつやるか？今でしょ！

6 月 新会員セミナー
6 月第一例会 情報共有例会
親睦事業 みんなのハートにアタック No.1

7 月 7 月第一例会 会員研修
「企業力の向上と継続的な成功」のための第一歩
7 月第二例会 臨時総会

8 月 8 月第一例会 第 23 回烈夏七夕まつり
鼓・踊・山！魅せる烈夏魂
8 月第二例会 旭川ナナカマド基金設立に向けて

9 月 9 月第一例会 定時総会
9 月第二例会 会員研修
「企業力の向上と継続的な成功」のための第一歩
新会員セミナー

10 月 10 月第一例会 新会員例会 愛を語るタベ
～家族をもっと幸せに、そしてまちづくりへ～
10 月第二例会 旭川未来創造フォーラム

11 月 11 月第一例会 第 63 回創立記念式典・祝賀会
11 月第二例会 卒業生例会
これだけは覚えておいていただこう

12 月 12 月第一例会 意気込み例会 ～勇往邁進～
夢あふれる旭川を創るのは俺たちだ！
12 月親睦事業 クリスマス DE ショー
～いつもは面と向かって言えない感謝の言葉だけど、
今日は、この場を借りて言わせてもらいます。…みんな、ありがとう～



第 6 4 代理事長

牧原 史典

—— 会員数 ——

75 名

(新会員: 12 名)
(卒業生: 22 名)

—— スローガン ——

勇往邁進

～夢あふれる
旭川創造に向けて～

＝ この年について ＝

「勇往邁進」目標や目的に向かって勇敢にまっすぐに突き進む。この言葉を胸に「夢あふれる旭川創造に向けて」メンバーと共に進みたいと強く思い、「夢ビジョン 2010」をより具体的にすべく、様々な運動を発信しました。

JCI 日本から公認トレーナーをお招きし、「Visual Future(VF)」「Community & Communication (COM&COM)」「JC ゲーム」の計 3 回のセミナーを開催した他、2016 年度北海道地区大会の実現に向けた誘致活動を行いました。結果は決選投票の末、函館での開催となり残念ながら地区大会の誘致には至りませんでした。この経験が後の 2020 年度へのつながるきっかけとなりました。

役員名簿

理事長	牧原 史典	理事(政治経済まちづくり委員長)	林 高	辞史
直前理事長	近藤 博之	理事(青少年育成委員長)	榊 原	博史
顧問	石田 慶嗣	理事(冬・夏まつり支援委員長)	稲 田	良輔
顧問	嶋岡 寛之	理事(広報・渉外委員長)	石 川	泰路
副理事長(地域未来グループ)	近藤 耕介	理事(新会員・会員研修委員長)	鈴 木	慎吾
副理事長(地域発信グループ)	長谷川 周弘	理事(総務・財務委員長)	喜 久	野介
副理事長(LOMの輝きグループ)	澤田 真由美	監事	櫻 井	夕学
専務理事(専務室)	海老川 雄介	監事	石 川	正大
指名理事(地域発信グループ室長)	岩井 隆行		平 田	
指名理事(LOMの輝きグループ室長)	山 田 大生			

卒業生

赤坂 英亮	石川 正貴	石田 慶嗣	伊藤 裕	稲田 良輔
犬伏 和夫	内田 貴弘	尾形 智勝	金田 白	小関 聖一
近藤 博之	櫻井 学	佐々木 雄二	林 高	舘 大樹
中井 章仁	中澤 史	野嶋 壮一郎	光信 雅	
牧原 史典	湯浅 秀昭		裕貴人 辞	

新 会 員

尾野 洋介	金田 信貴	林 祐作	平間 恵子	守田 和弘
山崎 真嗣	守谷 実	布子 克敏	清水 健史	橋本 直久
斎藤 徳尚	佐々木 洵			

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2014年度 新新会員	尾野 洋介
アクティブアワード	青少年育成委員会 副委員長	山崎 奈々
	冬・夏まつり支援委員会 副委員長	伊藤 久美
	広報・渉外委員会 副委員長	犬伏 和智
	新会員・会員研修委員会 副委員長	尾形 謙史
		菅井 綱秀
ななかまどアワード	(地区)地区大会運営委員会 委員長	北崎 耕介
	(地区)未来への責任意識確立委員会 委員長	湯浅 正貴
ABC アワード	新会員・会員研修委員会 委員長	近藤 拓
会員拡大アワード	新会員・会員研修委員会 副委員長	石川 重原
100%アワード		鈴木 慎吾 (他 6 名)
1 年間	石川 正貴	
9 年間	石田 慶嗣	
7 年間	近藤 耕介	
6 年間	牧原 史典	
5 年間	鈴木 慎吾	
4 年間	近藤 博之	
3 年間	北崎 綱秀	
2 年間	山田 大樹	
	伊藤 裕	
1 年間	澤田 真由美	
	平間 恵子	
	嶋岡 寛之	
	重原 拓司	
	海老川 雄介	
	平田 大樹	
	林 高	
	松中 裕	
	稲田 泰	
	守谷 実	
	石川 泰路	
	川島 和也	
	犬伏 秀昭	
	湯浅 昭	
	長谷川 周弘	
	尾形 智勝	
	尾野 洋介	

出 向 者

北海道地区協議会	(役員)直前ブロック会長兼 顧問	嶋岡 寛之
	(役員)地区大会運営委員会 委員長	近藤 耕介
		他 計 16 名



1 月第二例会

市長例会
～市長と語ろう市民参画と協働～
担当：政治経済まちづくり委員会



2 月第一例会

Ice wonderland 2014
～ Love for your Asahikawa ～
担当：冬・夏まつり支援委員会



5 月第二例会

次世代育成のための
ステップアップ
担当：青少年育成委員会



6 月第一例会

"Core" Case of SKM 2014
～ The way of Asahikawa's economic revolution ～
担当：政治経済まちづくり委員会



7 月第一例会

To organization "G to T"
～今いるメンバーで大会星をあげよう～
担当：新会員・会員研修委員会



8 月第一例会

第 24 回烈夏七タまつり 伝統への軌跡
～百年後へ紡ぐ創始の想い～
担当：冬・夏まつり支援委員会



8 月青少年育成事業

北の大地で未来体験 2014
担当：青少年育成委員会



地区大会誘致運動

北海道地区大会主管立候補に
関わる誘致運動
担当：ALL 旭川 JC



10 月第二例会

第二回旭川未来創造フォーラム
未来の豊かなあさひかわ創造に勇往邁進!
担当：政治経済まちづくり委員会

1 月 1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1 月第二例会 市長例会
～市長と語ろう市民参画と協働～

2 月 2 月第一例会 Ice wonderland 2014
～ Love for your Asahikawa ～
新会員セミナー第一弾「Visual Future (VF)」

3 月 3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
原点回帰～湯気あふれる旭川 JC 結束に向けて～
新会員セミナー第二弾
「Community & Communication (COM&COM)」

4 月 4 月第一例会 夢ビジョン 2010
～理念を実現させるための考え方～

5 月 5 月第一例会 地区・日本を知ろう！見よう！感じよう！
5 月第二例会 次世代育成のためのステップアップ
新会員セミナー第三弾「JC ゲーム」

6 月 6 月第一例会 "Core" Case of SKM 2014
～ The way of Asahikawa's economic revolution ～

7 月 7 月第一例会 To organization "G to T"
～今いるメンバーで大金星をあげよう～
7 月第二例会 臨時総会

8 月 8 月第一例会 第 24 回烈夏七タまつり
伝統への軌跡～百年後へ紡ぐ創始の想い～
青少年育成事業 北の大地で未来体験 2014

9 月 9 月第一例会 臨時総会
9 月第二例会 定時総会

10 月 10 月第一例会 新会員例会
JC による企業活動の応援の可能性について考える
10 月第二例会 第二回旭川未来創造フォーラム
未来の豊かなあさひかわ創造に勇往邁進！
旭川市長選挙立候補予定者 公開討論会

11 月 11 月第一例会 第 64 回創立記念式典・祝賀会
11 月第二例会 卒業生例会

12 月 12 月第一例会 意気込み例会
12 月親睦事業 クリスマスに
ありったけの愛をこめて



第65代理事長

鈴木 慎吾

—— 会員数 ——

71 名

(新会員: 20 名)
(卒業生: 11 名)

—— スローガン ——

Belief.Action

(ピリーフ・ドット・アクション)
～夢を信じ行動すること。
それをつなぐJCの力～

— この年について —

創立 65 周年の節目を迎える 2010 年代の中間地点として、地域の課題解決のために、世の中をもっとよくするために、地域と人々との間に生まれる、かけがえのない絆を「共感」という形に変えていくべく「夢をかたちに」をテーマとして、青少年育成とまちづくりの今後の方向性を示す創立 65 周年記念事業を開催。

青少年育成は夢を信じ叶えるために、主体的に行動する力を養うこと、まちづくりは、産官学民が連携したシンクタンク構想や、新たな資金集めの方法であるクラウドファンディングについての内容で開催されました。記念事業は道北エリア大会の開催地事業としても位置づけられ、道北エリアの他 LOM のメンバーも多く出席いただいた事業となりました。

役員名簿

理事長	鈴木 慎吾	理事(未来の夢創造委員長)	川島 和也
直前理事長	牧原 史典	理事(夏の伝統創造委員長)	岩井 隆行
顧問	嶋岡 寛之	理事(メンバーシップ委員長)	富居 慶幸
副理事長(まちの輝き創造室)	近藤 耕介	理事(組織マネジメント委員長)	重原 拓司
副理事長(地域づくり実践室)	澤田 真由美	理事(組織推進局次長)	小林 大祐
副理事長(LOMの力向上室)	山田 大生	監事	今津 寛介
専務理事(専務室)	石川 泰路	監事(外部)	石川 正貴
指名理事(組織推進局長)	長谷川 周弘	監事(外部)	近藤 博之
理事(まちづくりデザイン委員長)	鈴木 大介		

卒業生

秋山 謙	大西 康弘	金森 丈尚	北谷 憲市郎	作家 孝幸
澤田 真由美	嶋岡 寛之	鈴木 英和	皆川 岳大	山崎 真嗣
山田 篤				

新 会 員

大西 謙次郎	落合 正行	加藤 廣二	金森 丈尚	工藤 森
後藤 正則	疋崎 恭寛	新谷 逸生	高橋 宏典	田宮 英和
遠山 優太	西野目 智弘	早川 早生	松田 基樹	岡崎 紘奈
福島 卓志	山上 雄司	守田 敬幸	高島 直樹	山田 知央

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2015年度 新 会 員	新 会 員	新谷 逸生
		新 会 員	落合 正行
アクティブアワード	まちづくりデザイン委員会	副委員長	秋山 謙
		副委員長	菅井 謙敬
	未来の夢創造委員会	副委員長	守谷 実
	メンバーシップ委員会	副委員長	上田 積
		副委員長	平間 恵子
ななかまどアワード	(地区)道北エリア運営会議	議 員	澤田 真由美
		議 員	平間 恵子
A B C アワード	まちづくりデザイン委員会	鈴木 大介 (他7名)	
The President アワード	未来の夢創造委員会	委 員 長	川島 和也
会員拡大アワード	メンバーシップ委員会	副委員長	上田 積
100%アワード			
12年間	石川 正貴		
10年間	嶋岡 寛之		
8年間	近藤 耕介		
7年間	石川 泰路	重原 拓司	牧原 史典
6年間	鈴木 慎吾	川島 和也	菅井 謙敬
3年間	上田 積		長谷川 周弘
	山田 大生		
2年間	澤田 真由美	平間 恵子	守谷 実
1年間	秋山 謙	今津 寛介	落合 正行
	新谷 逸生	鈴木 大介	富居 慶幸
	工藤 森		小林 大祐
			大祐 作

出 向 者

日本青年会議所	地域再興会議 議 員	海老子川 雄介
北海道地区協議会	グローバルビジョン育成委員会 副委員長	今津 寛介
	財政特別委員会 副委員長	近藤 耕介
		他 計 12 名



1 月第二例会

市長例会 市長と語る夕べ
～更なる旭川の発展を目指して～
担当：まちづくりデザイン委員会



2 月第一例会

It's a Snow World 2015
担当：未来の夢創造委員会



4 月第一例会

青少年よ大志を抱け！
～a youth be Ambitious 2015～
担当：組織推進局



5 月第一例会

知ろう旭川!! 伝えよう魅力を!!
～旭川を知り行動すること。それをつなぐメンバーの力～
担当：未来の夢創造委員会



6 月第一例会

外から稼いで内でまわす旭川をつくるために
～外貨獲得・地域内経済循環モデルの旭川における適用と実践～
担当：まちづくりデザイン委員会



8 月第一例会

第 25 回烈夏七夕まつり
～継承…そして伝統へ～
担当：夏の伝統創造委員会



8 月青少年育成事業

未来を切り拓く
0 泊 1 日・旭川体験ツアー
担当：未来の夢創造委員会



創立 65 周年記念事業

第一弾 夢をかたちにする
まちづくり戦略フォーラム
担当：まちづくりデザイン委員会



創立 65 周年記念事業

第二弾 若者による
旭川魅力発信のしゃべり場
担当：未来の夢創造委員会

- 1 月 1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送る夕べ
1 月第二例会 市長例会 市長と語る夕べ
～更なる旭川の発展を目指して～
- 2 月 2 月第一例会 It's a Snow World 2015
新会員セミナー～ JC を学んで頂きます～
- 3 月 3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
～夢を信じ一泊すること。それをつなぐ温泉の力～
3 月第二例会 きつかけ・レッツゴー!!
～日本・地区事業へ～
- 4 月 4 月第一例会 青年よ大志を抱け!
～a youth be Ambitious 2015～
4 月異業種交流セミナー
春だ! 若手経済人 集まれ～
- 5 月 5 月第一例会 知ろう旭川!! 伝えよう魅力を
～旭川を知り行動すること。それをつなぐメンバーの力～
新会員セミナー～楽しく学ぼう!
覚えよう!! セレモニー道場～
- 6 月 6 月第一例会 外から稼いで内でまわす旭川をつくるために
～外貨獲得・地域内経済循環モデルの
旭川における適用と実践～
6 月親睦事業 JC 食の祭典～ Cooking.Action ～

- 7 月 7 月第二例会 会員研修は、LOM の力を向上させるのです。
～継続的会員研修とその実践～
- 8 月 8 月第一例会 第 25 回烈夏七夕まつり
～継承…そして伝統へ～
8 月青少年育成事業 未来を切り拓く
0 泊 1 日・旭川体験ツアー
- 9 月 (7 月第一例会) 臨時総会
9 月第一例会 定時総会
- 10 月 10 月第一例会 新会員例会
The Power of Everyone 町内会から考えるまちづくり
JC による企業活動の応援の可能性について考える
10 月第二例会 創立 65 周年記念事業
第一弾 夢をかたちにするまちづくり戦略フォーラム
第二弾 若者による旭川魅力発信のしゃべり場
- 11 月 11 月第一例会 第 65 回創立記念式典・祝賀会
11 月第二例会 卒業生例会
- 12 月 12 月第一例会 意気込み例会
12 月親睦事業 ランチ DE クリスマス



第 6 6 代理事長

石川 泰路

—— 会員数 ——

69 名

(新会員: 14 名)
(卒業生: 13 名)

—— スローガン ——

Next Stage on the Dreamers

～五年後の未来を描き、
踏み出す青年達～

＝ この年について ＝

2010 年代後半にさしかかるスタートの年として、宣言文のなかの一文にある「豊かさの探求によるわがまち・あさひかわの発展」について深く掘り下げ、2020 年に向けて方向を指示すスタートの一年とするべく、地方創生、青少年育成、地域のリーダーづくりなど様々な運動や事業を行いました。年間を通じて「みんなで話す」ということをテーマに産官学連携の発展を掲げた活動や、自主性を持った青少年の育成、旭川夏まつり 55 周年を記念した北海道内の他のまつりとコラボレーションをした烈夏七夕まつり、「心あるまちづくり」を推進する I LOVE あさひかわキャンペーンなどを行いました。

役員名簿

理事長	石川 泰路	理事(地域の活力創造委員長)	伊藤 久美
直前理事長	鈴木 慎吾	理事(未来の力支援委員長)	今津 寛介
副理事長(心あるまちづくり推進室)	海老子川 雄介	理事(アカデミー研修委員長)	近藤 耕介
副理事長(地域の生きる力発見室)	川島 和也	理事(組織の力継続委員長)	北崎 悌綱
副理事長(未来のリーダー育成室)	富居 慶幸	理事(ファンづくり発信室委員長)	平間 恵子
専務理事(専務室)	長谷川 周弘	監事	山田 大生
指名理事(ファンづくり発信室長)	鈴木 大介	監事(外部)	石川 正貴
理事(出向者連絡会議長)	重原 拓司	監事(外部)	牧原 史典
理事(まちの豊かさ循環委員長)	菅井 謙敬		

卒業生

今津 寛介	入場 健太郎	海野 悠	落合 正行	喜久野 夕介
木村 光宏	富居 慶幸	中野渡 信隆	西野目 智弘	布子 克敏
早川 智浩	平沢 武志	山田 大生		

新 会 員

後藤 啓介	瀧川 継未	竹澤 一樹	中野渡 信隆	橋本 直樹
平沢 武志	渡部 康晴	酒井 美佳	能澤 悠多	溝口 鉄也
山田 隼人	木村 光宏	金田 一宏	後藤 啓輔	

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2016 年度 新 会 員	平沢 武志
	2015 年度後期 新 会 員	山田 知央
アクティブアワード	未来の力支援委員会 副委員長	落合 正行
	アカデミー研修委員会 副委員長	佐々木 洵奈
	ファンづくり発信委員会 副委員長	岡崎 紘生
	地域の力継続委員会 副委員長	新谷 逸生
	地域の力継続委員会 副委員長	工藤 森積
ななかまどアワード	(地区)良循環地域創造委員会 委 員 長	鈴木 慎吾
	(地区)和の心創造委員会 幹 事	鈴木 大介
	(地区)地区大会運営委員会 副委員長	山田 大生
		山田 知央
		守谷 実
ABC アワード	まちの豊かさ循環委員会 菅井 謙敬 (他 9 名)	
会員拡大アワード	ファンづくり発信室 副委員長	新谷 逸生
100%アワード		
9 年間	近藤 耕介	
8 年間	石川 泰路	重原 拓司
7 年間	鈴木 慎吾	
4 年間	川島 和也	上田 積
	長谷川 周弘	菅井 謙敬
3 年間	平間 恵子	守谷 実
2 年間	今津 寛介	落合 正行
	富居 慶幸	新谷 逸生
1 年間	北崎 悌綱	鈴木 大介
	海老子川 雄介	山田 知央
	佐々木 洵	岡崎 紘奈

出 向 者

北海道地区協議会	(役員)良循環地域創造委員会 委 員 長	鈴木 慎吾
		他 計 18 名



1月第二例会

市長例会 官民協働のまちづくり
～小さな一歩がつくる大きな未来～
担当：まちの豊かさ循環委員会



2月第一例会

旭川青年会議所プレゼンツ
チルドレンフェスティバル
担当：未来の力支援委員会



5月第一例会

主体的に行動する日本人の育て方
担当：未来の力支援委員会



6月第一例会 公開例会

協働のまちづくり
～JAYCEE にできること～
担当：まちの豊かさ循環委員会



7月第一例会

Change your MIND Change your LIFE
～今切り拓く無限の可能性～
担当：アカデミー研修委員会



8月第一例会

第26回烈夏七夕まつり
～伝統の創造～
担当：地域の活力創造委員会



毎月第1・第3水曜日

JC radio station
(FM リバー 14:30-15:00)
担当：ファンづくり発信室



11月旭川創生事業

まちづくりフェス旭川
～人と人をつなぐ、心あるまちづくり～
担当：三役



11月第一例会

学校と会社をつなぐ産学連携フォーラム
教室と会社の現場で活かす『アクティブラーニング』の可能性
担当：まちの豊かさ循環委員会

- 1月 1月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1月第二例会 市長例会 官民協働のまちづくり
～小さな一歩がつくる大きな未来～
- 2月 2月第一例会 第57回旭川冬まつり支援事業
旭川青年会議所プレゼンツ チルドレンフェスティバル
第1回新会員セミナー
～熱き心あふれる JAYCEE を目指して～
- 3月 3月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
～明日への絆を深め、泊まり込む青年達～
- 4月 4月第一例会 MA・TSU・RI
～知ろう語ろう烈夏七夕まつり～
異業種交流会～青年経済人の集い 2016 春～
- 5月 5月第一例会 主体的に行動する日本人の育て方
第2回新会員セミナー
～熱き心あふれる JAYCEE を目指して～
- 6月 6月第一例会 協働のまちづくり
～JAYCEE にできること～
6月親睦事業 仲間とクラブで
未来を切り拓け！輝く BBQ 懇親に向けて

- 7月 7月第一例会 Change your MIND Change your LIFE
～今切り拓く無限の可能性～
- 8月 8月第一例会 第26回烈夏七夕まつり
～伝統の創造～
8月青少年事業 親子でいっぱい体験しよう
わくわく体験バスツアー
8月第二例会 臨時総会
- 9月 9月第一例会 定時総会
- 10月 10月第一例会 新会員例会 POWER OF HUMAN
～若者と JC が協働する街づくり～
- 11月 11月旭川創生事業 まちづくりフェス旭川
～人と人をつなぐ、心あるまちづくり～
11月第一例会 学校と会社をつなぐ産学連携フォーラム
教室と会社の現場で活かす『アクティブラーニング』の可能性
～地方創生の鍵を握るのは、センサーとシャッコーの人づくりだ！～
11月第二例会 第66回創立記念式典・祝賀会
11月第三例会 卒業生例会 卒論
- 12月 12月第一例会 2017 年度各委員会
プレゼン＆チアーズ
12月親睦事業 JC クリスマスパーティ



第 6 7 代理事長

海老子川 雄介

—— 会員数 ——

71 名

(新会員: 19 名)
(卒業生: 13 名)

—— スローガン ——

前 進

— この年について —

とりわけ力を入れたのが
中心市街の活性化です。旭
川青年会議所の先輩諸兄が
創った日本で初めてとなる
恒久型歩行者天国「買物公
園」。地域の代表的な季節
のイベントとなっている烈
夏七夕まつりや旭川冬まつ
りをはじめ、わが街の顔と
なる様々な中心部の賑わい
を創ってきました。

冬まつり支援事業では開
園 100 周年を記念して常
磐公園で再び賑わいを創
り、烈夏七夕まつりでは買
物公園に笹短冊を設置。買
物公園ができた頃の街の勢
いを感じさせてくれた総務
委員会による「買物公園例
会」。一杯をかけて高校生
が買物公園に集結した「旭
川ラーメン甲子園」。さら
には新会員による例会テー
マも「常磐公園」、親睦事
業もまちなかゴミ拾いラ
リー。まちなかの活性化に
つながる取り組みをメン
バー挙げて徹底して行いま
した。

役員名簿

理事長	海老子川 雄介	理事 (人財委員長)	新 谷 逸 生
直前理事長	石 川 泰 路	理事 (冬まつり事務局長)	守 谷 実 矢
顧問	鈴 木 慎 吾	理事 (旭川創生委員長)	工 藤 森 樹
副理事長 (人財室)	榊 原 博 史	理事 (政治経済委員長)	松 田 基 樹
副理事長 (地域資源室)	守 田 和 弘	理事 (烈夏事務局長)	清 水 健 史
副理事長 (まちづくり室)	北 崎 悌 綱	理事 (総務委員長)	上 田 積 介
専務理事 (推進室)	岩 井 隆 行	監事	近 藤 耕 介
理事 (まちづくり室長)	菅 井 謙 敬	監事	山 田 大 介
理事 (推進室長)	長 井 翔 一 郎	監事 (外部)	山 田 大 介

卒 業 生

加 藤 廣 二	金 田 一 宏	上 村 有 史	後 藤 啓 輔	榊 原 博 史
鈴 木 慎 吾	鈴 木 大 介	守 田 和 弘	守 田 敬 幸	守 谷 実 矢
山 上 雄 司	山 添 宏 基	渡 邊 正 俊		

新 会 員

上 堀 倫 典	太 田 二 郎	佐々木 雄大	西 脇 務	野 村 晋 也
堀 田 一 寿	三 津 谷 宏	山 本 英 樹	渡 邊 正 俊	平 川 貴 幸
森 屋 政 人	宇 山 浩 好	筒 井 和 騎	大 野 史 聖	原 川 貴 幸
加 藤 伊 織	稲 沢 春 香	佐々木 聖	近 藤 修 司	

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2017年度 新 会 員	野 村 晋 也
アクティブアワード	政治経済委員会 副委員長	後 藤 啓 輔
	冬まつり事務局 副委員長	重 原 拓 司
ななかまどアワード	(地区) 広報渉外委員会 委 員 長	石 川 泰 路
	(地区) 経済再生戦略委員会 副委員長	平 間 恵 子
	(地区) 財政特別委員会 副委員長	後 藤 啓 輔
	(地区) 地区大会運営委員会 委 員 長	鈴 木 大 介
	(地区) 道北エリア運営会議 副 議 長	山 田 知 央
		守 谷 実 矢
		近 藤 耕 介
		鈴 木 慎 吾
		新 谷 逸 生
		山 田 隼 人

A B C アワード	広報渉外委員会 上 田 積 (他 6 名)
会員拡大アワード	烈夏事務局 副 局 長 山 田 知 央

100%アワード																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				</
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

出 向 者

北海道地区協議会	(役員) 広報渉外委員会 委 員 長	石 川 泰 路
	道北エリアアカデミー研修塾 塾 長	鈴 木 慎 吾
		他 計 17 名



1月第二例会

若者の活気に満ちたまちづくり
担当：政治経済委員会



2月第一例会

第58回旭川冬まつり支援事業
わくわく ICE SQUARE in TOKIWA
担当：冬まつり事務局



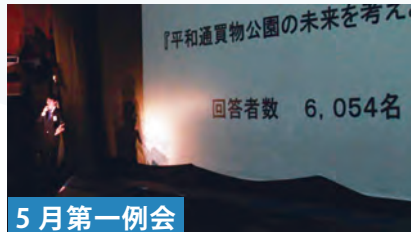
2月第二例会

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE～一人は皆のために、
皆は1人のために、スポーツに学ぶ組織力～
担当：人財委員会



4月第一例会

地域資源が育む郷土愛
～人と人が繋ぐ地域の魅力～
担当：旭川創生委員会



5月第一例会

平和買物公園
出発～現在～未来への前進
担当：総務委員会



7月第一例会

そうだ！地元を知ろう！
魅力いっぱい旭川体験バスツアー
担当：旭川創生委員会



8月第一例会

第27回烈夏七夕まつり
伝統への軌跡～百年後へ紡ぐ創始の想い～
担当：烈夏事務局



10月第一例会

旭川の中で郷土愛を叫ぼう
～青少年から創めるまちづくり～
担当：旭川創生委員会



11月事業

じもと×しごと発見フェア
旭川開催
担当：政治経済委員会

1月 1月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
1月第二例会 若者の活気に満ちたまちづくり

2月 2月第一例会 第58回旭川冬まつり支援事業
わくわく ICE SQUARE in TOKIWA
2月第二例会 ONE FOR ALL, ALL FOR ONE
～一人は皆のために、皆は1人のために、
スポーツに学ぶ組織力～

3月 3月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業
ZENSHIN all night ～気持ちは清らかに
身体すべてぶつかりあい 前へ進もう～

4月 4月第一例会 地域資源が育む郷土愛
～人と人が繋ぐ地域の魅力～

5月 5月第一例会 平和通買物公園
「出発～現在～未来への前進」

6月 6月親睦事業 J-WALK ～何もかも言えたよ…夏～

7月 7月第一例会 そうだ！地元を知ろう！
魅力いっぱい旭川体験バスツアー

8月 8月第一例会 第27回烈夏七夕まつり
伝統への軌跡～百年後へ紡ぐ創始の想い～
8月青少年事業 親子でいっぱい体験しよう
わくわく体験バスツアー

9月 9月第一例会 『ZERO TO ONE』
～"0" から "1" を生み出す力～
9月第二例会 臨時総会
9月第三例会 定時総会

10月 10月第一例会 旭川の中で郷土愛を叫ぼう
～青少年から創めるまちづくり～
10月第二例会 新会員例会
今進 imagine ～いま、地域資源を想う～

11月 11月事業 じもと×しごと発見フェア 旭川開催
11月第一例会 創立67周年記念式典・祝賀会
11月第二例会 卒業生例会 全力前進

12月 12月第一例会 2018年度各委員会よ
暁にほえろ！
12月親睦事業 JC クリスマスパーティ



第68代理事長

岩井 隆行

—— 会員数 ——

66名

(新会員: 16名)
(卒業生: 14名)

—— スローガン ——

暁 想像し創造する

— この年について —

各委員会主導で、自らが考えて事業の案を出して計画していくという事、そして楽しく運動を展開するという事を念頭に、烈夏七夕まつりに関しては、一つの委員会が担当するのではなく、全体事業と位置付けて各部会をそれぞれの委員会に割り振り行いました。また、秋に新たな賑わいを創ろうと、旭川地場産業振興センターでラーメン杯2018を開催。市民一体となってラーメンを盛り上げたいという想いから、プロの店舗ではなくアマチュアの方を集めて、ラーメンを作り一般の方に振る舞うという企画内容でした。併催で年を通じて集結した中高生が中心となって夢会議2018と題した事業を企画。小学生向けに様々な職業体験を行う事業となりました。さらに北海道地区大会の主管立候補をし、全道46LOMの承認を経て、2020年度に開催が決定しました。

役員名簿

理事長	岩井 隆行	理事(旭川創生委員長)	平間 恵子
直前理事長	海老子川 雄介	理事(政治経済委員長)	高橋 宏典
顧問	石川 泰路	理事(人財委員長)	山田 隼人
副理事長(人財室)	菅井 謙敬	理事(まつり事務局長)	尾野 洋介
副理事長(地域資源室)	伊藤 久美	理事(広報渉外委員長)	上田 積
副理事長(まちづくり室)	清水 健史	理事(総務委員長)	渡部 康晴
専務理事(推進室)	新谷 逸生	監事	長井 翔一郎
指名理事(地域資源室長)	北崎 悌綱	監事(外部)	鈴木 慎吾
理事(推進室長)	工藤 森	監事(外部)	守田 和弘

卒業生

上田 積	上堀 倫典	海老子川 雄介	川島 和也	小林 大祐
近藤 耕介	斎藤 徳尚	助安 秀章	高橋 健太	長谷川 周弘
藤野 友理子	堀田 一寿	松田 基樹	山本 英樹	

新 会 員

池田 圭治	大西 紀一郎	媚山 将平	高塚 託也	竹田 崇裕
棚橋 真希	谷川 輝正	戸田 昭弘	畑中 真吾	春木 正樹
藤野 友里子	本間 寛	村井 正雄	山崎 五良	山本 優作
龍後 篤志				

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2018年度 新 会 員	棚橋 真希
アクティブアワード	まつり事務局 副 局 長	野村 晋也
ななかまどアワード	(地区)総務委員会 副委員長	上田 積
	委 員	堀田 一寿
	(地区)地区大会運営委員会 委 員	平間 恵子
A B Cアワード	まつり事務局	尾野 洋介(他4名)
会員拡大アワード	広報渉外委員会 副委員長	小林 大祐
100%アワード		
11年間	近藤 耕介	
10年間	石川 泰路	重原 拓司
6年間	上田 積	菅井 謙敬
5年間	平間 恵子	
4年間	新谷 逸生	工藤 森
3年間	佐々木 洵	海老子川 雄介
2年間	岩井 隆行	清水 健史
1年間	宇山 浩好	堀田 一寿
		山田 隼人
		棚橋 真希
		野村 晋也

出 向 者

日本青年会議所	財政審査会議 幹 事	清水 健史
北海道地区協議会	(役員)道北エリア担当 副 会 長	海老子川 雄介
	(役員)事務局 局 長	石川 泰路
		他 計 26名



2月第一例会

第59回旭川冬まつり支援事業
わくわく ICE SQUARE in TOKIWA2018
担当：まつり事務局



3月第二例会

市民と創る冬のあさひかわ
担当：政治経済委員会



4月第一例会

ぼくらのまちづくり
～みんなでまちづくり～
担当：旭川創生委員会



5月第一例会

協心戮力～2020年北海道
地区会員大会への道～
担当：総務委員会



6月第二例会

make the next leap
～JCの更なる可能性～
担当：人財委員会



8月第一例会

第28回烈夏七夕まつり
～誇り高き魂、伝統の夏～
担当：まつり事務局



10月第一例会

ASAHIKAWAの魅力を発信する
担当：政治経済委員会



10月第三例会

夢会議2018～学生が考えるまちづくり
夢をつかめ！ユメツカ旭川2018
担当：旭川創生委員会



10月第三例会

地域資源を生かした賑わい
第1回ラーメン杯2018
担当：まつり事務局

1月	1月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
2月	2月第一例会 第59回旭川冬まつり支援事業 わくわく ICE SQUARE in TOKIWA2018
3月	3月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業 All Night to AKATSUKI ～暁まで渾身に懇親しよう～ 3月第二例会 市民と創る冬のあさひかわ
4月	4月第一例会 ぼくらのまちづくり ～みんなでまちづくり
5月	5月第一例会 協心戮力 ～2020年北海道地区会員大会への道～
6月	6月第一例会 臨時総会 6月第二例会 make the next leap ～JCの更なる可能性～

7月	7月第一例会 会員会議所会議 in 根室
8月	8月第一例会 第28回 烈夏七夕まつり ～誇り高き魂、伝統の夏～
9月	9月第一例会 定時総会
10月	10月第一例会 ASAHIKAWAの魅力を発信する 10月第二例会 新会員例会 A healthy life ～旭川を健康なまちへ～ 10月第三例会 夢会議2018 ～学生が考えるまちづくり＆第一回ラーメン杯
11月	11月事業 じもと×しごと発見フェア 旭川開催 11月第一例会 創立68周年記念式典・祝賀会 11月第二例会 卒業生例会
12月	12月第一例会 意気込み例会 12月親睦事業 JC クリスマスパーティ



第69代理事長

菅井 謙敬

—— 会員数 ——

69名

(新会員: 22名)
(卒業生: 9名)

—— スローガン ——

楔の心

— この年について —

「楔」が持つ意味の通り、何かを砕き刻む楔と、何かと何かを繋ぎ強固なものにする楔。この二つの想いを込めて、今後の旭川の発展に向けて、内部の組織運営に対する考え方、文化、歴史、政治、経済、教育、環境、地域など事業の対象分野、そして世代や性別、人種、国籍、マジョリティやマイノリティを問わず、全てに目を向け楔の心を持ってまちづくりを行いました。

2月には旭川冬まつり支援事業、8月には烈夏七夕まつりを行いました。また、旭川の文化をテーマとした例会を3月に行い、8月に様々な文化を体験する事業を実施。他にも旭川の経済発展の可能性を旭川空港の利活用や、北海道から距離が一番近い外国であるロシアとのビジネス交流から提案。また、来年に控えた北海道地区大会旭川大会の実施に向けて機運を高める年となりました。

役員名簿

理事長	菅井 謙敬	理事(政治経済委員長)	山田 知央
直前理事長	岩井 隆行	理事(旭川創生委員長)	筒井 和騎
顧問	石川 泰路	理事(まつり事務局長)	宇山 浩好
副理事長(人財室)	新谷 逸生	理事(人財委員長)	野村 晋也
副理事長(地域資源室)	清水 健史	理事(総務委員長)	尾野 洋介
副理事長(まちづくり室)	高橋 宏典	監事	重原 拓司
専務理事(推進室)	工藤 森	監事(外部)	海老子川 雄介
指名理事(地区大会特別委員長)	山田 隼人	監事(外部)	近藤 耕介
理事(推進室 室長)	平間 恵子	監事(外部)	鈴木 慎吾

卒業生

伊藤 久美	太田 二郎	工藤 森	久保 竜弥	菅井 謙敬
西脇 務	本間 寛	森屋 政人	龍後 篤志	

新会員

庵原 克俊	蝦名 安信	尾崎 恒夫	岸井 一憲	工藤 貴弘
小峯 督朗	中本 吉彦	成田 卓也	西野 晃正	野畑 健太郎
馬場 智章	藤兼 大和	堀 直也	湯野 永知	若林 正城
久保 竜弥	奈良岡 美咲	印南 雄太郎	坂下 翼	横内 浩平
渡邊 涼太	谷川 虎太郎			

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2019年度 新会員	小峯 督朗
アクティブアワード	まつり事務局 副局長	西脇 務
ななかまどアワード	(地区)持続可能社会創造委員会 幹事	池田 圭治
	(地区)道北エリア運営会議 議員	野村 晋也
	(地区)道北エリアアカデミー研修塾 代表幹事	岸井 一憲
ABCアワード	地区大会特別委員会	山田 隼人(他3名)
会員拡大アワード	人財委員会 副委員長	山崎 五良
100%アワード		
11年間	石川 泰路	重原 拓司
7年間	菅井 謙敬	
6年間	平間 恵子	
5年間	新谷 逸生	工藤 森
4年間	佐々木 洵	
3年間	清水 健史	山田 隼人
2年間	宇山 浩好	棚橋 真希
1年間	高橋 宏典	筒井 和騎
	馬場 智章	野村 晋也
		尾野 洋介
		小峯 督朗

出向者

北海道地区協議会	(役員) 運営専務	石川 泰路
	(役員) 持続可能社会創造委員会 委員長	新谷 逸生
	(役員) 地区大会運営委員会 委員長	平間 恵子
		他 計 21名



2 月第一例会

第 60 回旭川冬まつり支援事業
わくわく ICE SQUARE in TOKIWA
担当：まつり事務局



3 月第二例会

人生の豊かにする文化のチカラ
～大人達が豊かにするまちへ～
担当：旭川創生委員会



4 月第一例会

市長例会
「旭川の発展が北海道を救う」
担当：政治経済委員会



5 月第一例会

楔～身近に感じる地区大会～
担当：総務委員会・地区大会特別委員会



6 月第二例会

our mission～自身と組織の
強化と拡大～& 異業種交流会
担当：人財委員会



8 月第一例会

第 29 回烈夏七夕まつり
～市民みんなでレッカ、レッカ！～
担当：まつり事務局



8 月第二例会

ぶんか体験コレクション
～文化で心を豊かに～
担当：旭川創生委員会



9 月第二例会

第 68 回北海道地区大会
北見大会への参画
担当：地区大会特別委員会



9 月第三例会

道は北にあり！
～ロシアとの関係に迫る～
担当：政治経済委員会

1 月	1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
2 月	2 月第一例会 第 60 回旭川冬まつり支援事業 わくわく ICE SQUARE in TOKIWA
3 月	3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業 Deepen the wedge ～楔を深め前進しよう～ 3 月第二例会 人生を豊かにする文化のチカラ 3 月第三例会 公開討論会 ～北海道を動かすのは旭川だ！～
4 月	4 月第一例会 旭川の発展が北海道を救う
5 月	5 月第一例会 楔～身近に感じる地区大会～
6 月	6 月第一例会「Our Mission」 ～自信と組織の強化と拡大～& 異業種交流会 6 月親睦事業 サンロクでゴミ拾いナイトウォーク

7 月	7 月第一例会 臨時総会
8 月	8 月第一例会 第 29 回 烈夏七夕まつり ～市民みんなでレッカ、レッカ！～ 8 月第二例会 ぶんか体験コレクション ～文化で心を豊かに～
9 月	9 月第一例会 定時総会 9 月第二例会 第 68 回北海道大会北見大会 9 月第三例会 道は北にあり！ ～ロシアとの関係に迫る～
10 月	10 月第一例会 新会員例会 旭川農業の底力～その可能性を探る～
11 月	11 月第一例会 創立 69 周年記念式典・祝賀会 11 月第二例会 卒業生例会
12 月	12 月第一例会 意気込み例会 12 月親睦事業 JC クリスマスパーティ



第70代理事長

新谷 逸生

会員数

64名

(新会員: 11名)
(卒業生: 8名)

スローガン

躍動

～未来へつなぐ感謝～

この年について

創立70周年、烈夏七夕まつり30回目、そして北海道地区大会旭川大会の開催と大きなイベントが重なった年でした。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、スケジュール含め様々な変化を強いられたなか「いま出来ることを精一杯行おう」とメンバー全員が団結し、特に地区大会は開催ギリギリまでスケジュールの変更があり、開催方法も従来のものではない新しいことへのチャレンジの連続となりました。

烈夏七夕まつりの記念すべき第30回は中止となりましたが、「創始の想い」を紡ぐべく、歴史を振り返る記念式典として開催しました。また、旭川市内の小学5・6年生に自分たちの夢を描いてもらい、集まった734枚の夢の中から投票で選ばれた児童に職業体験を通じた夢の体験をしていただきました。

役員名簿

理事長	新谷 逸生	理事(創立70周年特別委員長)	山崎 五良
直前理事長	菅井 謙敬	理事(人財委員長)	山田 知央
顧問	石川 泰路	理事(まつり事務局長)	遠山 優太
副理事長(地域資源室)	尾野 洋介	理事(旭川創生委員長)	能澤 悠多
副理事長(まちづくり室)	平間 恵子	理事(政治経済委員長)	林 祐作
副理事長(組織開発室)	渡部 康晴	理事(広報渉外委員長)	池田 圭治
専務理事(運営室)	山田 隼人	理事(総務委員長)	佐々木 洵
指名理事(まちづくり室長)	清水 健史	監事	高橋 宏典
理事(組織開発室長)	筒井 和騎	監事	重原 拓司
理事(地域資源室長)	宇山 浩好	監事(外部)	近藤 耕介
理事(運営室長)	佐々木 雄大	監事(外部)	海老子川 雄介

卒業生

印南 雄太郎	宇山 浩好	大西 紀一郎	吟崎 恭寛	高橋 宏典
平間 恵子	山田 知央	若林 正城		

新会員

石坂 圭	遠藤 健晃	川村 健太	熊谷 哲一	小林 大晋
佐々木 勇輔	高尾 健一郎	中保 翔太	藤井 裕万	堀 浩之
山本 昌史				

褒賞受賞者

フレッシュマンアワード	2020年度		新 会 員	中保	翔太
アクティブアワード	旭川創生委員会		副委員長	馬場	智章
ななかまどアワード	(地区)	総務広報委員会	副委員長	岸井	一憲
A B Cアワード	旭川創生委員会		能 澤	悠 多 (他5名)	
会員拡大アワード	70周年特別委員会		委 員 長	山崎	五良
100%アワード					
12年間	石川	泰路	重原	拓司	
7年間	平間	恵子			
6年間	新谷	逸生			
5年間	佐々木	洵			
4年間	野村	晋也	山田	隼人	清水 健史
3年間	宇山	浩好			
2年間	小峯	督朗	馬場	智章	筒井 和騎 尾野 洋介
1年間	石坂	圭	中保	翔太	堀 浩之 岸井 一憲
	中本	吉彦	遠山	優太	池田 圭治 佐々木 雄大
	能澤	悠多	渡部	康晴	林 祐作

出向者

北海道地区協議会	(役員) 顧問 石川 泰路
	他 計12名



2 月第一例会

第 61 回旭川冬まつり支援事業
わくわく ICE SQUARE in TOKIWA
担当：まつり事務局



地域支援事業

旭川市教育委員会へ
3000 枚のマスクを寄贈
担当：三役



5 月第一例会

市長対談 新型コロナウイルス
(COVID-19) に伴う旭川の現状と対策
担当：政治経済委員会



7 月第二例会

願い〜旭川に大きな光と
賑わいを〜
担当：まつり事務局



8 月第一例会

第 30 回烈夏七夕まつり記念式典
担当：まつり事務局



9 月第一例会

第 69 回大会北海道地区旭川大会
咲誇る未来へ
担当：ALL 旭川 JC



10 月第一例会

青少年よ未来へはばたけ！
〜夢を描こう〜
担当：旭川創生委員会



11 月第一例会

aSappy も Daisuki
Genki な asahikawa
担当：/ 広報渉外委員会



11 月第二例会

創立 70 周年記念式典
担当：/ 創立 70 周年特別委員会

1 月	1 月第一例会 定時総会／新年交礼会／卒業生を送るタベ
2 月	2 月第一例会 第 61 回旭川冬まつり支援事業 わくわく ICE SQUARE in TOKIWA
3 月	3 月第一例会 新会員仮配属式／一泊親睦事業 躍湯〜持続可能な温泉事業〜
4 月	旭川市教育委員会へ 3,000 枚のマスクを寄贈 4 月第一例会 旭川 JC 宣言の検証と今後
5 月	5 月第一例会 市長対談 新型コロナウイルス (COVID-19) に伴う旭川の現状と対策
6 月	6 月第一例会 みんなで元気になろう！ JC 運動とコロナの共存

7 月	7 月第一例会 臨時総会 7 月第二例会 願い 〜旭川に大きな光と賑わいを〜
8 月	8 月第一例会 第 30 回 烈夏七夕まつり記念式典
9 月	9 月第一例会 第 69 回北海道大会旭川大会 9 月第二例会 定時総会
10 月	10 月第一例会 青少年よ未来へはばたけ！ 〜夢を描こう〜 10 月第二例会 新会員例会 女性が企業の未来を救う！〜持続可能な企業を目指して〜
11 月	11 月第一例会 SDGs 推進例会 aSappy も Daisuki Genki な asahikawa 11 月第二例会 創立 70 周年記念式典 11 月第三例会 卒業生例会
12 月	12 月第一例会 意気込み例会 12 月親睦事業 JC クリスマスパーティ



創立 70 周年記念事業

植樹事業〜感謝のバトン〜
は延期となり 2021 年 6 月
23 日に行いました
担当：2021 年度広報渉外委員会

トピックス

▶ 歴代理事長座談会

▶ 第 69 回北海道地区大会旭川大会 (2020 年)

▶ 旭川ナナカマド基金の設立 (2013 年～)

▶ 東日本大震災復興支援事業 (2011 年)

▶ たいせつマルシェ (2008 年～)

▶ 旭川ユナイテッドチルドレン (2009 年～)

▶ 旭山動物園マイスターボランティア (2006 年～)

▶ 烈夏七夕まつり (1990 年～)

▶ 旭川冬まつりの支援 (1984 年～)

▶ 創立 60 周年記念式典・記念事業 (2010 年)

▶ 創立 65 周年記念式典・記念事業 (2015 年)

▶ 創立 70 周年記念式典・記念事業 (2020 年)

歴代理事長座談会

実施日：2021年9月27日

創立60・65・70周年を記念し、2006年から2020年までの理事長の皆様をお招きした歴代理事長座談会を開催しました。出席いただいた、9名の歴代理事長に様々なエピソードを2021年度理事長からお聞きします。

出席者

パネリスト	第59代理事長	石田 慶嗣
	第60代理事長	渡邊 千晃
	第61代理事長	本間 公浩
	第64代理事長	牧原 史典
	第65代理事長	鈴木 慎吾
	第66代理事長	石川 泰路
	第67代理事長	海老子川 雄介
	第69代理事長	菅井 謙敬
	第70代理事長	新谷 逸生
ファシリテーター	第71代理事長	尾野 洋介
司会	2021年度専務理事	池田 圭治

それぞれの年度を振り返って

池田：歴代理事長座談会を開始させていただきまず。本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

尾野：まずは皆様の理事長時代を振り返っていただき、当時どのような思いで一年をスタートされたか、どのような一年だったかお話しただければと思います。

石田：2009年は、我行精神～誇りと伝統の継承、そして新たな組織進化へ～をスローガンとして、いかに新会員を増やせるかを課題に、新会員を開発する委員会を2つ用意し、結果24名の新会員が入会しました。たいせつマルシェでは旭川市の職員の方を実行委員会に入っていただき、旭川のひとつのイベントとして育てていきたいという思いでやっていました。たいせつマルシェを市民移管し手放す雰囲気になった年でもありました。後はユナイテッドチルドレンを設立し、JCのような組織を中高生で作っていく中で、新・旭川JC宣言も終盤の年で、新しいJC宣言を2010年に作ろうとLOMの理事会で揉んだりもしていました。



渡邊：2010年は創立60周年に向けて動くことを考えて、事業については各委員長にお任せしていました。私の役目は60周年の式典に会頭に来てもらいたいという強い思いで、日本JCの各ファンクションなどを全て参加し、早朝会議にて理事長の名前を必ず呼んでもらって、会頭にアピールする。たまたま、世界会議が大阪開催で参加しやすかったのもありますが。結果800人規模の記念式典になりました。函館JCも60周年で、お互い情報交換しながら一緒に頑張っていました。険しい1年でしたが楽しい1年でした。



本間：2011年はとにかく旭川を元気にしたいと思いからスタートしました。まず第一に実現したのが冬まつり支援事業です。大勢の観光客の方に来ていただいて旭川の冬を感じていただいたと思います。また、公益社団法人にするのか、一般社団法人にするのかを決める年でもありました。毎回会議体を設けて委員会とは別に議論を重ねました。最終的には一般社団法人になりましたが、それでよかったと思います。また、忘れてはならないのは東日本大震災があった年でもありました。阪神

淡路大震災の際に旭川メンバーで復興支援に行ったのを知っていたので参考にしながら、支援物資を送ったりしました。

牧原：2014年のスローガンの勇往邁進は、目標的に突き進もうという想いで、1番大きい出来事は地区大会に主管立候補したことです。以前から地区大会を誘致する話があった中で2度ほど立候補に至らなかった過去があり、ぜひ僕の年には立候補したいなって思って。結果は取れなかったけど僕の中でこの年は、メンバー間の絆が深まった印象でした。もう1つが東日本大震災の復興支援事業で、2012年の時に実施した福島の子ども達を旭川に呼んで、リフレッシュにしてもらう事業を2014年にもやりました。



鈴木：三役を経ないで理事長をやったという突飛な例でありまして、ここにいる強烈な先輩方の教えの下、頼まれたことは、すべて答える気持ちでやらせて頂きました。前年に地区大会に手を上げ、残念ながらという流れの中で、2015年は重鎮の方々含め22名が卒業してのスタートということで、経験の浅い私と石川泰路くんをはじめ、現役メンバーと共に、65周年という節目を皆さんに助けていただいて、なんとか一年乗り越えられたというのが感想です。節目に何をやり遂げるのかより、市民との共感、JCが市民とまちづくりをつなぐ役目であることを認識しながら共感を元に1歩ずつ歩んでいきたいと考えていました。その中で最後にLOM内褒賞を決める時に三役が、担当以外の委員会が良かったと評価をしていたことが驚きと共に1番嬉しかったことでした。記念事業を作り上げる工程が普段の年よりも1つ多くなり負荷がかかる中で三役が委員会をしっかりと導いてくれたということに尽きる一年だったなと思います。

石川：夢ビジョン2010の後半に差し掛かる年で、

前半色々と言われてきたことを2020年のゴールに向けて方向性を示す1年と位置づけていました。地区大会を5年以内に実現するということや、自らが行動する心を養うための青少年育成、産官学など他団体との連携した政治経済やまちづくり、新会員を拡大するためだけに広報を行うことなど、一つひとつに目的を絞って取り組みました。

海老子川：理事長や委員長がなかなか決まらず、人事もすごく苦労している年がずっと続いていて、その流れをどうやったら変えられるかなと思っていて、もっと前に進める組織が続いていくために、みんながいいきと夢を語れて邁進出来る雰囲気を作るべく、メンバーの力をお借りして一年邁進しました。福岡に行ったり、鶯歌の式典で来賓として扱っていただいたり、鶯歌の姉妹JCのマレーシアJCと交流したりLOMの行事とはまた違う経験をさせてもらいました。

菅井：第69代理事長で会員も69名でした。年号は令和へ、消費税が10%になるなど、ニュースが多かった年でした。日本JCでは鎌田会頭が日本一SDGsを推進する団体になると掲げ、持続可能な形で事業をやっていくべきだという風潮もあった年でした。地区大会の準備として、地区大会特別委員会を立ち上げ、理事会の度に情報共有をしました。新しいことでは文化振興に関心が強かったので、文化などのなかなか結果が出にくい事柄にも着手したい思いがありました。個人的には繋げる年と位置づけたので行政との風通しも考えて公職を積極的に出ました。会員数的に中小企業の数だと思って、対話中心の組織にしていかなきゃいけないという風に思いました。



新谷：LOMの創立70周年、第30回烈夏七夕まつり、北海道地区大会旭川大会の開催、3つが重なりとわかった上でお受けしました。副理事長は全員

何かの実行委員長を兼務していただき実務的な部分は、実行委員長をはじめとする LOM の皆さんにお任せをしながらとにかく外に出てトップ外交官としてつながりを持って走る覚悟をしていました。その中、2月から新型コロナウイルスが流行りだし、全国 692LOM の理事長さんのグループラインを作って情報共有をしたり、大きな事業を抱えている中で、中止する選択肢もある中、JCらしくその時できる形を模索する方向で、委員長の皆さんには、非対面でも情報発信できる手段など、今できることを考えて柔軟に取り組んでもらいました。

新・旭川 JC 宣言の内容と検証

尾野：ありがとうございます。2010 年までの運動指針である、新・旭川 JC 宣言の部分についてお話をいただければと思います。

石田：事業や議案を考えると新・旭川 JC 宣言に沿っているのが重要だった。2006 年の烈夏は、地域社会から住民参画するまつりとして作り手と担い手と参加者の三位一体を考えた。事業計画に宣言のどの部分がどう組み込まれているのが理事会で問われる。宣言が達成されるために、どういう効果を出していくのが大事だった。

渡邊：各事業はゆくゆくは市民に渡していく流れで動いていた。烈夏もそうだし旭山動物園マイスターボランティアも。この宣言、指針を念頭において、理事会も宣言をベースに議論しました。

尾野：その後宣言が検証され新しい旭川 JC 宣言である夢ビジョン 2010 ができたのが 2010 年ですね。

渡邊：今日欠席してる近藤君が委員長で、検討会議を行って検証や新しい宣言の内容を決めました。

尾野：夢ビジョン 2010 の内容はどのようにして作られたのでしょうか。

海老子川：全メンバーを対象にしたアンケートを取ったなかで印象として残っているのは、やらさ

れ感という回答が多かったんですね。委員会で素案を書いて上程をして。検討会議を重ねて、できたのが 11 月の式典の発表ギリギリでしたよね。

本間：やらされ感っていうのがね、前からだけどすごく問題で、みんな思っていた部分だったんだよね。過去の検証しないと怒られる時代だったんですよ。やらされ感を脱するには、そこしかないという想いでスタートをしていました。



宣言に沿った継続事業が生まれた

石川：一般社団法人にした理由のもう一つとして共益の事業つまり LOM 内の研修を大事にしたいというのもありましたよね。あと、ユナイテッドチルドレンって 3 つの柱の次代を担う子ども達の育成に合致してましたよね。実際に子ども達が自らの手で未来を良くして行きたいというのと、それを体験する環境を作る方法として、当時静岡県浜松市で 4 名の中高生が発足した活動に共感したわけですね。

渡邊：発足したのは石田君の年。全国数力所で JC が UC を作る動きがあり、認証番号 7 番の旭川としてもという思いもありました。

石田：本当はね、大学生を入れたかった。

石川：UC のくくりが中高生だったんですね。

石田：そうなんだけど大学生も入れた方がより効果に繋がるって感じたんだけどね。当時の委員長に取り下げられました (笑)

石川：アイスドームで壺屋さんとコラボしたメロンパンを旭川 UC で売ってましたよね。旭山動物園マイスターボランティアもやってたから、その売上を動物園に寄付したり。たいせつマルシェも、住民参画システムの構築のイメージがあります。最初は一次産業の農家さんが対面販売する仕組みでしたよね。本間先輩の時は 7 回やりましたよね。

本間：2 週間おきのペースで、その年度の最後が食



ベマルシェだったんです。

石川：旭川市の方で秋の賑わいを作るみたいな動きがあったときに、たいせつマルシェが参考にされて食べマルシェが出来たんですよね。

本間：たいせつマルシェ協議会に市役所の方も入っていたからね。

地区大会主管立候補へ

尾野：2014年に地区大会主管立候補をしました。

牧原：当時は地区大会についてマイナスイメージが多かったですね。実際に大会が終わった後、みんな疲れて、メンバーが減るとか、体力が落ちてくる部分もあり。

海老子川：反対の方に対しても下地作りからしなきゃいけないということがあって。

石田：2009年の地区大会誘致の例会では立候補する結論が出たが、稚内が出ることになり、その後雲行きが怪しくなっている状況になってた。

牧原：当時の専務の海老子川君と、函館が立候補するし旭川もこのタイミングでしたいよね。めっちゃ楽しいよねというのが本当に最初のきっかけですね。その後大変でしたけどね。

海老子川：結構大変でしたね。いろんな圧力がかかったり。なぜ理事長所信に書いてないんだって。

牧原：まったく触れず立候補しますって言ったから。理事からも色々なこと言われて。でもそのぐらいの感覚でやらないとたぶんいけないなって。

創立 65 周年を迎えた 2015 年以降

尾野：2015年は節目を迎え、夢をかたちにをテーマにまちづくりや青少年育成事業を行いましたね。

鈴木：旭川 JC 宣言の文書に、夢をかたちに、そしてかたちを現実にと最後に書かれており、ターニングポイントとして、夢を漠然とさせないで、具体的に何をするのが、夢をかたちにするという

ことなのですね。具体的な事業を構築したいなということから一年スタートしました。

石川：2011年から歴代のスローガンは、夢がキーワードになっているんです。2016年はNextStage on the Dremersがスローガンですけど、夢を持ち実現する人々が次のステージに行きましようという意味合いで、サブタイトルの5年後の未来を描くと、数字をあえて入れたのは、5年後である2020年に夢ビジョン2010を完結するための方向性を示すのが大命題でした。

海老子川：市役所にいくつかの機関があって、JCに対する期待値が高かったんですよね。余っている予算をLOMの事業にしたり、先輩方が続けてきたまちづくりの協働。市民と一体になって夢を作っていくという議論と具体的な実践ができたという期待がありました。LOMメンバーの反応も良かったし、内外の熱が高まっていた中でできた。

石川：海老子川先輩の時は、中心市街地の活性化の印象があります。ラーメン甲子園の実施もそうですし、買物公園の名前も変えようという運動を起こして、街のシンボルに再び注目してもらうきっかけとなり、それが新聞に載ったり。

尾野：2019はどうですか。

菅井：SDGsに当てはめて可視化したら目的達成が分かりやすくなった。また2018年から地区の議案フォーマットとほぼ同じにし、2019年からKPI値を設定し、企業で採用しているような数値的な目標を導入した議案になっています。

新谷：2020年は、夢ビジョン2010の検証というタイミングを迎えました。2030年までの世界共通の目標であるSDGsに、それぞれの事業を結びつけて、具体的に17のゴールターゲット169のターゲットを当てはめて続けていく中で、旭川独自の運動指針は設定しない方向になりました。

最後にひとこと

石田：いろんなことが起こっていますが、次の新しい時代に向け、発想力で切り開いていただきたいと思います。ありがとうございました。

渡邊：10年ぶりに円卓に来て座れたのは本当に懐かしいですね。松倉先輩が理事長の時に初めて委員長に立候補して。本当に当時は大変でしたが楽しかった。自分の能力に限りはありますが、地域



をどうにかしたい、何かしたいという意識が芽生える。そこが JC の素晴らしい所だと思います。

本間：先輩から理事長を経験したなら責任があるぞと。卒業しても旭川のために尽くしなさいと言われて、今でもその約束を守ってきたつもりです。卒業しても止まってはいけないなと思います。ぜひここにいる理事長経験者の皆さんにも今後も頑張ってください。



牧原：現役の頃に結構大変だったことが、終わってからいろんな場面で活かされたり。とても勉強になるんで本当に一生懸命やれば卒業してからも地域貢献できると思うので頑張ってください。

鈴木：自分の在籍当時を振り返ることができたのでいい時間だったなと思いました。自分たちがやっていた時よりも色々なものが発達している中ですが、人と人の付き合いなど、昔も今もこれからも JC のあり方って基本は変わらないと思いますので、苦労しながらも 40 歳までという学びの場を活用しながら、自分の人生の糧にしていただけ如果可以。また、新会員の方と話す機会が最近あったのですが、一生懸命だし真面目で、とにかく明るいんですね。旭川 JC もこれから伸びるし安心だと思っていました。ありがとうございました。

石川：雲の上の存在の先輩方と肩を並べて一緒に円卓に座ってお話できたのは本当に貴重な経験でした。立派にやったよね、ここまで旭川引っ張ってくれたよねって思っていただけ如果可以、歴代理事長だった身として本望だったと思います。2021 年でラストなんで最後まで駆け抜けて卒業したいと思います。ありがとうございました。

海老子川：久しぶりに緊張感があって、JC という濃密な時間を取り戻せた気分になれたし、また明日から違う自分ですぞせるかなと思います。2020 年、非常に厳しい中でなかなか出すことができない

い答えを皆さんで議論したことに意義があったと思います。青年会議所は街の灯です。そのことを胸に刻みながら、現役の方も活動いただきたいですし、卒業したメンバーとしては、現役のみなさんの灯火となっていかなきゃならないと思いました。良い機会を本当にありがとうございます。

菅井：本日知らなかった話がいくつもありました。やっぱり語るに値する団体だなと感じた次第です。現役の方に対しては、一生懸命やる姿は美しいという言葉をかけたいなと思います。理事長の時は本当におかげさまで楽しかったので、現役の皆様は理事長を目指していただけると嬉しいです。また、経済人として事業を強く伸ばすことを約束して、後はきちんと後任者に入れられるように頑張りたいなという風に思います。

新谷：いかにデジタルの技術が進もうが、時代が変わろうが、JC の本質って変わらないんだなという風に思ってます。僕の年のスローガン躍動。とにかく個人がやりまくれ！もっと輝け！と。それに尽きるのかなと思います。私自身も残された現役としての時間をしっかりと走り抜きたいですし、記念誌を手取る先輩方にも、今の現役もしっかり頑張っているの、ぜひご安心をいただきたいということと、新会員を招き入れて育てる仕組みもしっかり継承しておりまして、全道各地で会員減少がすごいペースで進んでいますが、旭川は先輩方が築いてくれた仕組みのおかげで新しい方が育ち組織が継続し続けております。現役の皆さんには、やれることは多いから精一杯やった方がいいと思っておりますので、その言葉をお伝えしたいと思います。

尾野：皆様ありがとうございました。これで座談会を終了します。本日は本当にありがとうございました。



第 69 回 北海道地区大会 旭川大会の軌跡

実施日：2021 年 9 月 17 日～10 月 5 日

2020 年度に 30 年ぶりの北海道地区大会を実現し、主管獲得までの流れを未来へ残すべく、惜しくも獲得にならなかった 2014 年度の立候補から、2018 年にリベンジを達成し、2020 年に実施するまでの流れを当事者の皆様からお聞きます。



2014 年に地区大会主管立候補

石川：地区大会に立候補した経緯をお願いします。

牧原：私が入会した 2008 年の時に既に LOM 内で地区大会に立候補しようという動きがありました。2009 年度も立候補についてずっと検討していたんです。その流れで 2010 年に立候補しようとした動き始めた際に、稚内 JC が立候補すると聞き親 LOM としてバックアップに回る流れとなり断念しました。この先地区大会に立候補しないんじゃないかという雰囲気の中に、僕に理事長の声がかかり、海老子川君に専務理事をお願いして、函館 JC が立候補するという情報はあったけど、競い合うのも面白いねという単純な発想からでしたが、やるからには取りに行く決意で立候補しようと決めました。当時の旭川 JC は継続事業ばかりに流されていたこともあり、地区大会という新しいことを取り入れることで、違った目線もできると考えていました。

海老子川：2010 年から遠のいている実態があって、地区役員とか地区出向も遠のいていったんですよね。出向被れみたいな言葉も当時はあったんです

2008 年	地区大会誘致検討の例会を開催
2009 年	同じく例会を開催し賛成多数で主管立候補が決定されるが稚内の立候補により保留に
2010 年	旭川から石田道北エリア長を輩出し、留萌大会のバックアップをする
2012 年	旭川から酒井道北エリア長を輩出し、稚内大会のバックアップをする
2013 年	嶋岡ブロック会長を輩出
2014 年	牧原理事長のリーダーシップのもと地区大会に向けて再検討し、立候補を行うが、函館に決定し獲得ならず
2016 年	地区大会を再検討する
2017 年	定時総会にて審議し主管立候補を決定
2018 年	海老子川エリア長を輩出。主管立候補届けを提出しプレゼンテーションを経て 2020 年度の開催が決定
2019 年	石川運営専務、新谷委員長、平間委員長ら 3 名の地区役員を始め多くの出向者を輩出
2020 年	地区大会を構築。途中新型コロナの影響でオンライン開催に切り替え実施
2021 年	新谷ブロック会長を始め地区役員を 3 名輩出し、地区大会の御礼と感謝の年に

けれども、牧原さんは松倉ブロック会長のセクレタリーや、日本へ出向されたりすごく高みを目指されていて、自分も専務を受ける前の 2013 年に地区役員で出向させてもらって、地区に出て行くと確実に仲間も増えるし JC の醍醐味も体験できるし、そういうメリットが地区大会を誘致することでより広く LOM に伝播できるというメリットは牧原さんと話をしてました。同じ三役だった近藤副理事長も地区役員で出向して頂いて、地区との関係とか地区協議会に対するコミットみたいなものは根底にはあったと記憶しています。

石川：2012 年から地区で始まった北海道 JC フォーラムをサンプルにして、2013 年、2014 年と行った旭川未来創造フォーラムは、疑似地区大会みたいなイメージを持ちながら関わった記憶があります。

海老子川：2010 年代運動指針の夢ビジョン 2010 ができ 2011 年から LOM の雰囲気が変わり、今まで言えなかったとも言えるようになってきたのはあります。旭川の課題解決のために市民を巻き



牧原 史典 先輩

2014 年度理事長。2009 年にブロック会長セクレタリー、2013 年には日本 JC 委員会の小幹事として出向。地区大会実現の足がかりを作った。



海老子川 雄介 先輩

2014 年度専務理事、2017 年度は第 67 代理事長。2018 年度は 2013 年度の地区委員長に続く 2 度目の役員出向で、道北エリア担当副会長を担った。

込み参加できるフォーラムをやろうと、近藤理事長の年に村本専務が旗振りとなって組み立てをしました。市民に対するインパクトや LOM 内で 1 つのことをやった達成感があったと思います。

石川：旭川 JC 全委員会が 1 つの事業を作り上げる、まさに集大成の場だったんですね。

海老子川：地区の北海道 JC フォーラムも、それまでは会員会議所会議に合わせて各委員会の事業をやっていましたが効率的じゃないし、サマコンに習って北海道 JC の運動発信やタイミング的に問題提起の場で、その成果を地区大会で発信するというロジックで、事業の立て付けも時代に照らし合わせて変わってきたし、少ない資源を最大限活用して発信力を高める意味合いからも、一同に介する手法が出てきて、旭川も取り入れたのですね。

石川：2014 年を振り返るとたくさん学びはありましたが、最初のとっかかりとしては仕事の傍らの JC 活動で更に負担や重圧がのしかかるようなイメージがあったかもしれません。

菅井：LOM と地区の活動の時間配分がいわゆる別立てっぽい感覚で、重なったりどちらかだけという話もあり、その印象はあったかなと思います。僕はリターン組だったので、地元のいろんな人と関わりたいと思っていて、北海道とか日本とかは遠慮しますみたいな話を聞いたのは覚えてます。

石川：メンバーの統制が大変だったと思いますが、LOM 内でどんな動きをされましたか。

牧原：理事会で立候補を提案したらほとんどの理事が反対だったんですね。当時の理事の人たちは、出向など LOM 外の世界を見てない方も多かった記憶があります。僕が外に出て感じたのは、旭川は認証番号 7 番で、道北のリーディング LOM だからしっかりしてくれないと困ると、僕が入会 2 年目でプロ長セクだった頃から言われてました。それが外から見た旭川 JC の印象でした。知らないから良いも悪いも分からないということで、地区大会の説明会が函館であり、ほぼ理事全員と多くのメンバーを引き連れて参加しました。その後、僕自ら理事にアポを取り各委員会へ説明に回りました。まずは理解を示して行動を起こしてもらいたいのので、丁寧に話しを進めていった記憶があります。

菅井：僕らの委員会に来ていただきましたよね。

牧原：基本的には嫌な反発じゃないんで、話して納得できなかったら説明聞きに行こうかと。

石川：当時僕の委員会でも議題に入れていました。実際に誰がどの役をやるのかっていう話はでていました。僕自身も何か役をやるかもしれないし誰が音頭とるのかなと。最終的に理事会で満場一致の賛成からの立候補でしたが、意思統一に向けてどのような動きをされてましたか。



海老子川：安全第一のはずなのに現場でヘルメットを被ってくれない中で、6 割ぐらいがヘルメットを被ったら間もなく全員ヘルメット被るようになるっていう話を聞いたんですね。立候補も 6 割超えたら全員賛成に変わるイメージを持っていた。澤田副理事長がうまく調整してくれました。理事長も自ら声かけながら、道北エリアの理事長を同志にして輪を広げていって、その姿を LOM メンバーも見えて、オセロがひっくり返る感覚もあって、根室クールのプレゼンテーションで一気に実感しましたね。4 番の函館、7 番の旭川が全力で挑み、結果はどうあれ、まずは LOM が 1 つになったことにすごく感動した記憶がありますね。

石川：理事会の承認後からプレゼンテーションに向かって 1 つの事業を構築していった姿に旭川 JC の力強さと一体感を感じました。よく言われる 4 益は、どのように考えていたのでしょうか。

牧原：益よりもまずは旭川 JC 頑張ればできるのに、言い方悪いですけどなめられてるよと。旭川のメンバー 70 ～ 80 人にいるのに 10 ～ 20 人の LOM に勢い負けてるって。直接言われなくても雰囲気ですう見られたりするの僕も嫌でなんとかした



菅井 謙敬 先輩

2019 年度第 69 代理事長。2017 年に委員、2018 年に副委員長で地区出向。持ち前のコミュニケーション能力で地区大会本番へバトンをつなげた。



石川 泰路 君

2016 年度第 66 代理事長。2017 年広報委員長時にまるごそ北海道 JC を創設。5 年間地区役員で出向した。2019 年度は旭川から 30 年ぶりの運営専務。

いと。僕自身も結構言われました。卒業するから責任ないよねと言うメンバーもいたし実際そうだな、後1、2年あったらと思ったけど、歳だからしょうがないと。何言われても地区大会が旭川JCを変えるきっかけになる。その思いが1番強かった。

海老子川：本能ですか。

牧原：そうなの。なぜって言われるとやりたいからって言うだけで、なかなか感じてもらえないメンバーが多かったなって。最初は本当に抵抗が多くて理事会で一度上程取り下げてるんですよ。その時に海老子川専務で立腹だったんですね。相談もせず勝手に下げて。6割の賛成で後々みんなが同じ方向にというのが嫌だったんですね。次の理事会までの間に函館に見に行ったりして、理事長がそこまで言うならって2回目の審議で通りました。

菅井：もう一度丁寧に行ったらってことですね。

石川：何回もお話しに来ていただきましたよね。

菅井：覚えてますね。取り下げた理事会も覚えているからオブザーブしてたような。

牧原：専務怒らせちゃった！ってその記憶が…。相談すれば良かったなって。そういうところ突っ走ってワンマンになっちゃから（笑）

石川：それだけ真剣な議論だったんですね。

牧原：立候補する決議を取るまではいろいろ大変でしたが、取った後のメンバーの力は本当に助けられました。それがなかったら道北の他 LOM のメンバーに旭川 JC 頑張ったねって言われなかっただろうなって感じました。

菅井：根室に30人くらい来てましたよね。

石川：僕たちその根室のプレゼン用のVTRを作る担当委員会で、道北の理事長さんたちのビデオを撮りに行ったんですね。

牧原：あーそうそう。

石川：その時他 LOM の理事長さんから旭川が元気ないと道北全体が元気ないとみられるんだという話も口酸っぱく言われたんですね。そんなに言うんなら1発元気出してやろうって気持ちになったし。牧原理事長の熱意もあり、菅井先輩も含めて自分の委員会メンバーに次の理事会で賛成に手を挙げるからって話をして。

菅井：言っていました。

海老子川：それが泰路らしいよね。黙って賛成に手を挙げとけよって思うけど。

石川：僕は長く残るメンバーだから地区大会を実施するときに何か役が来てもやりますよっていうことも含めての賛成ですからね。

菅井：やっぱり後よろしく感はすごい不安でした



けど。理事長がということじゃないですけど。

牧原：僕は卒業しますけどぐらいな感じで…。

海老子川：卒業して地区大会の場面に立てなかった人たちがいっぱいいて、確かに形としてはそうだけど本当に立ちたかったと思いますよ。

石川：地区大会を獲得するために、対外に対してどのような動きをしていましたか。

牧原：道北エリア長に道北 LOM 全体を巻き込んだ地区大会を構築したいという話を相談して、その後に道北エリアの各理事長全員のもとへ挨拶に行き、立候補の話をしたら全員が賛同してくれて、道南エリア以外の理事長のところへ挨拶行くと話したら、道北の理事長が牧原さんを1人にさせない、必ず2人以上一緒に行くからと言ってきて。海老子川専務も100%一緒に行ってくれましたが、道北の理事長も一緒に行ってくれて、旭川だけではなく道北が一丸となっているのが、道央と道東の理事長にはすごく強い印象だったのかなと。

石川：アポイントとかスケジュール管理とかはどうされていたんですか。

海老子川：牧原理事長が直に各理事長とアポイント取っていた記憶がありますね。理事長自ら外交されていて、それがすごく格好良かったです。

石川：準備期間に大事なものは地区の諸会議、事業に多くのメンバーでコミットするってことですね。

海老子川：そうですね。結構ギリギリで無理やり来てもらうのも多かったけど、行った先で牧原理事長必ず声かけてたし食べさせてましたよね。

牧原：ソフトクリームを食べてたんだよね。男気じゃんけんで一日にソフトクリーム4本とかね。楽しみながら理事長同士でも交流していました。

海老子川：みんなでエスカロップ食べに行ったりとか、かなり楽しくやっていた記憶がありますね。

石川：菅井先輩は北海道 JC フォーラムや地区大会で小樽に行ったと思うんですが。

菅井：その時はやっぱり2年目の参加の仕方ですけどね。関わるというよりはまず内容を見てというのとお食事会を通してちょっとおしゃべりした

り。意外に地区出向者と地区大会中話す機会ないじゃないですか。忙しくてね。あまり話し聞かなかったなっていうのはありますよね。

石川：一般参加者も来場するイベントで、旭川からもブース出展しましたよね。寒いと思って温かいものにしたら、ピーカンで全然売れなかった（笑）

菅井：コックコート着てやったんですよ。

石川：稚内大会の時も旭川醤油焼きそばを配ったりして、地区大会を肌感覚で体験するみたいな。

牧原：確か僕の記憶では当時の山口地区会長に旭川をアピールをするために、京都会議やサマコンの早朝会議に行って、名前書いた記憶があります。

石川：そういえば早朝会議ってありましたよね。



2016 年から再び検討し始める

石川：その後、僕が理事長だった 2016 年度から改めて地区大会の足がかりをつけていこうかという中で、2014 年度の動きをかなり参考にしました。担当副理事長が海老子川先輩でしたね。

海老子川：石川理事長の段階では立候補が前提に近い話になってて。2014 年に函館に負けたけど、勝つまでやめないみたいなスタンスで。その熱を維持することが大切と思ったし、もう 1 つはやるなら何やるか、立候補から先に進んだ議論が出来たし、残るメンバーが見えてたから迷いはなく進められたし大きな衝撃はなかった。

石川：副委員長以上で出向者をたくさん出す動きがありましたね。役員である委員長以上で出るのが 1 番大切だと地区側からは言われたけど、2017 年以降はその役割を僕や海老子川先輩がやって、実務部分で実際に関われるメンバーも旭川にいるという空気を地区に作っていくのも必要になって。

海老子川：実際に立候補したのは 2018 年で、岩井さんもかなり LOM 外でコミュニケーションとりながらやってた部分があるので、そこで団結して烈夏 30 周年や創立 70 周年もあるし、そういう 1 年にして 2010 年代運動指針を最後に大きく花開かせて次の 10 年代に行こうっていう前向きなビジョンしかなかったです。

そして 2018 年に再び主管立候補へ

菅井：主管立候補の旗を振ったのは岩井理事長で、牧原理事長の時も含めて長くいた人たちの地区大会をやりたかった気持ちに報いたいというのは、すごい覚えてる。あと地区出向している人ならわかると思うけど、旭川の議案の精度は高いんですよ。なので北海道全域でやってもいいんじゃないかと背中を押すような話もあったりして、1 つの方向としてはあったのかな。

石川：2017 年の時に 2020 年に残るメンバーを集めて話し合いをしたんですよ。その時みんなでやろうという方向になったのを記憶しています。

新谷：地区大会に手をあげるという強烈なリーダーシップのもと、僕はそれを後押ししているということに終始徹底をして動いていたというのを覚えていて、その根底にあったのは 2014 年に立候補するも主管獲得に至らず、先輩方がいろんな想いを背負って地区出向し続けてきてくれていた、その想いを形として実現をする。外部的な事情もあって手を挙げられない期間があった中で、2018 年の役員が決まる早いタイミングで、地区大会に立候補という全力で前に進んでいくような理事会の発足の感じだったのかなと思いますね。

渡部：2018 年は総務委員長で、地区大会とは何ぞやっていう例会をやらせてもらったんですね。僕自身も他の地区大会に行ったことがなくて、わからない部分があったんですけど。例会後のアンケートで意識が高まった、勉強になったとの回答が多く得られ、メンバーに対して地区大会の意識付けや学びが提供できたんじゃないかと思います。

石川：旭川が立候補する時に一番重きを置いてたのは、北海道の真ん中にあるという中核都市であることとか、交通の便が良く遊びもあるとか、旭



新谷 逸生 君

2020 年度第 70 代理事長。地区大会主管理事長として力強いリーダーシップを取る。2019 年度は地区委員長として役員出向。2021 年度はブロック会長。



渡部 康晴 君

2020 年度副理事長兼 70 周年実行委員長。2018 年度 LOM の総務委員長として地区大会や出向についての知識教養や意識醸成に尽力した。

川らしさを打ち出した内容だったかと思いますが、主管獲得まではどんな動きをしていましたか。

菅井：2018年体制が進んでいく中で、2017年は地区役員が1人だったのが2018年は2人になって、出向者も17人から26人になり、メンバーが地区出向を通じて旭川の以外の事業に少しずつ詳しくなってきたと思います。後は選挙ではなく旭川JCしか立候補しなかったのが分かって、だからといって獲得と思っちゃいけない気持ちも含めながら、全道のLOMに挨拶しに行く日にちと場所を各委員会に割り振ったり。他LOMメンバーとも風通しが良くなるきっかけになってますよね、例会は素直に勉強になったし、渡部委員長が網走メンバーのところへ取材に行ったり、榎原先輩を例会にお招きし、27、8年前のことを詳しく話してくれたり、いろいろなことを知るきっかけにもなった。

新谷：思い出したのですが、2017年9月の定時総会で地区大会の立候補について総会決議されたことをfacebookにあげたんですよ。既に旭川は戦闘態勢だということを早めに情報発信して。他LOMは手を挙げづらくなりますよね。2014年の経験を踏まえて打算的にやったし2018年はLOMメンバーの50%ぐらい出向したし、海老子川さんがエリア長で出向された関係で久々に旭川で会員会議所会議が開催され、地区役員や理事長さんが泊まるホテルの部屋を調べてお土産を置いたり、地区大会を誘致したいことを全力でアピールしたり。

菅井：新年交礼会で荒井副会頭の挨拶で旭川で地区大会を決行するっていう話も聞いてというところでバシッと応援歌が流れてたっていうのは…。

新谷：あの一言はでかいですよ。シニアクラブも地区大会主管理候補することを共有していて応援していると新年交礼会で話してくださって。

菅井：新年交礼会に地区役員も多く来ているわけだから事前プレゼンテーションに近いようなアピールが出来たんじゃないかなと思います。

石川：その話が他のLOMにどう映ったかということ、地域との連携、他の団体との連携もできているという印象も残ったと思います。

渡部：道内の各LOMを回るのが1番大変なのと、会員会議所会議の時など、気配りにすごい神経を尖らせて、当時の新谷専務が細かい気配りをしていた所を身近で見ていて大変さを感じました。

新谷：岩井理事長のリーダーシップでLOMが1つになったし、前にとにかく突き進んだと思います。5月7日に立候補届を出して、旭川のみしか提出されてないことはわかった瞬間にもう確定って流れ

ではあるんだけど、そこから7月7日の会員会議所のプレゼンテーションまでの2ヶ月間でLOM回りをした。立候補しましたというご報告に回ったんですよ。1LOMしか手を挙げてないから結果が見えてる中でもあえて丁寧に一生懸命回ったのは大変だったけど想いは伝えられたのかな。

石川：根室の会員会議所会議の公開プレゼンテーションは、新谷専務がしましたよね。

新谷：根室でのプレゼンテーションは、緊張したランキングで1位か2位ですね。めちゃめちゃ緊張しました。カンペなど自分の逃げ道を一切無くして。パワーポイントのスライドも4枚ぐらいで。用意してくれたのが清水健史副理事長で、車の中で練習していたので清水副理事長だけは喋る内容が分かってるんだけど当日の会場で喋り始めた内容がほとんどシナリオ外のことで、いつスライドを動かせばいいんだって。気合で乗り切るみたいな。その時はそんなに出向歴とかはないし、あの会員会議所の口の字がめちゃめちゃアウェーに感じた。座ってるのは全道の理事長さんばかりだし、地区役員も30人以上いる。その中でマイク1本でプレゼンするという殺伐とした雰囲気だったというのを覚えてます。後に会員会議所とか地区協議会というものが地区大会に向かっていくにつれてどんどん味方になってくる、距離が近づいてくるのを感じていくことになりますよね。

菅井：プレゼンの資料を作成にあたって道北のLOM理事長がボールをパスする動画の内容で、道北エリア会議の度に声をかけたり、最たるものはプレゼンの時に一緒に立ってもらったというのがある。地域連携の功績の部分もあると思いますね。

石川：7月にプレゼンテーションが終わった後、9月に会員会議所会議で審議予定だったのですが、胆振東部地震の影響で11月に延期となった審議の時、菅井先輩がご挨拶されましたよね。

菅井：地区大会に限らずJCの一年間の感覚が2、3か月で変わるでしょう。9月が11月になった中で、気持ちが変わったのが記憶にありますね。誰1人やらされてるわけでも、やりたい人達だけで決まった訳でもなく、もちろん2019年になったら更に感じるんだけど、何も準備なく真摯に感謝と頑張りますと伝えた気がします。

新谷：立候補届の受付期間が1ヶ月ぐらいあるんだけど、LOMの認証番号の7番に合わせて5月7日に提出することを決めて資料を作り込んで、6月7日に菅井理事長予定者を承認する臨時総会をやってるんですよ。主管LOMとして次年度の組織も

早期に固まっていることの発信も含めて、臨時総会を6月にやるのはすごい早い。更に偶然にも7月7日が根室のプレゼンテーションの日で、立候補の届け出が審議可決される予定が9月7日の苫小牧クールの会員会議所だったんですね。それが震災によって地区大会ごと延期になり主管の決定だけは7ではなかったんだけど、月を追うごとに意識しながらやってたなと思い出しました。

石川：地区大会を2020年に実施するというので、烈夏30回や創立70周年など全部重なってるのがわかって、あえてぶつけたんですよ。

渡部：蓋開けてみないとわからないなというところしかなかったですね（笑）

石川：3つが重なり、うまくミックスされた良い年になりそうな感じはありましたよね。2019年の菅井理事長もすごく早く決まりましたし、それだけ考えても既にLOM益がすごくあったと感ずきます。

菅井：物分かりの良い人が続いているんですね（笑）この記念誌を読む人もそうだけど、きっかけがあってやるってなったらやるんだなって、その延長の話で受けたら皆やるし根性ある人が多いです。

石川：地区大会の当事者メンバーの一員になるということは中々ないですよ。30年振りですから。

菅井：地区大会の議論は毎年やってるとわかってきますよね。知らないからやめようとか、順番が違おうとか、人数が足りないとか、いろんな考え方もご縁もあって、十人十色な意見と想いが地区大会にあるなと思いました。

2019年は地区大会本番への準備期間

石川：2019年度の準備期間を全体的に振り返って、どういう年と位置づけて活動しましたか。

菅井：まず石川運営専務、新谷委員長、平間委員長と地区役員が旭川から3人でてるんですね。多分3人役員に出たのって、ほとんどなかったと思います。お陰様で会員会議所など北海道の各会議に行っても、ほとんどのメンバーが関わっているという構図になっていたと思います。また、山田指名理事が地区大会運営委員会の幹事として地区大会の動きを把握し、LOMの地区大会特別会議の担当委員長として理事会後に準備会議を行い、情報共有をしまし



たよね。組織としてはLOMか地区かどちらかに偏らないようにしたいと思いました。旭川でやることを地区でもやりたいし、地区でもやっていることを旭川でもやったらいいんじゃないかという気持ちがあって、組織に関しては2019年だけ役員を出すとか、いろいろな動きは今年だけという感じにならないように心がけました。

新谷：LOMでは副理事長として会員拡大・研修系の委員会を受け持ちながら地区協議会の委員長職で出向しましたが、心がけていたことはLOMの活動を大事することです。22名の新しい仲間を受け持つ担当のラインを持ってるし、三役としての立ち位置もあるので、地区の活動が忙しいからといって、絶対LOMのことは手を抜かないという覚悟を決めて出向したのを思い出します。

平間：地区大会運営委員会の委員長として主管である北見のメンバーと一緒に地区大会を構築して行く経験をさせてもらいました。もちろん準備期間として1番近くで主管の動きを見ていく想いもあり、LOMの活動が大事とは思ってはいたんですけど、とにかく北見大会を成功に導くことに重きを置く中で、なかなかLOMの担いが出来ていない部分はあったと思います。ただ、委員会の幹事として山田指名理事と一緒に出向してくれて委員会メンバーと北見メンバーをつないでくれたり、情報をしっかりとLOMに落としてくれました。私が北見大会に集中している時にそういう動きをしてくれたからこそ両立できたのかなと思っています。

石川：それぞれの役割がしっかりと機能して北見大会の成功と旭川大会の準備が両立できましたね。

山田：そばで見ていたから感じますが、地区運の委員長をやりながらもう1つ何かやるのは絶対無



平間 恵子 先輩

2019年度は地区大会運営委員会の委員長で、2020年度は地区大会主管実行委員長。歴代初の女性実行委員長としてコロナ禍の旭川大会を成功に導いた。



山田 隼人 君

2019年度は地区大会運営委員会幹事とLOMで地区大会特別委員会委員長を両立。外の情報をLOMに届ける重要な役割を担った。2020年度は専務理事。

理だと思います。やっぱり LOM が大事だということに尽きるんですけど、僕の役割は委員長の補佐をすることと、LOM に理事会後の準備会議で資料としてどんどん落として LOM を巻き込まなきゃなというところを 1 番に考えてました。必死で頑張っている中、菅井理事長と工藤専務が必ず来てくれたのがすごい安心感で励みになりましたね。

平間：あー、あるある。安心感。

菅井：人数多く行けてましたね。新会員もね。

新谷：気持ちよく送り出してくれて。その光景を見に来てくれて。声をかけてくれて。

菅井：どんどんメンバーが詳しくなったり徐々に交流が深まっているのが見えてたもんね。

山田：いつもニコニコしてお疲れーって言うてくれるのが、僕らにとって安心感ですよ。

石川：地区の上程など、委員長出向の 2 人には、かなり苦勞をかけたと思いますが、正副の立場で見た時に、新谷君、平間先輩の両委員会が圧倒的に人数が集まりましたよね。その姿を見てさすが旭川だなという誇らしく感じていました。1 番大事なのはたくさんの人を巻き込む力ですからね。そういった意味でもお二人に関しては本当に素晴らしい委員会運営だったと思います。

菅井：機会の提供の中で昔と違ってリーダーシップの概念が変わっているのに仲間を集められるのは 1 つの勝ちの絵面ですし、人を集められるメンバーがいるのは鼻高いですね。すごかった。

石川：二人の楽しんでいる姿を見て、楽しかった地区委員長時代を思い出しながら、楽しかったな、もう一度やりたいなって日々思っていました（笑）

平間：地区の委員長は楽しいでーす（笑）

新谷：財産ですね。

SDGs やオンライン会議を導入

菅井：2019 年の石川運営専務の時に、事業の目標設定を主観じゃなく KPI で数値化して分かりやすく端的なフォーマットにしたり、zoom を使った Web 会議も実験的に導入したり、色々仕掛けて 2018 年から 2019 年にかけて大きく改革しましたよね。

石川：本会からの流れで、まず SDGs の推進が大前提でした。各運動事業に SDGs のゴール番号を設定し目標やプロセスをすべて数値化するために、KPI 値を導入して、数字やゴールを意識した事業計画を作ることによって、実際に目的がどのくらい達成されたのか数字として見れるから引き継ぎやすく次のステップにも行きやすくなったと思います。

菅井：委員長のお二人からしたら前年のフォーマッ

トを引き継ぐだけでなくったということですね。

平間：そうそう、そうだった。

石川：Web 会議の導入に関しては、現在はコロナ禍で当たり前になりましたが、2019 年当時は各地に赴いての会議が主流で、試験的に正副や役員会議をオンラインで開催して効果検証をしました。まさかこんなに早く当たりの時代になるとは思ってなかったけど…。導入した理由は、委員会の回数を増やしたり、移動の時間を議案構築に使うことで委員会運営がしやすくなったり、よりよい事業が構築できるんじゃないかと思ったんですよ。もちろん対面でのコミュニケーションや信頼関係を築くことも大切なので、オンラインはあくまで 1 つの新しい手段として活用してほしいなと。地区役員の皆さんにも実際に体感してもらいたくて、年間公式スケジュールに組み込んだんですよ。



菅井：今となってはものすごい下地をしましたね。

石川：1 年 1 年何か形に残るチャレンジをしていかなきゃね。紡がれてより良くなるものが運動ですから。そういう意味では SDGs 推進すると真ん中の委員長が新谷くんだったんですよ。

新谷：そうですね、SDGs を広めましょうというのが役割の委員会で、最初は全然知らないし勉強して人に伝えなきゃいけないので、インプットとアウトプットを繰り返して板についてきたのかなと。翌年に旭川大会を控えてるから、外の情報を吸収して持ち帰る大前提での出向だけど、その年だけ切り取って考えてもやっぱりめっちゃめっちゃ楽しかった思い出だし、菅井理事長に背中押してもらって頑張っってこいって言って出させてもらって、確かに色々大変なこともあったんだけど、学びもあり楽しいこともあり、すごい良い 1 年でした。

平間：私も思い返しても楽しかったことしか覚えてなくて…もうそれに尽きる。委員会のメンバー数が 30 人位の大所帯だったんですけど、1 人じゃ本当に何もできないんで、副委員長が 4 人いて幹事がいて、メンバーが各地から来るので、それぞ



れスケジュールを合わせて集まってやってく中で委員会メンバーと北見メンバーが仲良くなり、距離が縮まって一体感が出てくる実感がすごく嬉しかったというのは覚えています。まあ議案の上程に関しては本当に辛かったけど（笑）

新谷：3日間の会議クールの間、寝ないでやるみたいなスピード感をLOMに持ち帰ってこない、次の年の地区大会でみんな同じ思いをするから、体は慣らしてLOMに伝えて牽引していかなくやという想いはあって、あのスピード感に体を慣らしたっていうところは大きな経験でした。

山田：そうですね。地区運の副委員長と北見さんが仲良くなっていく話もありましたが、これってすごい難しいことだったんですよ。平間委員長だからできるきめ細やかな対応でみんなが結束していき、当人同士が連絡取り合っていく。多分1番そこに気を遣われてたのかなって。

石川：地区運は主管と主催が両輪であり、主管側にも部会長がいて、副委員長がそれぞれの部会長とバディを組んで協力していく流れですよ。

平間：そういうのもあったと思います。副委員長には、部会長を支えて欲しいということだけを伝えたら、副委員長なりのやり方で直接会いに行ったり、こまめに連絡を取り合いながら相談に乗って進めていってくれましたね。

山田：そういう時の人柱（仲介役）として僕をどんどん投入してたんですよ（笑）

菅井：LOMの地区大会特別委員会の時の山田委員長も遠慮せず、素直に大変だということも言ってたから生の声で良かった感じはしたけどLOMのメンバーに対して単純に今こんな感じだよ、これ良くないよとか言ってくれてたから、それで入りやすかったというか、素直で実直な感じは映ってたよね、今思い出してた。

石川：各会議で菅井理事長やLOMメンバーの姿を見て安心したという話もありましたが、他の地区役や理事長との積極的な外交もしてましたよね。

菅井：何人かの先輩が会員会議所会議でそうされ

てたって話を聞いて、挨拶って単純なようで深かったりするんで、しすぎて失礼になること全くないから、最低限それぐらいはっていうのと、後はおしゃべりっていうのもあるよね。会議が終わったけど菅井が帰ってこないんだって（笑）

平間：よくおっしゃってましたね。

山田：それを探す工藤専務がいて（笑）

平間：毎回待ってました（笑）

新谷：すぐ行方不明になる（笑）

菅井：理事長毎にちゃんと話題があるんですよ。

石川：菅井先輩が元々持っている、なかなか真似できないスキルですよ。準備期間の理事長としてこの上ないベストな動きでした。走り出しが良い形でスタート出来たと思っています。

菅井：改めて個性が重なったのかもしれないですよ。地区の委員長がいて、少しずつチームが出来てきて、日を追うごとに北見メンバーから平間さんが信頼される空気があり、だからこそ会員会議所会議とかでの話しやすさとか、下地ができていた感じがあったかもしれないですね。

石川：次年度に向けての準備や気概とかは。

山田：LOMメンバーは正直実際に何が起こるか分からなかったと思うんですよ。地区大会の準備例会の内容は、地区大会はこうあるべきだということにこだわりたかったのもありました。実際に構築段階から関わったので、構成は自分の中に落とし込めたんです。それを部会ごとに分けて、尾野総務委員長が兄弟委員会でしたが、例会の構築の中でどんどん理解してくれたんじゃないのかなと。

菅井：シニアとの関わりもね。

石川：先輩方の協力というか暖かい気持ちをたくさん感じました。そして、いよいよ2020年度に行く段階で次年度の理事長として新谷君が推薦されて。心よく引き受けていただけましたよね。

新谷：地区大会の立候補を検討していた2017年度からすると2年位が経って、現実として結構ハードだと理解が進んでいて。そういう意味での覚悟は持ちましたけど、同時にLOMとしてみんなの成長の機会があり決して僕1人でやることではないので、メンバーに頼り、相談しながら任せる所は任して。北見大会の式典の時にメンバーで並んで大会の鍵を受け取って、菅井理事長がスピーチしたあの場面が本当の意味での地区大会本番のキックオフって感じがしましたね。

平間：一区切りした瞬間でもあったんですけど、あの場面は鮮明に覚えています。先輩もたくさん来てくれたし、ここからが本番なんだなってすご

く重たいものがのしかかってきたような感覚がありました。後、鍵を落とさないか心配でした（笑）

石川：北見大会が終わった後、懇親会場の撤収作業に多くの旭川メンバーが手伝いに来て、本当に素晴らしい光景でした。自発的だったのですか？

菅井：自発的というか…会場に皆残ってて、まだ終わらないみたいだから片付けに行こうかって。

新谷：大懇親会場の片付けまで含めて地区大会だと気づけたのは、出向して話を聞いたし、地区大会に関わった地区役員の方々が汗だくで片付けしているところを見て清々しいものだと思います。

菅井：北見大会の式典での決意表明ですが、3年未満の地区大会がわからないだろう人たちに対しての伝え方を意識したのを思い出しました。極力解りやすく高いハードルを低く表現するようにして。北海道の各 LOM のメンバーも全員の時間とお金が原資になってる。それを無駄にしないよう極力歩み寄ってみんなとやりたいという気持ちを込めました。詳しい人だけの大会にならないようにと。

平間：地区大会は 2014 年に入会してからずっと参加していて、楽しい思い出が毎年あって、旭川でやるとなった時から準備段階、実行まで、ずっと関わったことは良い経験になったと思います。たくさんの学びがあった。すごい感謝しています。

新谷：自ら出向したことで、以前まで感じていたあの役員会や会員会議所会議の雰囲気、ものすごい恐ろしくて。得体の知れない場所に踏み込んでみたら今度はそこがホームになり仲間になるというか、殻を打ち破ったのは大きかったと思います。

山田：一生形見にする思い出話の 1 つとなることだと思いました。楽しいだけじゃなかったけど終わると楽しい思い出しか残ってないのが本音です。

石川：地区大会誘致に動き出し、2017 年の地区委員長から 2021 年までの 5 年間ずっと地区役員で出向させてもらい、本当に充実した日々でした。快く送り出していただいた各年度の理事長をはじめ、メンバーの皆さんに感謝です。LOM の皆さんがあの場所で、それぞれにスポットライトが当たっている姿を想像してすごいワクワクしていたし、そういう想いで出向をしていました。新谷君、平間先輩が地区の委員長として多くのメンバーを引き

連れて上程している姿を見た時や、地区運幹事として実行委員会の会議進行をする山田君の姿を見て、本当に嬉しかったし幸せな気持ちになりました。その積み重ねが JC 活動であり出向であり、仲間と一生語り合える思い出が作れると思いました。

4 部会長を中心に地区大会を構築

佐々木：旭川大会はどういうコンセプトの趣旨文にしたのですか。

平間：地区会長の方針に沿ったものにしなければならないのですが、2020 年の一丁目一番地は組織改革を掲げてたんですよ。以前から女性の活躍が課題としてあったのですが、JC だけではなく、いろんな地域でいろんな人が活躍できる社会って素敵だし、明るい未来につながるなという考えのもと趣旨文を作り出しました。文章が出来上がるまでには、LOM メンバーにもたくさん意見を聞いたし、事業部会の事業と直接関わってくるので、清水事業部会長と一緒に作り上げました。

清水：事業部会は趣旨文の考えを具体化することを使命としています。2019 年から押し出している SDGs の精神である多様性と包摂性を内容に取り込みました。旭川はいろんな産業があって、いろんな価値観の人が輝く街だという認識のもとに、全道へ輝ける社会を広げるという内容にしました。



佐々木：「咲誇る未来へ」というテーマに至った経緯をお教え下さい。

平間：趣旨文が変わるとテーマとのぶれが生じたりしてしまうので、趣旨文がほぼ出来上がった段階で趣旨文に沿うテーマを考えたのですが、いろんな人が輝いて明るい未来を想像できるテーマが



清水 健史 君

2020 年度地区大会の事業部会長。LOM で多くの役員経験や、地区の副委員長での出向経験から主管フォーラムを担当し、新たな切り口の内容となった。



宇山 浩好 先輩

2020 年度地区大会の懇親部会長。まつり系の経験が豊富。新型コロナの影響で残念ながら大懇親会は中止となったが、最後まで LOM をサポートした。

良いと思って、夜中の2時ぐらいとかにパって頭に降りてきたのが「咲誇る未来へ」でした。人を花に例えて北海道中に個性豊かな花が咲誇っているようなイメージです。LOMのみんなに提示したところ、賛成してもらえたので、この1本の案で進めて行きました。

佐々木：趣旨文やテーマが決まると、それぞれ部長たちの実務になりますが、途中で新型コロナウイルスが流行り変更を余儀なくされました。

筒井：当初は集合形式で盛大に大会式典、卒業式を実施する方向性だったので色々変更がありました。地区大会における大会式典にどんな意味や効果があるのか議論をした記憶があります。慣例の流れがある中でどうテーマを盛り込んだらいいのか、どこに焦点を充てたら良いのか考えながら構築しました。セレモニーの国歌やJCソング斉唱などが主管色を出せるポイントだったりもして、少年少女オーケストラの皆さんに演奏をお願いしたんですね。実際は大勢の前での演奏は叶わなかったのですが、子ども達が立派なステージで輝く姿を表現したかったので盛り込みました。

佐々木：式典のイメージは、鍵の伝達式、活動総括を行い、主催や主管だけではなく全道LOMを巻き込んで全体の集大成を表現するイメージを持っていますが、気をつけた所はありますか。

筒井：全道の会員に向けて地区からの発信は会長挨拶しかなく、こちらから何かコントロールできることはないと思います。Web開催になったことで、各LOMのコール＆レスポンスの代わりに、ホームページに特設ページを設け、各LOMの事業や運動を掲載したのが新しい試みだったと思います。Webの良さはじっくり見れたり朝の時間に来てくれない人たちも目を通してもらえることですかね。

佐々木：卒業式も対面の計画からWebへ変更となり、みんなで歌った映像を流した記憶があります。

筒井：新谷理事長からのオーダーは、感動の涙が流れるという内容で1番悩んだかもしれないです。旭川色も出さないといけない中で、僕は旭川出身の玉置浩二が大好きで、どうしても曲を使いたかったのです。当初は大雪アリーナの予定で、装飾も考え、思い出映像を流して僕が歌うっていう。コ



ロナの影響でWeb開催となりダメになったんですけど、どう一体感をつくり卒業生を送り出していくのか考える中で、各LOMの皆さんが田園を歌っている映像を収録し、zoom内で配信する方法で感謝の気持ちを表現する内容となりました。

佐々木：メインフォーラムも、予定から紆余曲折あり、Webで開催となりましたね。

清水：多様な個性が活躍することでイノベーションを起こし世の中を変えて行く、よくして行くという精神を表現するフォーラムを構築しました。いろんな人が個性を輝かして自由に働ける事が1番の念頭にあり、ワークライフバランスの実現やテレワーク、副業など、好きな時間や場所で、いろんな働き方ができることによって、いろんなアイデアが生まれて世の中が良くなっていくという流れを1番大きな軸として発信しました。働き方の他にもLGBTの方や日本ではあまり多くはないムスリムの方、障がい者の方だったり多様な方が生きやすい世の中を表現していく内容になりました。しかし、新型コロナウイルスの蔓延で講師が現地に来れない状況になったんですよ。例えば専門家をパネリストで呼びたいと思っていましたし、MCにネームバリューがある人の起用を考えていたし、いろんな方にアプローチしましたが、コロナ初期の段階において、東京から北海道へ来れず、テレビも出演者同士の間隔を開けたりオンラインでの出演が始まった頃で、今考えると少し過剰と思えるぐらい皆さん移動に気を使っていましたよね。

佐々木：Web配信でのメインフォーラムに対する反響とか効果とかどうでしたか。

清水：出来上がったものは満足のいく内容でした。ライブでフォーラムをやる場合に比べても、僕ら



筒井 和騎 君

2020年度地区大会の式典部会長。2019年は委員長として文化をテーマに様々なアイデアを発信。最後まで大会の要である大会式典・卒業式を構築した。



佐々木 雄大 君

2020年度地区大会の総務部会長。新型コロナウイルスの影響で二転三転、対面とWebの両方の議案や資料を準備するなど、抜群の精神力とバイタリティを持つ。

が発信したい内容を、より密度の濃いものを作り上げることができたと思いますね。

佐々木：全体で集まることを想定して、楽しみにしている人が多いのが大懇親会ですが、最終的に新型コロナウイルスで中止になってしまいました。

宇山：当初の問題としてスケジュールと予算の面があったと思います。例年土曜日開催が多かったと思いますが、金曜日に設定し会員の方に長く滞在してもらうスケジュールでした。予算が決まっている中でも旭川を楽しんでもらいたいのので、お酒の提供や食品の取扱いに悩みました。チケット制にて購入してもらうとか。途中からコロナの影響で懇親会ではなく、旭川の名産品を皆さんに贈る方向に変更したのですが結構反対意見があつて。オンラインで懇親会をやる案も出てきたけど現地開催に変わる妙案とはならず、中止という決断に至りましたよね。1番大変だったのが、途中からほぼオンライン会議になりましたが、会議体も含めて毎日我が家が会議の拠点になり、毎日誰かいるんですよね。それが1番大変でしたよ。



佐々木：だいたい誰かいましたね、半分は私ですか。その節は大変お世話になりました。みんなで朝までもありましたね。大変助かりました。

清水：総務部会は新型コロナウイルスの感染によってどんな動きがありましたか。

佐々木：基本的には計画からなくなった作業が非常に多くありました。あとは現地開催する場合としない場合の議案や案内文とか、様々なパターンを作り、作成する資料の数がすごく多くなりましたね。1番混乱したのは発送の関係ですかね。式典や事業や懇親、全部総務に集めて発送するのか、各々から発送するのか、今回は各々で発送を取りまとめましたがうまく疎通が取れなくなった。発送物の窓口は1つにして対応するほうが良いと思いました。広報はコロナの影響で予算がつかなく、最初のデザイン費とSNSの広告だけの費用になったのが痛いところでした。見ていただくための発

信が足りなかったです。コロナの影響でホームページを会場とする形で、各フォーラムや旭川の名産物を見ることができる構成になりましたよね。

平間：フォーラムは1番最初にWeb開催が決定しました。絶対にできる形にしようということで、Web上の会場を考え、当日みんなに見てもらえるものを作るための議案が1本増えたんですね。その中に各LOMの理事長紹介を入れたり、いろんな情報が詰まったホームページになりました。例年より充実した内容になり、今までと違う発信方法もできたとし、色々大変ではあったけどすごく良かったかなと思います。最終的に式典も卒業式も会場があるような感じで作れてよかったですね。

佐々木：全体スケジュールもコロナの影響で何度も変更になりましたよね。

平間：初上程時のスケジュール議案は毎年必ず揉めるんですよね。役員会の意見を反映したら、今度は理事長の皆様から意見がたくさん来てみたい。今回に関しては、地区との話し合いでやるやらないや、延期していつ開催するかもありましたし、ずっと審議を取っていた記憶もあるし。でも実際に集まる可能性を追求した地区側の意向もあり、ギリギリまで決まらなかったですね。最終的に卒業式だけ別の日になったりしましたし。

佐々木：卒業式は最終的にすごくいいものができましたね。式典や卒業式をWebにしたことによる効果や成果、逆に課題などはありましたか。

筒井：リアルとWebどちらもメリットはあるし、良いところはあります。Webはアーカイブが残って後から見るができたり、時間や場所に縛られないのも1つのメリットだったと思いますね。

清水：新型コロナウイルスというネガティブな要因から始まり、その制約の中で新しい方法を生み出す必要があり、結果新しい地区大会のあり方を発信できたと思います。旭川に来るのが難しい人に対しても発信できたし、面白かったら2回3回と見ることができる。発信において優れた方法を手に入れたのではないかなと思うんですよ。今後はWebの効果を昔ながらの現地開催にどう取り入れていくかの方向に進んでいくんじゃないかな。

宇山：懇親部会で後悔があるとすれば、大会ホームページ公開時に、旭川の食材や名産の発信がもっとあってもよかったと思います。もっと旭川の地場企業に貢献できたという心残りはありますね。

佐々木：ホームページを使った効果は、いろんな人が見れて期間も長いことかと思っています。一方で集まって開催とは全然勝手が違うことも十分に理

解できたので、今後もハイブリッドとか新しい方法も出来てくるだろうし今回の Web 運営は非常に効果的で未来に残せる事例だったと感じました。

宇山：僕としては、とにかく実際に大懇親会をやりたかっただけです。

清水：旭川で地区大会をするのは 30 年ぶりで身近な先輩に主管の経験者はいなかったし、地区大会自体もかなり負荷のかかるものだったから普通にやっても大変だったはずなんです。更に新型コロナウイルスが発生した一年目でしたし本当に皆さん思い出すと吐きそうになるぐらい大変だったと思うんです。貴重な体験だったと思います。

筒井：本当に貴重な役をさせていただきました。改めて紡いでくださった先輩諸兄に感謝を申し上げます。対象者に対して目的を最大限に達成するために手法など事業を組み立てて行くのですが、自分が楽しめないと絶対ダメだと思います。大変だけど、後で思い出になるように作っていてももらえたら、楽しみながら運動自体もやっていけるんじゃないかなと思います。

佐々木：自分も楽しんでやるのがまず最初かなと常に思っています。辛いことももちろんあるんですけど、そういう気持ちから入っていけば、周りも巻き込めるというのが私の持論でもあります。過去の議案見て、頭の中でビジョンで浮かべて、地区大会に限らず引き継いだことを網羅した上で、構成を立てることが非常に大事だと思いました。更に良いものを作るというのはそういうことだと非常によく感じた大会でした。30 年ぶりの大会と、貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

平間：旭川大会は成功した、素晴らしい地区大会だったと思います。本当に実務を先頭きってやってくれた部会長達。人選が素晴らしかったと思ってます。部会長って地区役員と同じぐらい忙しいし、同じレベルだと言われてるんですよ。筒井部会長は、式典と卒業式で慣例が多い中、疑問点や新たな視点を持って向き合ってくれたと思っています。清水部会長はテーマと趣旨文をずっと一緒に作っていく中で、私に無いものをすごく持っている人なので、傍でフォローしてくれたのが、最初の段階から心強くて。趣旨文通りのフォーラムになったと思うし、メインフォーラムとして大会を達成できたことは清水部会長だったからと思っています。佐々木部会長はいろんな案内文などがある中で、常に文章を作る状態にだったと思うんですよ。その都度しっかり向き合ってくれたし、広報に関しても今までとは手法が違ったけど、攻めの広報

ができてたんじゃないかなと思って。facebook などの SNS もたくさん更新してくれたし、旭川色もあり、地域の人みんなで応援している旭川大会が出てすごく良かったなと思ってます。宇山部会長は、私も本当に懇親会やりたくて。実行委員長受けた時には既に描いている全体像があって。大懇親会は地域性を発信できる素晴らしいコンテンツで、たくさんメンバーが集まってくれる。どういう形でもやりたいと思っていたけど、最終的にはやめたほうがいいよこういう状況だしとスパッと。頼りになる存在だったんだと本当に思ってます。このメンバーがあまり年を取ってないうちに是非もう一回どこかで手を上げてくれることを私は切実に願っております。本当にリベンジして欲しいなって思うよね。今回成功したと思ってるけど、悔しい気持ちもあるから。誰かがリベンジしてくれると思っています。ありがとうございました。

いろいろと重なった 2020 年度

山田：まず、他団体との兼ね合いとして、各所への行脚からスタートしましたよね。

平間：当初のところにもう一回行きましたよね。

新谷：2018 年に地区大会に立候補したときにご挨拶に行った所ですね。特に市役所は足しげく通いましたね。商工会議所は趣旨文、テーマとかある程度形にしてから、正副会頭にアポイントとって。

平間：途中段階のスケジュール資料何枚かつけて。

山田：シニアクラブも地区大会の組織図を組んでいただきました。

新谷：シニアとしても全力で応援するからと、すごい先輩方に背中を押してもらったなあと。青年会議所の機動力の高さを感じました。

渡部：シニアだけではなく全体的にもすごく協力的な感じでしたよね。



新谷：1000 人規模の大会実施に対してエールの声がほとんどでネガティブな声は一切なかったです。

山田：当該年度の三役を引き受けてどうでしたか。

新谷：もうやったるわと。地区大会含めてその一年間は覚悟で、その一方で負荷が掛かる一年ということだけで人が出たり事故が起きたり、ネガティブなことが起こらないようにと思っていました。

平間：実行委員長としては1年間やり切るぞっていうのがあって。近くで共に動く4部会長をしっかり見ていこうと、後は大会を成功させる。

尾野：僕は懇親部会に目線が向いていたのかなと思います。宇山部会長は卒業年度で、最後に完全燃焼というか、やり遂げて卒業してくれれば嬉しいなと思っていました。

渡部：僕もオンラインでの式典を成功させた筒井部会長がいましたが、LOMで室長もしていたので、極力負担をかけず地区大会に集中してもらえるような環境づくりを徹底しました。

山田：LOM自体が空中分解しないよう1番気を遣う一年でした。自分自身が一番先に空中分解してどこかに飛んでいきそうになりましたけど（笑）

新谷：専務が本当にしっかり見てくれて。あと1人でも多くの人に機会を提供する最大のミッションがあり、それぞれにドラマが起きて、心に良い思い出が残ればいいなと思っていました。

副主管の道北各LOMとの協力体制

山田：副主管である道北各LOMの理事長の所に行つて、誰か部会に出てほしいとお願いしましたね。

新谷：立候補する時から道北の地区大会というコンセプトが根底にあって、0から関わってほしい。一緒に地区大会を感じてほしいという思いですよ。LOMから元気な人がいたらって2019年の暮れぐらいに声かけに回りました。

山田：新年交礼会も皆で回って。

新谷：1番多かった日で5ヶ所くらい交礼会が重なって、函館の主催実行委員会終わりに急いで函館空港に行き丘珠空港に飛んで深川に行つてね。メンバーが手分けして各地の交礼会で横断幕持って旭川大会のPRもしましたね。LOMの総力として、北海道こんなに広いの、すごく嬉しかったなあ。

平間：あの頃はまだコロナもなかったから忙しかつたけど清々しかったよね。ただ突っ走っていて。

渡部：京都会議ぐらいまでは清々しかった。



尾野 洋介 君

2020年度三役で烈夏七夕まつりの実行委員長。地区大会では懇親部会を担当しつつ地区に副委員長で出向。2021年度は第71代理事長。

新谷：案内が来ていないLOMも山田専務から何日ですかって聞いてPRさせてくださいって言って。

山田：行けないところは電報出してね。他団体もJC頑張つてという応援が強かったですよ。

新谷：何よりシニアの先輩からの応援がものすごい支えだったなって思いますね。

渡部：シニアとしての要望も思いも全部押し殺して、全部現役の判断に任せると言うてくださって。

新谷：そこで記念誌は作ってほしいと初めて言われて。中本委員長率いる2021年度の広報渉外委員会の皆様に大変お世話になることになったんです。

年度途中で未曾有の感染症が蔓延

山田：コロナになった時に地区大会をどうしようか真剣に考え出した時に、すごかったのが主旨文がぶれないっていうことでした。

平間：たまたまだと思う（笑）。事業部会長が1番困らず進めたから良かった。大会の方向性など、ゲストも全然アポとかもとれなくて、1番最初はどうするんだというところでしたね。



新谷：コロナで現地に集まれない、呼べないとなった時の切り替えは早かった。集まる前提だったら大会の各ファンクションが企画倒れになる可能性が極めて高く、オンラインに振り切る事も含めて、お預かりしている69回目の大会を何としてもできる方法で形にしたかった。

渡部：LOMと地区協議会の間で議論しましたよね。

新谷：当時の世の中は全て中止の判断が歓迎されていたし。本当に判断は難しかった。

山田：どんな状況でも地区大会を開催したいという前提で話をして、その中でできる方法を提示して地区協議会と議論しましたね。

平間：関わったすべての人がそれぞれ悩んだと思う。

新谷：正解がないことに対しての議論があつて、69回目を預かったもの同士で議論はしましたよ。通常は毎月会議があり主催主管で必ず顔を合わせることができたけど、Web会議になって便利など

ころや足りないところも痛感したから、その機会が奪われたのは残念だった。

山田：式典と卒業式のみ対面で行う方向になり、7月で審議取ったんですよね。

新谷：7月が中標津で。理事長さんも、メンバーも行きたくても状況的にっていう人も多かったし。

平間：会場自体に人数制限がありましたもんね。

新谷：事業計画の審議という1つの節目、その光景を1人でも多くのメンバーで迎えたかったんですよね。でも、困難な状況でも悔しい気持ちもポジティブに捉えて挑戦するってことに、多くの学びを得ました。

いろいろあった地区大会を終えて

山田：地区大会を終えて、メンバーはどう変わったと感じられましたか。

尾野：地区大会は全員でやるものなので、その繋がりや接点がすごく増えたと思います。皆さんスキルがすごく高い方ばかりでしたが、さらにスキルが上がりつつ、繋がりが強くなったと思います。

渡部：地区大会の議案を携わったことにより LOM の議案の精度がすごく高まった。地区大会の構築を通じて、今回のコロナの影響のように突然対面から Web に切り替えたりと、事業の構築の仕方がすごく対応がすぐできるようになったと思います。LOM 全体のレベルアップに繋がったと思います。

平間：Web 開催になって何が残せるのか不安はあったのですが、人によっては地区協議会と距離が近くなった人もいると思うし、視野が広がった人も絶対いると思うから良かったと思っています。

山田：地区協議会との距離がぐっと縮まったのと、トライアンドエラーを勢いとしてポジティブにやる気持ちがすごく強くなったと思います。その反面、通常開催の方が絶対関わられたのにな、という気持ちは残っています。ただ、新しい角度から物事を発表すること対して、すごく挑戦するような議案になり、アフターコロナでもその発想力でもっと大きい事業になっていくと思いました。

新谷：主管益の部分は当然風通しが良くなったり、変化に対応してきた。変化に対応できたのが1番の成長につながった学びだったと。出向とか望めば当たり前に入るチャンスとして存在するべきで、その距離は近くなったなと思います。40歳までの限られた時間の中で、地区大会を主管するのは機会だらけだから、現役中にやれたのは、めちゃめちゃ幸せなことだったと今は思いますね。

山田：最後に地区大会を、主管したいという未来のメンバーに向けてお願いします。

渡部：立候補の時から携わり、大変な思いをしましたが、30年も開ける必要もなくやる気があればやった方が絶対いいと思いました。LOM や自分のためにもなると思うので。ただ無理はせず、全体が同じ方向であればやるべきだと思います。

尾野：そこに至るまでの数年間のプロセスでそれぞれスキルアップするし繋がりも増えるし、絶対プラスになると思うので、ぜひやって欲しいです。



山田：結論から言うとやった方がいいと思います。まず LOM の決断力をあげなきゃいけない。準備段階で夢を膨らませてより決断力が強くなって、前年には夢が最大限まで膨れ上がりますよね。そして当該年度、この夢を放つべく高まった状態でスタートできると思います。今回の地区大会はコロナの影響で何度も変更を余儀なくされた部分はあったけど、それがあったからみんなの知恵や才が発揮できた。でも1人では絶対できないです。1人の100歩より100人の1歩なんです。100人みんなが力を出せばその辛さも半減できるから、地区大会はやった方が良くって言い切れます。

平間：現地開催できる地区大会が元に戻って来た時は、まずは参加しに行ってみてほしいなと思います。汗水垂らして駆け回って頑張っている北海道のメンバーがたくさんいるはずだから、その姿を見てほしいと思います。その上で旭川でもやりたいと思ってもらえたら私たちも幸せだしやってもらいたい。地区大会の主管は本当にたくさんの学びがあるので、挑戦して欲しいなと思います。

新谷：10年に一度手を挙げることを決めている LOM が何個かあってなんでだろうって思っていたけど、今はその答えが見えて、嫌でも地区大会に向き合うとその3年位は LOM が動くんですよ。LOM の起爆剤となります。かけがえのない現役の期間を最大限有効に活用できる手法の一つが地区大会だと理解しています。立候補から始まって、実施して、携わる一人ひとりにストーリーやドラマが生まれて、それが一生涯の財産になり LOM の



レベルUPも図れる。地区大会主管の気運が高まったら、また目指すのはいいことだと思います。もし未来に起こるとすれば、シニアという立場になります。応援したいよね。その渦中に居ると本当に大変だけど、振り返ってみると地区大会は究極の継続事業だから、JCにいるのであれば目指すべき、触れてみるべき、携わるべき事業だと思います。

海老子川：地区大会を旭川で念願叶ってできたあの形というのは、旭川にしか出来ない地区大会だと思いますし、その時代の状況の変化に即応する形で実施ができ大きなトラブルもなく、こうやっ

て振り返りの座談会ができて本当に素晴らしいことだと思います。本当はそこに立ちたくて叶わなかった人たちがいっぱいいることも知っていただきたいし、それがJCの良いところだと思います。そのタスキが絶えることなく、さらなる高みを目指して新しいまちづくりの目標なり課題なりに対峙して頂けると、先輩として嬉しい限りです。

牧原：終わってから思うのは、何かやるきっかけって、考えてやるんじゃなく、1歩踏み出す勇気って言うんですかね、大変だから難しいとか、実現可能じゃないってというのはJCの中では考えなくても良いと思うところと、その経験が本当に人のつながりとか、悔しい思いもたくさんしたんですけど結果、今は素晴らしい経験をいただいて、今の人生につながって仕事とかじゃなく、人生につながっているなってすごく感じるんで、このまま旭川JCが発展して行くには、ビビらないでやるって決めたらやるってところが1番大切なんじゃないかなって思います。

主管理事長・主管実行委員長のお二人からメッセージ



第69回
北海道地区大会
旭川大会
主管理事長

新谷 逸生

公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会第69回北海道地区大会旭川大会の開催に際し、心を寄せていただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。北海道地区協議会における究極の継続事業と称され、運動の集大成の場であり、常に特別な存在であり続ける地区大会を主管させていただいたことは、LOMにとって大変光栄なことであり、多くの方々の想いを背負った挑戦の日々でした。大会テーマ「咲誇る未来へ」のもと、大きな時代の変化に順応する中で、今できることを探求し、従前とは違った全く新しい形の大会に挑戦することになりましたが、大会誘致に動き始めた瞬間から、数年かけて想いを形にしていく長い道のりには、LOMの垣根を超えた多くの仲間との素晴らしい出逢いがありました。仲間とひたむきに努力し、真剣に議論し、切磋琢磨し、共に歩んだ軌跡は多くの尊い機会に溢れ、携わった全ての方々にそれぞれのストーリーがあることでしょう。大会を契機としてLOMが経験を積み、視野を広げ、多くの側面で成長を遂げられたことはもちろん、人と人が深くつながり、たくさんのご縁を頂戴したことは、LOMにとって大変貴重な財産となりました。今後も地区大会をはじめとする青年会議所所得られる多くの機会を前向きに捉え、人と人のつながりを大切に、メンバーそれぞれの彩り豊かな人生の糧としていただきたいと思います。



第69回
北海道地区大会
旭川大会
主管実行委員長

平間 恵子

旭川青年会議所として30年ぶりに北海道のステージに立つことができ、旭川を全道に発信するチャンスとも捉えて、まちづくりの一環としても大きな夢を描きながら仲間と歩んだ日々は、素晴らしく尊いものでした。コロナ禍という非常に厳しい状況に陥り、思い描いていた地区大会とは全く違う形になりましたが、変わりゆく状況を受入れ、様々な困難を乗り越えた先に、第69回北海道地区大会旭川大会を刻むことができたのは、北海道地区協議会、全道LOMの皆様のご理解、そして諸先輩の皆様の支えがあったからと感謝しております。主管として至らない点もありましたが、どのような形でも必ず成功させたいと諦めることなく立ち向かった日々は、LOM全体の成長につながったと実感しています。旭川青年会議所は道内で二番目に大きなLOMであり、道北エリアはもちろん北海道地区協議会の戦力になるべきLOMでもあると思います。旭川大会を機に旭川メンバーが北海道地区協議会でも更に活躍し続けてくれることを願っておりますし、それは必ず地場である旭川の発展につながるものと考えております。自身のキャパを決めつけず、全ての機会を受入れて、LOMでも出向でも挑戦し続けていただきたいと思います。

地区大会に関わった全ての方へ、感謝を申し上げます。

旭川ナナカマド基金

実施期間：2013 年～



2015 年度
まちづくりデザイン委員会
委員長

鈴木 大介 先輩

①事業実施に至った経緯

旭川市内には青年会議所だけでなく、様々な運動を展開している各団体があり、特に小規模の団体において意気込みはあっても資金面で苦しんでいる団体もありました。その頑張っている方々へ継続して支援していく仕組みを創りたいという想いがありました。当時道内の先駆けとして札幌青年会議所でブルーアース募金があり我々としても色々なやり方を模索しながらもブルーアース募金をモデルにしてやっことうと 300 万円の原資で始めることにしました。札幌のシステムに近い形を目指し、メンバー一緒になって定款などを作成しました。



②事業の内容

この基金は旭川のまちづくり・人づくりに寄与している団体を対象として、事業資金もしくは運営資金として、年間総額 30 万円の資金助成をする基金です。旭川市民の生活・文化の向上に寄与するまちづくり並びに人づくりを目的として活動している非営利団体（町内会などの地域団体もしくは NPO 法人・任意団体）への資金助成を通して支援をおこなっております。

③良かったこと

実際に募金として拠出したときよりも、その団体から有意義に使っていただけた報告を受けたときは嬉しかったですね。「非常に助かりました」という声もいただきました。特に小規模団体へのサ

基金受賞団体

2014 年度
旭川地区サッカー協会 第 3 種事業委員会
2016 年度
WORKSHOP COLLECTION /
特定非営利活動法人もりねっと北海道
2017 年度
旭川ラーメン応援チアダンスプロジェクト／北柔会
2019 年度
子育て支援団体 よつばのクローバー／
旭川市少年少女オーケストラ

ポートは着実に行われている実感を得ることができました。

④大変だったこと

まず事業継続するために資金を集める仕組みを構築することでした。賛同頂ける飲料販売メーカー様に、現役メンバーのお付き合いが長い方を通じてお願いにいきました。また現役メンバーから基金への寄付という形ではなく、あくまでも善意での拠出という形が必要だったため、自動販売機やワンコインという仕組みの構築も大変でした。また事業の周知をするにあたり、ポスター、リーフレットを配布しましたが、如何に公共性があり、効果的・効率的な広報につながるかという点から掲載場所の選定にも苦労しました。実際に事業がスタートしてからは対象事業の選定をしましたが、これが最も大変でした。多い時で 6～7 件の応募をいただきましたが、最初はただ単に資金が欲しくて応募してきたものもあり、事業主旨や公益性の観点や対象事業団体の過年度実績や構成団体なども精査し、慎重に選定を進めていました。

⑤事業を振り返って

毎年の継続事業であるため、その性質上原資が減少して行ってしまうことを避けられません。しかしながら創始のメンバーの想いとしては継続の原資を集めることは大変ですが、事業としては素晴らしいと思うのでぜひ継続してほしいです。過去に日本 JC に資金源の調達方法も相談したら良いアドバイス等も頂きましたので、うまく活用して事業継続につなげて頂きたいと思います。

東日本大震災復興支援

福島っ子・旭川っ子「ずっと友達！おもいっきり夏休み」in 旭川

実施期間：2012年8月7日～12日



2012年度
青少年育成委員会
委員長

澤田 真由美 先輩

①事業実施に至った経緯

この委員会には当初より青少年育成の他に東日本復興支援の担いもありました。「本当に必要とされる支援を必要な方々に届けたい」との強い思いからまずはゼロベースで東北の各 LOM を訪ね、視察、聞き取りを始めました。その中で遊び盛りの子どもたちを全く見かけない現状、放射能から遠ざけ、心身ともにリフレッシュが必要である事を知り、福島県原町 JC のご紹介で出会った「南相馬こどものつばさ」のご協力を得る形で「青少年を主とした復興支援」にたどり着きました。旭川市民を巻き込んで受け入れたい思いから「子どもの心に思いやり」～学ぶことは支援のための第一歩～と題し、震災後の子どもたちにおける PTSD について臨床心理士である大学教授を招き、公開例会を行いました。その後「Joy Full 実行委員会」を立ち上げ復興支援がスタートします。



②事業の内容

まずはフェリーとバスを乗り継ぎ福島っ子を迎えに行くことからスタート、福島っ子 30 名旭川っ子 30 名の交流事業は臨床心理士 2 名の同行の元、一泊は旭川っ子のご家庭にホームステイ、もう一泊は富沢ふれあいの家に宿泊。動物園に農業体験、牛の乳しぼり体験やそば打ち体験、工芸品作りなど盛りだくさんで旭川を満喫してもらいました。フェアウェルパーティーのジングスカンや流しそうめんは盛り上がりしました。



③良かったこと

旭川に来る数日前に父親を亡くした男の子がおり、母親から参加についての相談を受けたときに、責任を持って預かるので是非来ていただきたいと伝えました。また、それが委員会メンバーの結束力を高めるきっかけとなりました。子どもたちにはママと呼んでいただき、慕ってもらえたのが嬉しかったです。事業終了後、原町 JC のメンバーから子どもたちの笑顔あふれるメッセージを送っていただき、大号泣してしまいました。



④大変だったこと

寄付金活動が烈夏の協賛金時期と重なり大変でしたが、被災者が製作し、復興支援の一助にもなる「幸福の黄色い折鶴ストラップ」をツールにし目標額を達成できました。フェリーデッキでのラジオ体操、バス内の自己紹介やゲーム、途中でのお弁当調達や食事場所の設定に、緊急時対策マニュアルやタイムスケジュール、子ども用旅のしおりの作成・仕事もせず、毎日パソコンの前に居ました。ホームステイのマッチングも大変苦労しました。



⑤事業を振り返って

支援をしたという事よりも、事業を通じて子どもたちから学ばせてもらったことの方が多かったです。

旭川ユナイテッドチルドレン

実施期間：2009 年～



2009 年度
青少年開発プロジェクト委員会
委員長

平田 大樹 先輩



ユナイテッドチルドレン（UC）とは「未来の日本・世界を動かす人を創る」を理念とし、それぞれの地域に即した問題に中高生が中心になって取り組み、その活動を通して社会の抱える問題を知り、その解決が出来る人間へとメンバー一人ひとりが成長する場となっています。

①事業実施に至った経緯

2000 年代の運動指針を示す、新・旭川 JC 宣言において「次代を担う子どもたちの育成」を一つの柱として掲げてきました。私たちは「親として」「大人として」「人間として」次代を担う子どもたちを育成する義務があること、子どもたちを育てていく親や地域社会、そして私たち自身に向けて、身近な事象から何かを学び取ることをできる「体験」の場を提供することで、私たちは子どもたちに対し「心に残る感動」を与えたいと願うといった内容があり、それらをより躍進させるための土壌を醸成するべく、子どもたちにより多くの「体験」と「心に残る感動」を与えていくための有効な手法として静岡県浜松市の中高生 4 人が集まり発足され活動していた、ユナイテッドチルドレン（UC）を旭川でも設立することを目指しました。



②事業の内容

JC メンバーに対して、ユナイテッドチルドレン設立に向けた協力依頼をする例会を実施し、「次代を担う子どもたちの育成を考えるフォーラム」を開催した後、旭川市内の中高生に向けて、ユナイテッドチルドレン体験ワークショップを開催しました。



③良かったこと

中高生たちやその保護者の皆様の考えを知ることができました。中高生が旭川のことを知ろうと真剣に議論する機会となり、その結果、子どもたちの目線から旭川の良さを活かした様々なアイディアが生まれ、イベントなどの運営を通じて新たな賑わいを創出することが出来ました。また、運営準備をする中で、同じ志を持つ中高生同士の輪が広がり、学校を跨いだ交流へと繋がりました。JC メンバーに対しても、子ども達が旭川に対して考え、純粋に取り組む姿から、様々な学びを得ることができたと考えます。

④大変だったこと

JC は単年度制のため継続がとても難しかったです。立ち上げのメンバーが JC を卒業しても対応せざるを得なく、相手が学生なのですべての活動にメンバーが立ち会わなければいけなかったのです。学生本人ではなく教育機関の学校と学生の親御さん、行政とのやり取りが発生して運営が複雑でした。後半 UC がイベント屋になってしまい背景目的を子たちに意識させるのが難しくなっていました。教育者じゃないから、教育者からの冷たい視線を感じることもありました。教育のことは素人のあなたたちは言わないでと言われたりしました。



⑤事業を振り返って

石田理事長が描いていたものを、担当委員会として形にしました。現在は旭川 UC のサポートグループ初代会長の佐藤友泰先輩の思いを紡ぎ、渡邊千晃先輩が二代目会長として活動しています。

■ たいせつマルシェ

実施期間：2008 年 8 月～



2011 年度
まちのくらし活性化委員会
委員長

村本 暁 先輩

① 事業実施に至った経緯

たいせつマルシェは「食」を大切にする古くて新しいライフスタイルの提案を通じて、様々なコミュニケーションの創造を図り、豊かな地域社会の創造に地域社会全体で取り組むための環境作りを目指し、「協力」から「連携」へ、「連携」から「協働」という地域 Vision を掲げました。

パリのマルシェには、たとえバターを買うお金がなくてもバター屋さんの笑顔がある。2008 年、ものづくり戦略モデルとして旭川市長へ提言したプランを地域経済活性化プランの事業として実際に形にしたダイナミックなものでありました。当時のメンバーは、阿部祐之先輩、松倉智幸先輩（2008 年理事長）、今津寛介氏（現旭川市長）、上村有史氏（現旭川市議）、近藤博之氏（2013 年理事長）他、錚々たる顔ぶれの中、後のマルシェ委員会を引き継ぐ市川範之氏と私も委員会を超えて新人として参加しました。



② 事業の内容

初回は実験開催として 2008 年 8 月～9 月に計 3 回、10 時～17 時の間に買物公園（3 条～4 条）にて単管パイプのテントを張って行いました。2010 年から始まった当時の西川市長の活性化政策の一つとなった「北の恵み食べマルシェ」は、市長の看板事業として 2019 年まで行われました。以降「たいせつマルシェ」として参加し、2011 年には青年会議所から民間に移行します。たいせつマルシェ協議会を立ち上げ、たいせつマルシェの基本コンセプト及び目的を参加者と共有しました。



③ 良かったこと

当時、生産者と消費者が直接話す機会である直売店が少なく、市場に出せない規格外を自ら持ってきて売ることに、どちらも喜ばれていました。

買物公園という構想は JC の先輩の功績でありそこで行われる食べマルシェも JC からの提言である事は感慨深いものがありました。旭川市に食べマルシェとして残せたこともとても良かったと思っています。

④ 大変だったこと

路上で調理する事の制限に苦労しました。生産者と加工者がその場で旬を提供する。例えば、羽幌の甘エビまつりなど文化的なものとは違いマルシェの形がなく目指している形がなかなか実現となりませんでした。

⑤ 事業を振り返って

マルシェは接触に重きをおいていましたが、今は非接触を好む時代となり、ICT を利用しての販売網の拡大など根本的に人とのつながり方が変わってきています。このような時代背景から「たいせつマルシェ」は役目を終え、次の段階に移る時だと考え、たいせつマルシェ協議会は 2021 年 7 月に解散することとなりました。

今いる JC のメンバーで新たに提言し、策定して欲しいというのが私の願いでもあります。



旭山動物園マイスターボランティア

実施期間：2006 年～



2006 年度
冬の元気発信委員会
委員長

山城 晋一 先輩

①事業実施に至った経緯

旭山動物園が全国から脚光を浴びている一方で、旭川市の財政状況やマンパワーの不足、他の動物園が注目されることで下火になってしまう不安や危機感を抱えていました。これらの課題を解決するため、2005 年のシンポジウムにて市民参画型の事業としてマイスターボランティアが提案されました。



②事業の内容

1 年目は手探りの中、実行委員会や動物園の裏側を見学できる講習会等を開いて、約 200 名のボランティア登録をいただきました。講習を受けたボランティアの人たちはオレンジ色のベストを着て、ごみ拾いや道案内のサポートを実施しました。

③良かったこと

市民参画型の事業を実施できたこと、1 年目で核として活動された方が会長となり今でもマイスターボランティアが継続され定着していることとなります。



旭山動物園
マイスター
ボランティア

④大変だったこと

実行委員会、講習会の回数が多く、委員会メンバーへ多くの負担を掛けてしまったこともありました。



⑤事業を振り返って

この事業を見守っていくまたは応援できるように、継続的な検証が必要と考えています。移管した現在でもマイスターボランティアは継続していますが、新規の募集を JC ホームページに掲載する等、応援できる部分はまだあると考えられます。



烈夏七夕まつり



年度	回数	実行委員長	主な内容
1985 年			旭川のまつりについて考える事業を行い、提言書を作成する
1987 年			千貫神輿のお披露目と解説、粋旭によるデモンストレーション等を実施
1988 年			まつりのあり方についての提言書を作成
1989 年			旭川開基 100 年に向けて夏・冬まつり提言書を作成。旭川 2 世紀への踊りコンテスト、アマチュアバンドによる踊れる曲へのアレンジコンテスト等を実施
1990 年			夏まつりに伴う実験イベント「ローソクだせ」を実施。夏まつり提言書を作成し、関係団体に配布
1991 年	第 1 回	畠 明 弘	烈夏七夕まつり開始。買物公園を連行し、3 基の太鼓山車に飾りやのぼりを立て、JC メンバーがその周りで囃し立てながら踊る形で実施。「ローソクだせ」や「あんどん行列」を実施
1992 年	第 2 回	佐々木 通彦	昭和通りを使った大型山車を連行。沼田町の「夜高あんどん」、留萌市の「やん衆あんどん」、羽幌町の「女みこし」、富良野の「へそまつり」、旭川永山屯田まつりの「みやまあんどん」計 5 団体を招待
1993 年	第 3 回	牧 野 聡	旭川 JC 山車の制作や 3 条買物公園にやぐら等を設置。子ども山車を使った子どもたちの参加があり『見る側』『参加する側』『担う側』が三位一体となる理想形に近づく
1994 年	第 4 回	青 木 典彦	100 万円が当たる『あんどん行列コンテスト』を実施。企業をはじめとする団体の参加が得られる。ラスベガス 6 日間ペア招待券が当たる短冊抽選会を実施
1995 年	第 5 回	長谷川 力也	織姫彦星イベントを実施。行燈山車・踊り・太鼓を主軸に昭和通りを通行止めにして運行を実施。また旭川大雪アリーナで『まつりセッション』（子ども獅子舞・神輿担ぎ等）を実施
1996 年	第 6 回	田 中 信也	市民の『地域意識』の高揚を図り「まつり」に係る団体、各関係機関とのネットワーク作りを模索
1997 年	第 7 回	美 馬 弘幸	「市民参加」をキーワードに、市民と一丸となる地域に根ざしたまつりを推進
1998 年	第 8 回	江 夏 秀則	郷土愛精神の醸成と元気な人々の住む旭川づくりを成すべく集う人々の暖かい心の環境を創造
1999 年	第 9 回	仁 矢 康己	市民自らが主体的に参加・参画するという意識を芽生えさせる取り組みを行う
2000 年	第 10 回	樋 口 透	第 8 回地域伝統芸能全国フェスティバル（北海道）日本のまつり ふるさと・旭川 2000 と共に開催し、旭川を代表するまつりに成長した烈夏を全国に発信
2001 年	第 11 回	阿 部 祐之	スケートボードと DJ のセッション、YOSAKOI ソーラン in Recca
2002 年	第 12 回	高 畠 政美	「まちづくりマネジメント計画」に基づき、まちづくりに対して意欲のある人を応援、支援
2003 年	第 13 回	金 聖 一	法被コンテスト・体験まつりを実施
2004 年	第 14 回	酒 井 祐司	こころンピック・子ども向け和太鼓フェスティバルの実施
2005 年	第 15 回	寺 島 賢一	連行ルート変更提案（参加団体に連行ルート変更等に対してアンケート調査）
2006 年	第 16 回	石 田 慶嗣	連行ルートを昭和通りに変更。太鼓フェスティバル・体験和太鼓・子烈夏の実施
2007 年	第 17 回	藤 原 正幸	運動指針である「地域社会を支える住民参画システムの構築」の推進
2008 年	第 18 回	本 間 公浩	烈夏七夕まつりの来場者にアンケートを実施
2009 年	第 19 回	安 田 典充	連行時の踊り・お囃子の統一、山車の見せ方の検討
2010 年	第 20 回	千 葉 真也	「地域のみなさんが街のプロデューサー」を基本理念として、一般の人々が誰でも気軽に街づくりに参加できるシステム構築を推進
2011 年	第 21 回	福 居 裕二	子ども山車を新たに設けたことにより 4 団体（こども 31 団体と保護者）が参加
2012 年	第 22 回	石 黒 裕規	織姫彦星のイベントを復活させ、フィナーレに。市民ボランティア山車の制作
2013 年	第 23 回	外 崎 裕二	織姫彦星を行うフィナーレ会場を 5 条に変更。試験的に山車コンテストを実施。全国で 2 番目に大きい太鼓「神（カムイ）」を借りて演出
2014 年	第 24 回	稲 田 良輔	参加団体へ持ち込み山車への移行の促し開始（招待から参加へ）、山車コンテストを正式に開始
2015 年	第 25 回	岩 井 隆行	体験山車の実施、財務局の設置開始
2016 年	第 26 回	伊 藤 久美	旭川夏まつり第 55 回記念として道北 5 団体と行灯連行などコラボレーション。フィナーレを 3 条と 5 条（織姫彦星）で実施。体験踊りの実施、地点管理部会設立
2017 年	第 27 回	長 井 翔一郎	短冊コーナーの設置、5 条におけるオープニングフェスの再開。烈夏担当委員会を「烈夏事務局」として少人数にし、烈夏以外の委員会に役割を設ける
2018 年	第 28 回	北 崎 悌綱	新烈夏囃子の考案、クラウドファンディングを初実施。山車の連行に札幌北高生徒も初参加、旭大生を連行と地点管理に組み込む
2019 年	第 29 回	清 水 健史	当日参加者を募ることでより多くの市民が参加。資金調達のため、常盤公園に出店を出し、前年に続きクラウドファンディングを実施（101,000 円集まる）
2020 年	第 30 回	尾 野 洋介	コロナウイルスの蔓延により中止。第 30 回記念式典、講師として佐々木通彦先輩、2 名の顧問をお招きした講演会を実施

旭川冬まつり支援



年度	事業名	主な内容
1984 年	第 3 回石狩川クロスカントリー	オープン競技、対抗リレー、歩くスキー
1985 年	第 4 回石狩川クロスカントリー	オープン競技、対抗リレー、歩くスキー、仮装大会
1986 年	GOGO! ホワイトカーニバル (旭川冬まつり前夜祭)	神輿パレード、雪中ウルトラクイズ、ファイアーストーム
1987 年	GOGO! ホワイトカーニバル (旭川冬まつり前夜祭)	神輿パレード、雪中ウルトラクイズ、ジャズダンス、太鼓
1988 年	第 3 回ホワイトカーニバル	山車・仮装行列パレード、フローリングスカルチャーの作成
1989 年	第 4 回ホワイトカーニバル・NTV 人文字コンテスト参加	冬まつりパレード、ウルトラクイズ、アイスシェル
1990 年	市民氷彫刻コンテスト	市民対象の氷彫刻コンテスト開始。氷彫刻世界大会ウェルカムパーティー
1991 年	第 2 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト、スノーパレー大会、氷彫刻世界大会ウェルカムパーティー
1992 年	アイスアートフェスタ '92・スノーパレーバトル '92	第 3 回市民氷彫刻コンテスト、スノーパレー大会
1993 年	ホワイトカーニバル '93・熱冬! スノーパレー	第 4 回市民氷彫刻コンテスト、スノーパレー、前夜祭協力、氷彫刻世界大会ウェルカムパーティー
1994 年	アイスアートフェスタ '94・第 5 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト
1995 年	アイスアートフェスタ '95・第 6 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト
1996 年	アイスアートフェスタ '96・第 7 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト、氷上ボーリング、雪上綱引きなど
1997 年	アイスアートフェスタ '97・第 8 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト、氷上ボーリング、電激イライラ棒など
1998 年	アイスアートフェスタ '98・第 9 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト
1999 年	アイスアートフェスタ '99・第 10 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト、アイスウェイト、小学生クイズ選手権など
2000 年	アイスアートフェスタ 2000・第 11 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト
2001 年	アイスアートフェスタ 2001・第 12 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト
2002 年	アイスアートフェスタ 2002・第 13 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテストを 3 会場に。氷彫刻体験コーナーの新設
2003 年	アイスアートフェスタ 2003・第 14 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト、氷彫刻体験
2004 年	アイスアートフェスタ 2004・第 15 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテストを 4 会場に。氷彫刻体験
2005 年	アイスアートフェスタ 2005・第 16 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト、氷彫刻体験
2006 年	アイスアートフェスタ 2006・第 17 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト、氷彫刻体験
2007 年	アイスアートフェスタ 2007・第 18 回市民氷彫刻コンテスト	氷彫刻コンテスト、氷彫刻体験
2008 年	アイスアートストリート「旭川アイスアートビレッジへ続く道」	氷彫刻体験、アイスドーム制作、アイスカフェなど
2009 年	アイスアートビレッジ 2009 雪と氷の憩いの場 アイスアートパーク	アイスドーム、アイスカフェ、アイスアート体験など
2010 年	アイスアートビレッジ 2010 雪と氷の幻想 アイスアートリンク	アイスドーム、アイスカフェ、アイスアート体験など
2011 年	アイスアートビレッジ 2011 コラボレーション・夢への架け橋	アイスドーム制作、アイスカフェ、アイスアート体験など
2012 年	アイスアートビレッジ 2012 わくわく Winter Attraction!	アイスドーム制作、アイスシアター、アイスカフェバーなど
2013 年	ICE Wonderland 2013 Smile for ASAHIKAWA	アイスシアター、氷彫刻体験、スノースケート体験、ハート型撮影スポットなど
2014 年	ICE Wonderland 2014 ～ Love for your Asahikawa ～	アイスシアター、氷彫刻体験、スノースケート体験、ハート型撮影スポットなど
2015 年	It's a snow world 2015	氷彫刻体験、お絵かきコーナー、雪上ストラックアウト、雪上 PK サッカー、雪上跳び箱、雪上パークゴルフ、ハート型撮影スポットなど
2016 年	JC support a Winter Festival 2016～旭川青年会議所プレゼンツチルドレンフェスティバル～	氷彫刻体験、スノーボード、チュービング、ヤマメ釣り、子ども縁日など
2017 年	わくわく ICE SQUARE in TOKIWA	Welcome 雪だるま、氷彫刻体験、かまくら体験、SNS 切り抜きパネル展示など
2018 年	わくわく ICE SQUARE in TOKIWA 2018	Welcome 雪だるま制作、100m の光の回廊、氷彫刻体験、かまくら体験、パネル展示など
2019 年	わくわく ICE SQUARE in TOKIWA 2019	Welcome 雪だるま制作、雪中サッカー大会、スノーモビル体験、氷彫刻体験、雪遊び体験など
2020 年	わくわく ICE SQUARE in TOKIWA 2020	Welcome 雪だるま制作、雪中サッカー大会、雪合戦、スノーモビル体験、氷彫刻体験など

■ 創立 60 周年記念式典・祝賀会及び記念事業

創立 60 周年記念式典・祝賀会



日 時 2010 年 11 月 13 日 (土)

式典 11:00 ~ 12:30・祝賀会 13:30 ~ 15:30

場 所 ロワジールホテル旭川 3F ボールルーム

参加者 681 名 (対内 101 名/対外 578 名)

コンセプト 過去への感謝・現代を生きる・未来への責任

担 当 創立 60 周年実行委員長 石川 正貴

60 周年プロジェクト委員会委員長 大谷 善彦

60 年の歩みを振り返り、学び、歴史を紡いで来られた諸先輩方に感謝をし、変化する多様な社会に適応し、未来への責任を持ち続け、明るい豊かな社会の実現のために運動し続けていくことを約束する年にすることをコンセプトに、北海道各地の青年会議所メンバーや関係団体の皆様、姉妹 JC のタンペレ、友好 JC の鶯歌の皆様を多数お迎えし、盛大に式典及び祝賀会を実施しました。式典の中で、2000 年代運動指針である「新・旭川 JC 宣言」を振り返り、次の 10 年である 2010 年度運動方針として『豊かさの探求によるわがまち・あさひかわの発展』を掲げ、「旭川 JC 宣言 夢ビジョン 2010」を発表しました。また国際交流の機会としてタンペレ JC、鶯歌 JC の皆様と交流をし、友情を深める機会となりました。

創立 60 周年記念講演「戦略を超える理念経営」



日 時 2010 年 12 月 3 日 (金) 19:00 ~ 21:00

場 所 旭川市民文化会館小ホール

参加者 177 名 (対内 43 名/対外 134 名)

出演者 アチーブメント (株) 代表取締役 青木 仁志 氏

担 当 60 周年プロジェクト委員会委員長 大谷 善彦

「過去への感謝」と「未来への責任」を自覚し「現代を生きる」うえで創立当初のような高い志を持ち行動するリーダーが数多く育成することが未来の「明るい豊かな社会」に寄与ことにつながると考え、居心地のいい「今」に甘んじるのではなく、高い「志」を持ち新しい一歩を踏み出すきっかけになればという思いが詰まった記念講演となりました。

姉妹 JC のタンペレ JC と友好 JC の鶯歌 JC の皆様との国際交流の様子



■ 創立 65 周年記念式典・祝賀会及び記念事業

創立 65 周年記念式典・祝賀会



日 時 2015 年 11 月 14 日 (土)

式典 17:00 ~ 18:40・祝賀会 19:00 ~ 20:10

場 所 アートホテルズ旭川 3F ボールルーム

参加者 253 名 (対内 43 名/対外 210 名)

テーマ 夢をかたちに

担 当 組織推進局 局長 長谷川 周弘 (実行委員長)

2010 年代の中間点にあたり、過去 5 年の運動を振り返り、未来へと導く年と位置づけ、開催されました。旭川 JC 宣言にある「夢」の姿を「かたち」にするべく、旭川で生まれ育った人々が郷土に誇りを持ち、自らが描く夢の実現に向け行動することを実行するため、人と人とを繋ぐ架け橋になることをコンセプトに、道北エリア 10LOM のメンバーや関係団体の皆様、友好 JC である鶯歌 JC の皆様に来賓を迎え、旭川青年会議所シニアクラブの皆様とともに盛大に祝いました。また、2020 年までの 5 年は、真の豊かさとは心が満たされることと捉え、「ひとの心」が通う行動や「誰かのため」の運動を行っていくことを誓いました。

創立 65 周年記念事業



■ 第一弾 夢をかたちにするまちづくり戦略フォーラム

日 時 2015 年 10 月 25 日 (日) 16:00 ~ 18:00

場 所 道北経済センタービル 2 階大ホール

参加者 123 名 (対内 40 名/対外 83 名)

出演者 釧路公立大学地域経済研究センター教授 佐野 修久氏
旭川市総合政策部長 赤岡 昌弘氏
旭川信用金庫 理事長 原田 直彦氏

担 当 まちづくりデザイン委員会 委員長 鈴木 大介

佐野氏の基調講演やパネルディスカッション。産官学金連携や市民参画が可能な新たな資金調達的手法であるクラウドファンディングを紹介し、新たなアイデアを提案。また、年間を通して行ってきた事業の提言を発表。旭川市に提出しました。道北エリア大会の開催地事業としても位置づけられ、道北エリア各 LOM メンバーも多く参加いただきました。

■ 第二弾 若者による旭川魅力発信のしゃべり場

日 時 2015 年 10 月 25 日 (日) 14:00 ~ 16:00

場 所 旭川アッシュビル (ash)

参加者 97 名 (対内 35 名/対外 62 名)

出演者 朝妻 久実氏/星野 智哉氏/ラフ→チケット
中高大学生 (11 名)

担 当 未来の夢創造委員会 委員長 川島 和也

夢を持って様々なステージで活躍している方の経験を、参加の中高大学生と語り合い、夢に向かって行動する大人から学び、今後の人生に生きる経験から夢を持って自発的に行動する青少年が未来のリーダーとして旭川を明るく照らす灯火となることを実感する青少年育成事業となりました。



■ 創立 70 周年記念式典・祝賀会及び記念事業

創立 70 周年記念式典



日 時 2020 年 11 月 14 日（土）18:00 ～ 19:45

場 所 アートホテル旭川 3F ボールルーム

参加者 122 名（対内 39 名／対外 83 名）

テーマ 躍 動

担 当 創立 70 周年実行委員長 渡部 康晴

創立 70 周年特別委員会 委員長 山崎 五良

当初は北海道各地の青年会議所メンバーや関係団体の皆様、また国際交流として姉妹 JC のタンペレ、友好 JC の鶯歌の皆様もお迎えし、盛大に実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、縮小した形での実施となりました。

万全の感染症対策を実施した上で、旭川青年会議所の現役メンバーやシニアクラブ諸先輩の皆様に加え、旭川市長、上川総合振興局長を来賓として迎え、ソーシャルディスタンスを保ち式典のみを行いました。規模は小さいながらも旭川青年会議所の 70 周年を多くの皆様と共に祝いすることができました。

創立 70 周年記念植樹事業 ～感謝のバトン～



■ 旭川市役所へアジサイ寄贈

日 時 2020 年 11 月 24 日（火）10:00 ～

場 所 旭川市役所

参加者 5 名

担 当 創立 70 周年事業部会 部会長 清水 健史

■ アジサイの植樹実施

日 時 2021 年 6 月 23 日（水）10:00 ～ 12:00

場 所 あさひかわ北彩都ガーデン

参加者 54 名（対内 41 名／対外 13 名）

担 当 広報渉外委員会 委員長 中本 吉彦（2021 年度）

創立 70 周年を迎え、今まで旭川青年会議所を支えてくださった方々に感謝の気持ちを形にするべく、旭川市にアジサイを寄贈しました。そして翌年 6 月 23 日に、旭川市長をはじめ旭川青年会議所シニアクラブ諸先輩の皆様と、現役メンバーが共に雲ひとつない青空の下、あさひかわ北彩都ガーデンに（森山病院裏～スターバックス裏）にアジサイ 83 株、ノリウツギ 54 株、合計 137 株を植えました。旭川デザインウィークともコラボし、多くのメディアにも取り上げていただきました。

あさひかわ北彩都ガーデンが旭川市民の皆様にあいさすの場となり、旭川青年会議所が歩んできた 70 年への感謝と、これからも旭川市民の皆様と共に歩み続け、植樹したアジサイと共に成長し、未来へと力強く咲誇ることを皆で誓い合いました。

資 料

▶ スポンサー歴

▶ 姉妹 JC・友好 JC

▶ 褒賞受賞歴

・ JCI

・ 日本青年会議所

・ 日本青年会議所自由部門スポンサー歴

・ 北海道地協議会

・ 北海道ブロック協議会

▶ 正会員

▶ 卒業会員

▶ 物故会員

▶ あとがき

スポンサー歴

スポンサー J C

年 度	認定月日	認証番号	LOM 名	理事長名
1952 年	3 月 14 日	28 号	網 走 青 年 会 議 所	山 崎 与 吉
1953 年	12 月 8 日	65 号	芦 別 青 年 会 議 所	藤 井 諄 一
1954 年	1 月 1 日	73 号	稚 内 青 年 会 議 所	松 岡 一 隆
1954 年	8 月 28 日	74 号	深 川 青 年 会 議 所	松 岡 一 隆
1955 年	4 月 10 日	81 号	富 良 野 青 年 会 議 所	山 崎 賢 二
1955 年	10 月 8 日	82 号	名 寄 青 年 会 議 所	山 崎 賢 二
1956 年	2 月 18 日	84 号	紋 別 青 年 会 議 所	山 崎 賢 二
1956 年	3 月 3 日	98 号	留 萌 青 年 会 議 所	山 崎 賢 二
1957 年	7 月 19 日	117 号	士 別 青 年 会 議 所	小 泉 歩
1958 年	5 月 16 日	142 号	赤 平 青 年 会 議 所	森 山 元 一

姉妹・友好 J C

姉妹 J C

締結年	NOM 名	LOM 名
1967 年	アメリカ合衆国	ブ ル ー ミ ン ト ン ・ ノ ー マ ル J C
1985 年 11 月	フィンランド共和国	タ ン ペ レ J C

友好 J C

開始年	NOM 名	LOM 名
2000 年 6 月	台 湾	鶯 歌 J C

褒賞受賞歴

JCI

年 度	受 賞
1957 年	ニュージーランド・アワード賞
1987 年	姉妹 JC 最優秀賞
1994 年	JCI 特別賞

日本青年会議所

年 度	受 賞
1964 年	優秀 JC 賞
1966 年	最優秀ローカル JC 賞
1969 年	最優秀青少年問題賞
1972 年	交通公害対策推進最優秀賞
1983 年	社会開発推進優秀賞
1983 年	青少年開発推進努力賞
1986 年	自由部門賞三世代交流推進賞優秀賞
1987 年	水と緑の都市（まち）づくり推進最優秀賞
1992 年	おまつり推進賞努力賞
1994 年	自由テーマ賞優秀賞
1997 年	「ひとづくり」推進賞優秀賞
2010 年	2010 年度 L-1 グランプリ 地域振興部門最優秀賞（たいせつマルシェ）

日本青年会議所 褒賞自由部門スポンサー歴

年 度	受賞 LOM 名	
1990 年	水と緑の都市（まち）づくり推進賞優秀賞	守山 JC
1991 年	水と緑の都市（まち）づくり推進賞優秀賞	石巻 JC
1992 年	水と緑の都市（まち）づくり推進賞優秀賞	亀岡 JC
1993 年	水と緑の都市（まち）づくり推進賞優秀賞	佐沼 JC
1994 年	水と緑の都市（まち）づくり推進賞優秀賞	大曲 JC

褒賞受賞歴

北海道地区協議会

年 度	受 賞
1964 年	最優秀 J C 賞
1964 年	最優秀委員会賞（経済委員会）
1965 年	優秀ローカル JC 賞
1967 年	最優秀ローカル委員会賞（社会福祉委員会）
1983 年	優秀社会開発推進賞
1983 年	優秀教育青少年開発推進賞
1984 年	広報活動推進賞最優秀賞
1985 年	指導力開発部門最優秀賞
1986 年	魅力ある人づくりに関する運動優秀賞
1986 年	広報誌コンクール対外紙部門努力賞
1987 年	経営開発推進最優秀賞
1987 年	広報活動推進最優秀賞
1987 年	新しい日本の生き方をつくる国際理解推進優秀賞
1988 年	会員拡大推進最優秀賞
1989 年	青少年開発推進優秀賞
1989 年	地域ビジョン策定努力賞
1990 年	自立した人間づくり推進部門優秀賞
1991 年	地球（ほし）づくり推進部門優秀賞
1992 年	地球（まち）づくり推進部門優秀賞
1992 年	おまつり推進努力賞
1995 年	「活き活き JC づくり」推進優秀賞
1997 年	人づくり推進最優秀賞
2018 年	最優秀拡大達成 LOM 賞（50 名以上部門）

北海道ブロック協議会

褒賞制度無し

2020年度 正会員

池田 圭治

(株) キュービック不動産
代表取締役

石川 泰路

サンデンパ(株)
代表取締役

石坂 圭

(株) 陽菜館
代表取締役

稲沢 春香

リアルケア(株)
代表取締役

庵原 克俊

旭川信用金庫
調査役

印南 雄太郎

旭川市役所
主査

宇山 浩好

(株) E保険プランニング
セールスマネージャー

蝦名 安信

旭川空港ビル(株)
営業部営業係長

遠藤 健晃

(株) 日専連旭川

大西 紀一郎

(株) 大西時計店
取締役営業企画課長

大野 史聖

(株) エイパックスジャパン

尾崎 恒夫

(有) 尾崎塗装

尾野 洋介

(有) エムエー保険サービス
代表取締役

加藤 伊織

(株) アイ・ディー・エフ

川村 健太

(株) カワムラ
代表取締役

岸井 一憲

(株) キシイ
取締役営業部長

北崎 悌綱

(株) Social Bridge
代表取締役 CEO

工藤 貴弘

(株) くどう
専務取締役

熊谷 哲一

(株) 熊谷商店
代表取締役専務

小林 大晋

緑橋通法律事務所
弁護士

媚山 将平

媚山鉄工(株)
常務取締役

小峯 督朗

北海道デリカフーズ(有)
取締役

坂下 翼

登揚建設(有)

佐々木 洵

(弁) 千葉総合法律事務所
中小企業診断士・社会保険労務士

佐々木 聖

(株) 丸松ササキ工業
工事部長

佐々木 勇輔

(株) プロテクト・ガード
代表取締役

佐々木 雄大

(株) エフ・イー
常務取締役

呷崎 恭寛

(株) 雪屋
代表取締役

重原 拓司

重原整骨院

清水 健史

りんどう法律事務所
弁護士

新谷 逸生

新谷建設(株)
取締役副社長

高尾 健一郎

高尾呉服店
営業部長

高橋 宏典

(株) 扇松園
代表取締役支配人

棚橋 真希

ラウンジ ルダン
代表

谷川 虎太郎

谷川印刷(株)

筒井 和騎

(株) ダスキン旭川
取締役部長

遠山 優太

ソニー生命保険(株)

戸田 昭弘

歌原戸田建設(株)
代表取締役社長

中村 光一朗

(株) 中村葬儀社
常務取締役

中本 吉彦

(有) ごまそば鶴岳
専務取締役

中保 翔太

(株) ノヴェロ旭川支社

奈良岡 美咲

Dunhill
ママ

成田 卓也

(株) ロジスティクス道央
代表取締役社長

西野目 晃正

西野目産業(株) ホテル大雪
取締役営業本部長

能澤 悠多

(株) 能澤自動車
代表取締役

野畑 健太郎

(株) 館脇倉庫
取締役

野村 晋也

極東警備保障(株)
取締役常務

馬場 智章

(株) 弘文社
代表取締役専務

林 祐作

林祐作事務所

原 洸 輝

鶏と酒 ぶち
店主

春木 真樹

(有) アール・ケイ企画
代表取締役

平間 恵子

(有) ゼニット
営業マネージャー

藤井 裕万

(株) 藤井
業務課 課長

藤兼 大和

(株) 藤兼商店
常務取締役

堀 浩之

(株) 山本ビルアルファ旭町店
マネージャー

堀 直也

アトラス・サーベイ(株)
取締役

村井 正雄

医療法人恵心会
理事

山崎 五良

男山(株)
取締役

山田 知央

(株) ベリージャパン
専務取締役

山田 隼人

(株) サントラスト
代表取締役

山本 昌史

日本生命保険相互会社
営業部長

湯野 永知

旭川小型運輸(株)
専務取締役

横内 浩平

(株) オールブラン
代表取締役

若林 正城

アートホテル旭川
係長

渡部 康晴

(株) トーワ
代表取締役

渡邊 涼太

(株) NEXT HANDS
代表

卒業会員

13期

= 1963(S38) 年 =
前 川 通 泰

14期

= 1964(S39) 年 =
川 島 一 泰

20期

= 1970(S45) 年 =
石 坂 實

21期

= 1971(S46) 年 =
近 江 章 治
河 合 幸 治
山 内 和 夫

22期

= 1972(S47) 年 =
松 村 勝 弘

23期

= 1973(S48) 年 =
川 島 信 一
山 崎 正 英

25期

= 1975(S50) 年 =
木 幡 貢
能 登 将
村 井 千
盛 永 孝
矢 野 貞
吉 田 耕
和 田 三

26期

= 1976(S51) 年 =
佐 藤 欽 治
嶋 岡 邦 雄
出 崎 広 次

27期

= 1977(S52) 年 =
赤 坂 雄 一
秋 山 昌 平
浅 野 眞
田 下 勲
西 田

28期

= 1978(S53) 年 =
大 西 耕 司
後 藤 輝 雄
沢 栗 修 二
山 口 武 夫

29期

= 1979(S54) 年 =
上 草 義 輝
濱 口 勝 紀
福 田 謹 也
楊 睦 健

30期

= 1980(S55) 年 =
安 住 英 也
佐々木 邦 男
杉 尾 伸 夫
得 能 伸 一

31期

= 1981(S56) 年 =
大 谷 博
原 田 一 紀
山 下 忠 夫

32期

= 1982(S57) 年 =
進 藤 恭 司
菅 井 弘 明
高 橋 千 實
塚 本 昭 春
仲 山 義

33期

= 1983(S58) 年 =
犬 伏 雅 彦
北 岡 忠 男
篠 原 正 博
鈴 木 康 弘
須 藤 雄 一
武 田 昭 宏
武 蔵 弘 毅
山 蔵 洋
山 本 憲 彦
吉 川 昌 志

34期

= 1984(S59) 年 =
大 坪 敏
酒 井 孝
佐 藤 彦
田 村 三
山 本 郎
米 木 博
米 岩 雄

35期

= 1985(S60) 年 =
高 木 常 光
二 坂 弘 徹
山 内 弘 次

36期

= 1986(S61) 年 =
今 津 寛
桑 畠 夫
鈴 木 保
中 村 英
西 野 哲 敏
中 野 敏 哉
西 野 敏 夫

37期

= 1987(S62) 年 =
磯 野 哲 也
仙 座 正 猛
高 畠 川 淳
谷 島 孝
田 中 昌
水 吉 野 梅
吉 田 昌 弘

38期

= 1988(S63) 年 =
井 合 典 郎
表 岡 清 豊
片 村 幸 司
河 田 純 四
渋 田 伸 夫
原 井 政 道
藤 前 田 一
前 井 政 克

39期

= 1989(H1) 年 =
石 田 博 成
稻 井 有 誠
植 平 武 治
淤 見 信

川 島 崇 則
今 野 正 廣
出 口 絢 一
外 崎 絢 敏
外 山 雅 男
松 井 春 治
渡 部 俊 明

40期

= 1990(H2) 年 =
石 川 哲 男
重 原 幸 司
谷 川 良 裕
千 葉 新 次
中 川 竹 志
馬 場 康 博
三 嶋 幸 利
森 山 元 樹

41期

= 1991(H3) 年 =
市 田 敏 行
大 西 勝 一
金 田 英 鐘
木 村 進 一
今 野 一 尋
捧 鈴 範 行
鈴 丹 敏 治
丹 辻 俊 明
富 中 隆 明
西 憲 永 一

42期

= 1992(H4) 年 =
今 富 美 由 貴
淤 見 政 儀
柴 原 勝 彦
新 谷 龍 一
高 橋 仁 美
中 野 典 一
柳 原 正 司
山 崎 與 吉

43期

= 1993(H5) 年 =
明 石 芳 啓
大 場 清 宏
加 廣 泰 久
加 藤 礼 一

卒業会員

祐淳文二芳道之亮一
康 博信隆孝利 信
井沢木中山永腰車野
岸北鈴田西松宮六湯

44期
= 1994(H6) 年 =
井生軽国後藤松横
敏雅孝正諭文誠隆
内駒部本藤木田田

45期
= 1995(H7) 年 =
芦池大大工小此酒佐柴東菅中松宮森和
野田塚橋藤竹下井木
和和一光和晴俊通秀
範広則慶生文夫充彦美薫明実之彦典男

46期
= 1996(H8) 年 =
北久高那三村村米
野田島須輪田本田
明 成信一裕定泰

47期
= 1997(H9) 年 =
潮檉豊中野長福本宮山山由
原田野原川居間田内越良
日克 榮裕敦秀紀啓一一和
夫則誠二介彦雄佳男頼徳喜

48期
= 1998(H10) 年 =
明秋石泉奥甲媚佐々高藤山山
石島川川村斐山木崎兼崎田
秀和雄充章啓茂彰隆雅裕
一彦洋弘一二信宏司喜之彰

49期
= 1999(H11) 年 =
飯上大加佐々島上菅高長古三山
野田村納木田用原嶋川田浦本
雅勢尚好元光孝 裕力秀克明
司三史春朗博満司子也敏義弘

50期
= 2000(H12) 年 =
青芦荒 木野井 典隆保 彦治明

行一基二浩智
裕哲吾裕
瀧 川藤中邊
大金黒佐村渡

51期
= 2001(H13) 年 =
及河日小嶋久
川上下滝村木
浩 猛達卓利

52期
= 2002(H14) 年 =
石川江河越高高高田谷外永仁服樋三美山山吉和
井村夏野 尾倉島口川田矢部口谷馬内北田田
重寿秀忠健太 雄政克大光理康好 弘弘正和正
人裕則克郎勉司美規朗宏人已泰透治幸之美弘彦

53期
= 2003(H15) 年 =
石川江河越高高高田
井村夏野 健 尾 倉島島
重寿秀忠太 雄政克
人裕則克郎勉司美規

朗宏人已泰透治幸之美弘彦
大光理康好 弘弘正和正
口川田矢部 口 馬内北田田
谷外永仁服樋三美山山吉和

54期
= 2004(H16) 年 =
今加金小小嵯竹水三石稲内梅片田藤盛山
津藤 聖 孝英俊恵弘康勝佳芳 宏信裕喜俊
徳卓一博樹明美敏雅秀弘史司文也司之彦
関滝城村野井森田田 岡中田永崎

55期
= 2005(H17) 年 =
青荒稲大佐竹田信船宮村安和
木木尾垣藤内下田田崎井田田
孝信 孝一大正 雅為佳
典介太宏広秋海広徹之敦正亨

卒業会員

56期

= 2006(H18) 年 =

荒井 克 典
荒川 正 友 亘
来田 正 友 行
西村 上 義 稔
西上 平 義 浩
水山 悦 崇
山 子

57期

= 2007(H19) 年 =

伊藤 博 元
河沼 一 生
沼橋 純 雄
前本 光 毅
山城 晋 理
若井 賢 一
治

58期

= 2008(H20) 年 =

東阿 部 幹
大西 祐 之
佐木 直 肇
佐藤 友 人
高野 佳 泰
土岡 久 修
鶴島 賢 樹
寺里 幸 也
中木 幸 一
茂里 明 生
山木 宏 成
好井 泰

59期

= 2009(H21) 年 =

稲葉 忠 徹
植松 智 文
武田 賢 仁
千葉 榮 史
東堂 恵 功
中西 恵 一
馬場 明 理
本間 晃

60期

= 2010(H22) 年 =

安住 太 伸
小川 尚 孝
高橋 規 久
千森 真 也
西森 良 一
前森 和 実
米田 修 司
渡邊 千 晃

61期

= 2011(H23) 年 =

荒川 敬 大
大谷 善 彦
加藤 康 博
木村 哲 博
瀬村 博 弘
中川 弘 正
藤原 公 浩
本間 浩

62期

= 2012(H24) 年 =

飯塚 正 浩
石黒 裕 規
菊地 三 才
小林 睦 明
酒井 保 則
重原 浩 貴
高田 泰 慎
津山 隆 旭
土井 典 弘
富山 裕 仁
西居 尚 二
福居 本 晃
松本 晃

63期

= 2013(H25) 年 =

市川 範 之
落合 孝 優
鏡圭 圭 介
菊直 直 人
齊真 眞 美
齊三 三 寛
田三 三 郎
外三 三 二
藤三 三 光
昇

村山 本 曉 宣
山 賀 三 碩

64期

= 2014(H26) 年 =

赤坂 英 亮
石川 正 貴
稲田 慶 嗣
犬伏 良 輔
尾形 和 夫
金田 智 勝
小関 信 貴
近藤 聖 人
佐藤 博 之
白井 二 郎
蔦井 雅 仁
中井 章 義
野澤 史 匡
林平 史 郎
牧嶋 秀 樹
湯浅 典 昭

65期

= 2015(H27) 年 =

秋山 謙 弘
大澤 由 美
嶋岡 美 之
鈴岡 和 大
皆木 大 嗣
山崎 篤

66期

= 2016(H28) 年 =

今津 寛 介
入場 健 太
海野 正 郎
落合 夕 悠
喜野 光 行
木村 智 介
富目 克 宏
西子 智 弘
布川 智 敏
早沢 武 浩
平田 大 志
山田 生

67期

= 2017(H29) 年 =

加藤 二 宏
金上 史 輔
後藤 史 吾
榊原 介 弘
鈴木 幸 実
守木 司 基
守田 俊 俊
山添 正 宏
渡邊 正 宏

68期

= 2018(H30) 年 =

上田 積 典
上海 倫 介
川老 子 也
小島 和 祐
近藤 大 尚
斎藤 耕 章
助高 秀 太
長谷 健 弘
藤堀 周 子
松本 理 壽
山田 一 樹
本英 基 樹

69期

= 2019(H31/ 令和 1) 年 =

伊藤 美 郎
太工 森 弥
久保 敬 務
菅保 寛 人
西井 志
本脇 政 篤
森屋 後 志

昭和 36 年没
植 平 修 邦

昭和 38 年没
山 崎 清 隆

昭和 47 年没
多 田 一 彦

昭和 48 年没
小谷松 芳 雄

昭和 51 年没
川 島 魁太郎

昭和 52 年没
川 島 淳久郎
小 泉 涉

昭和 54 年没
早 川 和 男

昭和 55 年没
桜 井 良 一

昭和 57 年没
平 沼 芳 信

昭和 58 年没
花 輪 政 男
森 永 和 正

昭和 59 年没
阿 部 一 郎
阿 鏡 等
赤 川 武

昭和 60 年没
小河原 辰 也
山 崎 賢 二

昭和 61 年没
堀 井 昭 夫

平成元年没
山 川 寛
桑 原 功

平成 2 年没
松 岡 一 隆
里 見 俊太郎
大 西 功

平成 3 年没
竹 内 辰 久彦
工 藤 邦 彦

平成 4 年没
嶋 津 博 忠雄
長 沢 節 忠雄

平成 5 年没
高 橋 秀 治雄
吉 田 一 雄市
柴 田 孝 市

平成 6 年没
市 川 雅 英夫
中 原 照 夫

平成 7 年没
石 川 治 見章
水 上 章

平成 8 年没
高 松 王 一
山 田 克 一朝
安 田 義 朝

平成 9 年没
青 山 正 孝
藤 田 正 豊
上 原 登 一
加 藤 裕 一

平成 10 年没
高 尾 精 一

平成 11 年没
浅 野 昭 雄
山 田 實 栄
田 中 栄

平成 12 年没
長谷川 弥太郎
前 川 諄 一久
石 原 稔 俊
金 田 英 裕
中 村 栄 次
若 槻 栄 次

平成 13 年没
高 橋 昌 平
山 崎 与 吉
金 森 耕 造

山 崎 雄 二

平成 14 年没
吉 田 壽 美
廣 野 忠 雄
仲 山 隆 志
金 内 正 勲
棚 橋 孝 実
岩 田 正 実

平成 15 年没
岡 田 重 夫
森 山 元 一
今 井 重 登

平成 16 年没
山 本 達 男
大 橋 徹 夫
佐 藤 皖 一
岩 田 豊 實行
川 森 敏 史
清 水 一 史

平成 17 年没
五十嵐 一 大
長 谷 川 和 夫
堂 徳 城 郎

平成 18 年没
揚 原 静 男
小 林 全
森 沼 康 通
坪 本 英 雄
村 沼 龍 一

平成 19 年没
生 駒 二 朗
荒 井 武 宏
上 西 武 民
長 谷 部 進 也

平成 20 年没
内 藤 義 信
山 清 実

平成 21 年没
藤 田 祥 三
庫 山 智 志
植 平 卓 夫
辻 倉 修
松 間 幸
岩 智 夫

平成 22 年没
北 嶋 隆
安 藤 公 一
村 本 正
上 森 惇
岡 本 雄

平成 23 年没
進 藤 和 行

平成 24 年没
藤 井 諄 一
高 島 和 一
壁 地 義 長

平成 25 年没
伊 藤 春 夫
五 嵐 広 三
十 榎 山 亨
小 檜 清 司
佐 藤 英 治
高 橋 一
二 見 英 一

平成 26 年没
梶 原 薫
山 崎 志 良
米 田 公 彦
工 藤 一 夫
中 村 良 一

平成 27 年没
尾 田 一 夫
前 田 一 義
麻 生 繁
石 崎 忠 夫

平成 29 年没
山 岡 剛
加 藤 昌 樹
中 里 隆 吉
大 垣 巖
古 久 保 脩 一

平成 30 年没
内 藤 義 弘
西 田 正 博
東 郷 正 晴

平成 31/ 令和元年没
熊 谷 紳 介
中 村 克 則



あとがき

一般社団法人旭川青年会議所創立70周年記念誌の発行にあたり、原稿依頼や対談企画、情報提供等、多大なご協力をいただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

青年会議所の大きな特色である単年度制は、組織も事業も常に新陳代謝が繰り返され、所属会員に多くの機会を提供できる素晴らしい仕組みである反面、猪突猛進、前進あるのみの側面も強く、組織の歴史や軌跡、本質といったものに触れる機会が少ないのも事実です。

不連続の連続と称される青年会議所において、70年という歴史と向き合うことは大変意義深く、この度の記念誌の発行は、その作成過程において、まさに組織の歴史や軌跡というものを振り返り、知り、感じ、想いを馳せることができ、永年にわたり先輩諸氏が紡いでこられた歴史と伝統があるからこそ今があるということを再認識させていただく貴重な機会となりました。

現在は過去の積み重ねであり、現在の積み重ねの先に未来があります。

これまで輝かしい歴史と伝統を紡いでこられた先輩諸氏、記念誌作成の実務にご尽力いただいた多くの皆様、70年の軌跡のなかでご縁をいただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

一般社団法人旭川青年会議所 2020年度

第70代理事長 **新谷 逸生**



Junior Chamber International Japan

一般社団法人 旭川青年会議所

創立60・65・70周年記念誌「感謝」

発行日 2021年11月18日

発行所 一般社団法人旭川青年会議所
〒070-0043 旭川市常盤通1丁目
道北経済センタービル5階
TEL 0166-22-9815 FAX 0166-26-3235

発行人 第70代理事長 新谷 逸生
第71代理事長 尾野 洋介

取材・編集 2021年度 広報渉外委員会

構成・デザイン サンデンパ株式会社

印刷・製本 谷川印刷株式会社

一般社団法人旭川青年会議所は
持続可能な開発目標(SDGs)を
支援しています。



2006 - 2020

JCI Junior Chamber International Japan
一般社団法人 旭川青年会議所

事務局

〒070-0043 旭川市常盤通1丁目 道北経済センタービル5階
TEL 0166-22-9815 FAX 0166-26-3235



公式WEBサイト



公式facebookページ

WEBサイト <https://www.asahikawa-jc.or.jp/>

左のQRコードからアクセスできます！

JCI旭川

検索

PCからは「JCI旭川」で検索